埼玉県立近代美術館年報

平成３１／令和元年度

●

ANNUAL REPORT 2019——THE MUSEUM OF MODERN ART, SAITAMA

■目次

埼玉県立近代美術館　ミッション・ステートメント及び戦略目標 …… 3
施設 …… 4
美術館誌 …… 5
企画展
ブラジル先住民の椅子 …… 6
May I Start? 計良宏文の越境するヘアメイク …… 10
DECODE ／出来事と記録 …… 18
ニューヨーク・アートシーン …… 26
森田恒友展 …… 33
MOMASコレクション …… 44
MOMASコレクション［Ⅰ］…… 44
MOMASコレクション［Ⅱ］…… 46
MOMASコレクション［Ⅲ］…… 48
MOMASコレクション［Ⅳ］…… 51
サンデー・トーク …… 53
アーティスト・プロジェクト …… 54
収集事業 …… 56
新収蔵作品一覧 …… 57
美術資料貸出等一覧
美術作品の館外貸出 …… 73
特別利用 …… 75
教育・普及事業
美術館講座 …… 77
一般団体対応 …… 78
ファミリー鑑賞会 …… 79
子供のためのプログラム
MOMASのとびら …… 80
夏休みの特別プログラム …… 82
ミュージアム・コラボレーション …… 83
企画展ワークシートの作成 …… 84
学校との連携
教員美術講座 …… 86
ミュージアム・キャラバン事業 …… 87
その他の学校連携事業 …… 88
博物館実習 …… 89
美術館ボランティア
美術館サポーター …… 90
教育普及サポート・スタッフ …… 91
MOMAS彫刻ボランティア …… 91
広聴・広報・刊行物 …… 92
図書資料の収集と公開 …… 96
椅子の美術館 …… 96
ハイビジョン・コーナー …… 96
トピックス
[1] サポーターズ・チョイス！ー活動・展示報告ー …… 97
[2] 公募展「カラダで・みる、うごいて・みる！」 …… 102
[3] SMFとの連携 …… 104
埼玉県立近代美術館フレンド …… 105
貸館事業 …… 106
入館者数一覧 …… 108
名簿 …… 109

■埼玉県立近代美術館
ミッション・ステートメント及び戦略目標

埼玉県立近代美術館は世界の今を生きる全ての人のために存在します。

1　美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験を提供します。

①身近な視点から世界の今をみつめ、国境や言語を超えて共有される美術の素晴らしさを紹介します。

②出会い・発見・感動をキーワードに、新たな視点に基づく展示や美術の楽しさを体感できるプログラムを提供します。

③継続的な収集活動を通して特色あるコレクションを形成し後世に伝えます。また館内外での効果的な活用を通じてその魅力を紹介し付加価値を高めていきます。

④すべての美術館活動の基盤となる調査研究活動を重視します。

2　人々が集い、参加し、交流するための基地となります。

①魅力あるレストランやショップなど上質な空間とゆとりの時間を提供し、高齢者・障害者を含め誰もが利用しやすい環境を持った、居心地のよい美術館を目指します。

②美術に関する情報センターの役割を果たします。

③美術を愛する人々の交流や自主的活動を支援します。

3　未来を創る子どもたちの感性と創造力を育みます。

①子どもたちとともに生き生きとした感性と創造力の素晴らしさを再発見していきます。

②学校現場との連携を深め、学校による利用の促進を図ります。

4　地域や県民とともに進化する美術館を目指します。

①県民のニーズや時代の変化に対応して進化する美術館を目指します。美術館の情報を公開し改善に努めます。職員の意識改革を継続して行います。

②美術館の持つあらゆる資源（人・作品・施設等）を有機的・効果的に活用し、新たな顧客層を開拓するとともに、美術館を支援してくださる方々の輪を広げます。

③北浦和公園の活用も含め、美術館がまちのにぎわいの創出や地域の活性化に寄与するように努めます。

■施設

敷地面積　35,177 ㎡
建築面積　2,238 ㎡
延床面積　8,577 ㎡
展示壁長　1,440 m
建築高さ　17.8 m
構　　造　地上3階、地下1階、鉄筋コンクリート造、
　　一部鉄骨鉄筋コンクリート造
工　　期　昭和55年3月28日～昭和57年2月27日
設　　計　株式会社黒川紀章建築都市設計事務所
開　　館　昭和57年11月3日

黒川紀章設計の初の美術館である当館の建築上の特色を挙げると、建物全体がグリッド（格子）の立方体により構成されており、入口へのアプローチとして正面のエントランス・ポーチにグレーゾーン（内部と外部との中間領域）と呼ばれる鳥籠状の構造体が鳥のくちばしのようにつき出ている。その四角い形の固さを破るように、ファサード（建物正面）には波状の曲面ガラスがはめこまれている。

各階に分かれた展示室の一体感を確保するため、建物中央に4層を貫く吹き抜けのセンター・ホールが設けられた。ここは天井から自然光を採り入れるとともに、中空にさまざまな展示物を吊り下げることが可能で、極めて特異な空間としてコンサートなどのイベントにも使われる。

2階の展示室は、前述の波状ガラスによるファサードの一部から、ギャラリーの中に直接外光が入ってくる。これは、密閉して一定不変の人工光線による状態にするという美術館構造の常識を打破する試みである。ここからは北浦和公園の美しい緑を目にすることができ、密閉されることで失われがちな美術館の中での人間性を回復するという意味でも注目される。

開館後の 1985-86 年には、田中米吉の作品《ドッキング》が外壁など建築と共生するように設置された。

■美術館誌

平成 31（2019）年

4 月 6 日　企画展「ブラジル先住民の椅子」を開催（～5 月 19 日）。4 月 5 日にウエルカム・パーティーを実施、駐日ブラジル大使館文化担当書記官等が出席。

4 月 14 日　「見沼 100 年構想の会」による緑のボランティアが北浦和公園を整備（以降毎月第 2 日曜日）。

4 月 20 日　「MOMASコレクション［Ⅰ］」を開催（～7 月 21 日）。

令和元（2019）年

5 月 16 日　「ファミリー鑑賞会」を開催。

5 月 28 日　「第 69 回県展　埼玉県美術展覧会」を開催（～ 6 月 19 日）。

6 月 1 日　ポリスコンサートを北浦和公園で開催。

6 月 28 日　「第 1 回埼玉県立近代美術館フレンド理事会」を開催。

7 月 6 日　企画展「May I Start? 計良宏文の越境するヘアメイク」を開催（～ 9 月 1 日）。

7 月 27 日　「MOMASコレクション［Ⅱ］」を開催（～10 月 20 日）。

7 月 30 日　「第 1 回埼玉県立近代美術館利用審査会」を開催。

8 月 28 日　「第 1 回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。

9 月 14 日　企画展「DECODE ／出来事と記録ーポスト工業化社会の美術」を開催（～ 11 月 4 日）。

10 月 12 日　台風 19 号の影響により臨時休館（～ 10 月 13 日）。

10 月 26 日　「MOMASコレクション［Ⅲ］」を開催（～ 2 月 2 日）。

11 月 7 日　「ファミリー鑑賞会」を開催。

11 月 14 日　企画展「ニューヨーク・アートシーン　ロスコ、ウォーホルから草間彌生、バスキアまで ー滋賀県立近代美術館コレクションを中心に」を開催（～ 1 月 19 日）。

11 月 14 日　公募展「カラダで・みる、うごいて・みる！」入賞作品を上映（～3月29日の予定で開始）。

12 月 6 日　「ミュージアム・キャラバン」を騎西特別支援学校で開催。

12 月 20 日　「ミュージアム・キャラバン」を入間市立東金子小学校で開催。

令和 2（2020）年

2 月 1 日　企画展「森田恒友展　自然と共に生きて行かう」を開催（～ 3 月 22 日の予定で開始）。

2 月 6 日　「埼玉県立近代美術館美術資料選考評価委員会」による審査。

2 月 8 日　「MOMASコレクション［Ⅳ］」を開催（～ 4 月 19 日の予定で開始）。

2 月 13 日　「第 2 回埼玉県立近代美術館利用審査会」を開催。

2 月 29日　新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために臨時休館（～ 3 月 15 日）。

3 月 11 日　「第 2 回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。

3 月 16 日　新型コロナウイルス感染拡大防止の臨時休館期間を延長（当面の間とし年度内は休館継続）。

■企画展

■ブラジル先住民の椅子
Benches of the Brazilian Indigenous Peoples

■会期：2019 年 4 月 6 日（土）～ 5 月 19 日（日）
■主催：埼玉県立近代美術館、日本経済新聞社
■後援：駐日ブラジル大使館
■特別協力：ベイ出版
■協力：CBMM、JR 東日本大宮支社、FM NACK5
■観覧料:一般 1100 円（880 円）、大高生 880 円（710 円）（　）内は 20 名以上の団体料金
■入場者数：5,529 人
■広報印刷物：ポスター B2、ちらし A4（4 種類）／デザイン：松尾由佳（Nica）
■担当学芸員：渋谷拓、大越久子

B2 ポスター

■開催趣旨

南米大陸、ブラジル北部のアマゾン河やシングー川流域で暮らす先住民の人びと。彼らが作る一木造りの椅子は、動物のかたちや機能的なフォルムに独特な幾何学模様が施された、ユニークな造形作品である。先住民にとっての椅子は、元々は日常生活の中で使用したり、シャーマンによる儀式や結婚式等の特別な機会に用いたりするなど、彼らの生活や伝統、独自の神話と結びついており、コミュニティ内の文化的・社会的なシンボルでもあった。今日、彼らはコミュニティの外との繋がりから刺激を受けて、自然を眺める眼に自らのアイデンティティを求め、用途や伝統に縛られない、より多様で自由な表現を生み出している。

本展ではベイ・コレクションによるブラジル先住民の椅子約 90 点を紹介し、独自の感性から生まれた造形に、人間の豊かな想像力の発露を読み取ることをめざした。また、この展覧会のために監修者・樋田豊次郎氏が行った現地調査をもとに、メイナク族の制作や暮らしの様子をまとめた映像作品も会場の一角で上映した。

■カタログ
規格：15.5 × 21.5 ㎝、168 頁
内容：「開催に寄せて」アンドレ・コヘーア・ド・ラーゴ（駐日ブラジル大使）／「展覧会「ブラジル先住民の椅子」について」マリーザ・モレイラ・サーレス、トマス・アルヴィム（BEÏコレクション）／「アリクイの椅子」樋田豊次郎（東京都庭園美術館館長）／「Category A　伝統的な椅子ー実用性、しきたりに基づくー」、「Category B　動物形態の伝統的な椅子ー村で使用、宗教的効用ー」、「Category C　動物彫刻の椅子ー先住民としての存在証明、想像力ー」渋谷拓（埼玉県立近代美術館）／「モノの眼」中沢新一（人類学者）／「民族解説」大木香奈（東京都庭園美術館）／「作品解説」渋谷拓、大木香奈／作品リスト
翻訳：中山ゆかり、吉田美奈子、テッド・マック（オフィス宮崎）
編集：東京都庭園美術館、埼玉県立近代美術館、美術出版社 デザインセンター
編集協力：日本経済新聞社
編集制作：櫻井聖子、遊馬奈歩（美術出版社 デザインセンター）
デザイン：中村遼一、芳賀理子（美術出版社 デザインセンター）
発行：株式会社美術出版社
価格：2,400 円

■関連事業
・スペシャル・トーク「メイナクの兄弟との出会い」／樋田豊次郎（東京都庭園美術館館長、本展監修者）／2019年4月14日（日）15:00～16:00／講堂／無料／参加者47名
・スペシャル・ギャラリー・トーク「三沢厚彦、埼玉でブラジルの動物たちと出会う」／三沢厚彦（彫刻家・武蔵野美術大学特任教授）／2019 年 5 月 12 日（日）15：00 ～ 16:00／展示室／参加者：100 名

・担当学芸員によるギャラリー・トーク／①4月20日(土)、②5月11日(土)／大越久子／参加者：①15名、②26名

■広報記録

＜新聞＞

・告知：『読売新聞』2019年4月16日、5月7日／『埼玉新聞』2019年4月23日／『日本経済新聞』2019年4月2日、4月30日、5月15日／『朝日新聞』2019年5月7日

＜雑誌、ミニコミ誌等＞

・告知：『ビバ！アミーゴ』2019年3月1日／『ショッパー』2019年3月15日／『つくりびと』2019年4月1日／『彩の国だより』2019年4月1日／『定年時代』2019年4月1日／『バイラ』2019年4月12日／『アコレおおみや』2019年4月12日

＜テレビ、ラジオ＞

・J:COM 2019年4月12日

・TBSラジオ「なんでこないんすか。」2019年5月14日

＜WEB＞

・告知：『まいぷれ』2019年4月15日／『ShareArt』2019年2月21日／『美術手帖マガジン』2019年2月18日／『WEB版美術手帖』2019年2月10日／『Artagenda』2019年2月10日／『ホルベインアーチスト』2019年2月27日／『on visiting』2019年4月6日

■担当後記

◆ベイ出版は、ブラジルのサンパウロに拠点を持つ美術・建築関連の出版社。社名のベイ(BEÏ)は、ブラジルの先住民の言葉で「もう少し」という意味を持ち、物事の限界に挑み克服しようとする同社の精神を表している。彼らは、出版事業の一方で15年以上前から先住民の手がける椅子の収集を行い、すでに300点を超えるコレクションを有している。その中から選りすぐった90点を紹介した本展は、ブラジル国外で初めてブラジル先住民の椅子を展示する機会となった。ベイの活動の特色は、先住民による制作物を単なる標本資料として見るのでなく、ブラジル独自の現代的表現として認め、その造形美について評価・普及することを意図する姿勢にある。東京都庭園美術館と当館で開催する意義もそこにあった。先住民の椅子が注目されるきっかけとなったのは、サンパウロ・ビエンナーレの際にブースを設けてベイ・コレクションを展示し、海外の美術関係者を驚嘆させたことにある。制作者たちもそうした反響に自信を得て、自らの芸術資産を未来に継承発展させることに自覚を深めるようになった。民族の遺物や土産物にとどまらず、広くデザインの視野から自分たちの表現について考えたり、歴史を記録したりするようになったという。日本での展示ののち、ブラジルは大火事や新型コロナウイルスの流行に見舞われ、被害を被った民族があると聞く。その後の無事を祈らずにはいられない。

◆本展の会場構成について。先行する庭園美術館では、壁に沿って動物たちを配置し、展示室の中央に立つ観覧者たちを取り囲むような構成であった。それに対して埼玉では、全方向から動物たちを鑑賞できるように、人間の方が動物の周囲をめぐる配置にした。どの作品も顔の表情が豊かで魅力的だったが、なかには臀部の作りが素晴らしい作品もあり、そちらを正面に見立てて置いたものもあった。また、通常は外光が入る場所に作品を展示することは稀だが、今回はベイのご厚意により、北浦和公園に面したガラス面に沿って展示することもできた。この場所には鳥を中心に置き、空とつながる雰囲気を出したつもりである。

◆会期中のアンケートでは、作品の表現力や、作り手の環境や考え方に共感する意見が多々みられ、椅子を特色とする当館で展示した企画意図がおよそ伝わったと考えられる。その一方で、各作品の制作年代や素材、民族に関するより多くの説明資料や、実際に座れる椅子を求める声が少なからずあり、造形のみでその価値を伝えることには限りがあるとも感じさせられた。

◆会期中、当館では初めて、展示室内すべての作品の撮影を許可した。そのため来場者の滞室時間もおしなべて長くなった。上下左右さまざまなアングルから作品を観察してもらうことは大歓迎だったが、写真を「買う」必要がないためか、カタログの売れ行きが思うほどは伸びなかったのが誤算であった。　（大越久子）

会場風景

会場風景

■出品リスト

・出品作品はすべて、BEÏコレクション所蔵です。
・出品作品についてのデータは、BEÏコレクションから提供された資料を基にしています。

No.	モチーフ	民族	作者	寸法（高さ×幅×長さ）
Category A　伝統的な椅子 ―実用性、しきたりに基づく―				
01	無文様	アスリニ・ド・シングー	不詳	17 × 29 × 30 cm
02	無文様	イエクワナ	不詳	35 × 28 × 65 cm
03	無文様	カヤビ	不詳	24 × 21 × 46 cm
04	カメ	リクバツァ	不詳	14 × 41 × 43 cm
05	カメ	リクバツァ	不詳	15 × 42 × 45 cm
06	カメ	リクバツァ	不詳	17.5 × 21.3 × 30.5 cm
07	幾何文様	アスリニ・ド・シングー	不詳	33 × 33 × 47 cm
08	幾何文様	アスリニ・ド・シングー	不詳	37 × 27 × 30 cm
09	幾何文様	アスリニ・ド・シングー	不詳	34 × 28 × 46 cm
10	幾何文様	カヤビ	不詳	21 × 20 × 67 cm
11	幾何文様	カラジャ	不詳	13 × 15 × 60 cm
12	幾何文様	カラジャ	不詳	14 × 16 × 70 cm
13	幾何文様	カラジャ	不詳	20 × 20 × 75 cm
14	幾何文様	トゥカノ	不詳	22 × 23 × 60 cm
15	幾何文様	メイナク	不詳	30 × 35 × 40 cm
16	幾何文様	ワイワイ	不詳	20 × 23 × 46 cm
Category B　動物形態の伝統的な椅子 ―村で使用、宗教的効用―				
17	ジャガー	イエクワナ	不詳	25 × 27 × 120 cm
18	ジャガー	カラパロ	不詳	48 × 55 × 143 cm
19	ジャガー	ユージャ	不詳	24 × 33 × 62 cm
20	ワニ	クイクロ	タワク	30 × 29 × 78 cm
21	サル	カマユーラ	不詳	35 × 32 × 69 cm
22	サル	クイクロ	不詳	46.5 × 42 × 111.5 cm
23	アルマジロ	クイクロ	不詳	41 × 37 × 73 cm
24	ネズミ	カヤビ	不詳	9 × 10 × 58 cm
25	カエル	カマユーラ	ヤワピ	29 × 22 × 58 cm
26	カエル	クイクロ	ウリサパ	30 × 44 × 77 cm
27	コウモリ	メイナク	不詳	30 × 20 × 54 cm
28	カオグロナキシャクケイ	ワウジャ	不詳	43 × 36 × 105 cm
29	双頭のオウギワシ	不詳	不詳	49 × 51 × 120 cm
30	オウギワシ	メイナク	アパリタ	56 × 50 × 90 cm
31	オウギワシ	メイナク	ウルフ	51 × 45.5 × 110 cm
32	コンドル	カマユーラ	ヤワピ	25 × 28 × 56 cm
33	コンドル	カラパロ	不詳	25 × 28 × 65 cm
34	コンドル	メイナク	不詳	28 × 35 × 88.5 cm
35	コンドル	不詳	不詳	29 × 25 × 66 cm
36	ホウカンチョウ	クイクロ	カナリ	43 × 43 × 91 cm
37	ホウカンチョウ	メイナク	ウルフ	40 × 37 × 87 cm
38	ズグロハゲコウ	カマユーラ	ヤワピ	47 × 41 × 92 cm
39	ハチドリ	カマユーラ	ヤワピ	40 × 43 × 87 cm
40	ハチドリ	パリクール	不詳	22 × 16 × 73 cm
41	エイ	カラパロ	不詳	44 × 62 × 82 cm
42	エイ	メイナク	クリクールダ	39 × 38 × 73 cm
43	エイ	メイナク	不詳	15 × 20 × 53 cm
44	エイ	メイナク	不詳	15 × 20 × 52 cm
Category C　動物彫刻の椅子 ―先住民としての存在証明、想像力―				
45	ジャガー	カマユーラ	ヤワピ	35 × 30 × 119 cm
46	ジャガー	カマユーラ	スクリ	52 × 37 × 158 cm
47	ジャガー	カマユーラ	スクリ	28 × 23 × 114 cm
48	ジャガー	カマユーラ	スクリ	18 × 24 × 79 cm
49	ジャガー	クイクロ	不詳	22 × 16 × 74.5 cm
50	ジャガー	ナフクワ	カラナイ	28 × 22 × 54 cm
51	ジャガー	メイナク	ウルフ	66 × 54 × 165 cm

No.	モチーフ	民族	作者	寸法（高さ×幅×長さ）
52	ジャガー	メイナク	カフ	19 × 13 × 61 cm
53	ジャガー	メイナク	カフ	18 × 13 × 64 cm
54	ジャガー	メイナク	カワカナム＆ヤルル	46 × 32 × 114 cm
55	ジャガー	メイナク	不詳	12 × 18 × 60 cm
56	ジャガー	メイナク	不詳	19 × 11 × 45 cm
57	ジャガー	ヤワラピィティ	ピラクマ	51 × 40 × 127 cm
58	ハナグマ	メイナク	カフ	15 × 20 × 68 cm
59	ハナグマ	メイナク	メイクーチ	15 × 12 × 64 cm
60	ハナグマ	メイナク	メイクーチ	18 × 13 × 73 cm
61	シカ	メイナク	ウルフ	48 × 40 × 127.5 cm
62	シカ	メイナク	ウルフ	29 × 13 × 58 cm
63	バク	カマユーラ	ヤワピ	33 × 41 × 95 cm
64	バク	カマユーラ	不詳	43 × 33 × 98 cm
65	バク	カヤビ	不詳	13 × 13 × 51 cm
66	バク	メイナク	アパリタ	73 × 49 × 135 cm
67	バク	メイナク	エッツィリ	40 × 43 × 135 cm
68	バク	メイナク	カワカナム	22 × 16 × 53 cm
69	バク	メイナク	クータピエネ	44 × 44 × 128 cm
70	バク	メイナク	ヤタピ	22 × 17 × 50 cm
71	バク	メイナク	ヤタピ	22 × 18 × 47 cm
72	バク	メイナク	ユルペ	44 × 55 × 133 cm
73	アリクイ	メイナク	ウルフ	59 × 53 × 183 cm
74	アリクイ	メイナク	ウルフ	60 × 55 × 183 cm
75	アリクイ	メイナク	ウルフ	47 × 44 × 137 cm
76	アリクイ	メイナク	メイクーチ	52 × 49 × 177 cm
77	アリクイ	メイナク	メイクーチ	16 × 11 × 63 cm
78	アリクイ	メイナク	不詳	40 × 36 × 133 cm
79	サル	メイナク	カワカナム	21 × 14 × 42 cm
80	サル	メイナク	カマルヘ	57 × 64 × 130 cm
81	サル	メイナク	マイヤワリ	33 × 33 × 100 cm
82	サル	メイナク	マワヤ	22 × 15 × 63 cm
83	サル	メイナク	ヤタピ	21 × 17 × 61 cm
84	カピバラ	メイナク	ウルフ	57 × 44 × 109 cm
85	カピバラ	メイナク	不詳	20 × 13 × 35 cm
86	アルマジロ	タピラペ	不詳	28 × 25 × 77 cm
87	アグーチ	ワイワイ	不詳	14 × 14 × 32 cm
88	カメ	タピラペ	不詳	22 × 26 × 48 cm
89	カメ	タピラペ	不詳	23 × 31 × 65 cm
90	カメ	タピラペ	不詳	22 × 18 × 41 cm
91	ウミガメ	メイナク	アパリタ	47 × 47 × 94 cm
92	魚	タピラペ	不詳	15 × 12 × 65 cm

●映像資料

「ブラジル先住民が語るメイナク族と椅子」（約 25 分）

「ブラジル先住民の椅子」（約 12 分）

■ May I Start? 計良宏文の越境するヘアメイク

■会期：2019 年 7 月 6 日（土）～ 9 月 1 日（日）
■主催：埼玉県立近代美術館
■特別協力：株式会社資生堂
■制作協力：株式会社クラフティ、株式会社七彩、株式会社カラーサイエンスラボ
■協力：JR 東日本大宮支社、ＦＭ ＮＡＣＫ５
■会場構成：海法圭（海法圭建築設計事務所）
■観覧料:一般 1100 円（880 円）、大高生 880 円（710 円）（　　）は団体 20 名以上の料金
■入場者数：8,902 人
■広報印刷物：ちらし A2 ／デザイン：田中義久
■担当学芸員：大浦周、鴫原悠

A2 ちらし

■開催趣旨

ヘアスタイリングとメイクアップの両方を指す「ヘアメイク」は、美容やファッションの領域だけでなく、映像や舞台、パフォーミングアーツなど、今日のさまざまな表現に不可欠である。その施術者＝ヘアメイクアップアーティストの技術と美意識は、単に表現の裏方としてではない、クリエーションとしての価値と魅力を持っている。

この展覧会では、ヘアメイクアップアーティスト・計良宏文の仕事を通して、ヘアメイクの現在と可能性を新たな視点から捉えることを目指した。計良は宣伝広告や雑誌のヘアメイクを数多く手がけ、パリコレクションをはじめ国内外のファッションショーでヘアチーフを務めるなど、ファッション＆ビューティーの最前線で活躍する一方、近年は現代美術など他領域のアーティストと積極的に協働し、ヘアメイクの概念を刷新する活動を展開している。

展示では、広く知られる宣伝広告などの仕事から、計良がヘアメイクを担当した森村泰昌の作品や、かしら（頭部）を制作した文楽人形など、従来のヘアメイクの枠を超える挑戦的な仕事まで、計良のクリエーションの全貌を紹介した。また、ファッションデザイナー・坂部三樹郎との共作による大規模な新作映像インスタレーション《FACE》も本展のために制作・発表された。

■カタログ

規格：A4（29.7 × 21.0cm）4 冊組、スリーブケース入
執筆：森村泰昌、勘禄、勅使河原城一、大浦周、鴫原悠
デザイン：田中義久、谷川佳子
編集：埼玉県立近代美術館［大浦周、鴫原悠］
発行：埼玉県立近代美術館
価格：2,160 円（税込）

■関連事業

・トークライブ　計良宏文×髙崎卓馬（株式会社電通エグゼクティブ･クリエーティブディレクター）／7 月 12 日（金）14 時 30 分～ 16 時／講堂／定員 80 名（当日先着順）／参加者：40 名
・トークライブ　計良宏文×坂部三樹郎（MIKIO SAKABE デザイナー）／8 月 18 日（日）14 時 30 分～ 16 時／講堂／定員 80 名（当日先着順）／参加者：80 名
・ヘアメイクライブ（展示室内に設置したステージで計良がヘアメイクの実演を行った）／① 7 月 15 日（月・祝）② 8 月 6 日（火）両日とも 11 時～ 11 時 30 分、15 時～ 15 時 30 分の 2 回開催／企画展示室／定員 50 名（整理券制）／参加者：計 230 人
・計良宏文滞在制作（展示室内で計良が文楽人形のかしらを制作した）／ 7 月 20 日（土）10 時～ 17 時／企画展示室／参加者：225 人
・ギャラリーツアー(計良と担当学芸員のギャラリートーク)／ 8 月 3 日（土）15 時～ 16 時　計良宏文、大浦周／企画展示室／参加者：35 人

■広報記録

＜新聞＞

・「ヘアメイク　まさにアート」『読売新聞』2019年6月23日
・『Japan Times』2019年6月30日
・森田睦「メイクの境界自在」『読売新聞』2019年7月17日夕刊
・松沢奈々子「ヘアメイクで超えていく　他分野でのコラボを個展で」『朝日新聞』2019年7月18日夕刊
・「多彩なコラボ　広がる可能性」『新潟日報』2019年7月18日
・小出菜津子「美への新たな挑戦」『埼玉新聞』2019年7月23日
・長谷川陽子「ヘアメイクの枠超え 美を表現」『朝日新聞』2019年8月29日
・告知:『埼玉新聞』2019年6月25日、7月2日、7月9日、8月6日、8月27日／『朝日新聞』2019年7月2日、7月16日、8月20日／『東京新聞』2019年7月4日、8月22日／『読売新聞』2019年7月9日、7月16日、7月23日、8月20日／『公明新聞』2019年7月10日／『上毛新聞』2019年7月23日

＜雑誌、ミニコミ誌等＞

・浦島茂世「ヘアメイクとアートの夢の競演！」『OZ magazine』2019年8月号、7月12日
・「ヘアメイクの枠を壊す計良宏文の仕事」『装苑』2019年9月号、7月26日
・『Hanako』2019年9月号、7月26日
・告知:『VIVAアミーゴ』2019年6月28日／『リビングさいたま』2019年6月28日／『アコレ大宮』2019年7月8日／『たまログ』2019年7月号、7月1日／『ショッパー』2019年7月12日、7月19日／『藝術新潮』2019年8月号、7月25日／『ぱど』2019年7月26日／『定年時代』2019年8月1日／『婦人画報』2019年8月1日／『だいすき埼玉』2019年8月1日／『月刊ブレーン』2019年9月1日

＜ WEB ＞

・『Fashionsnap.com』2019 年 6 月 14 日
・『SPICE』2019 年 6 月 14 日
・『ShareArt』2019 年 6 月 18 日
・『Japandesign』2019 年 6 月 18 日
・『Holbein artistnavi』2019 年 6 月 25 日
・『ezpress』2019 年 6 月 29 日
・『コンフォルト』2019 年 7 月 2 日
・『SHOOTING MAGAZINE』2019 年 7 月 2 日
・『ぴあぽいんと』2019 年 7 月 20 日
・『Katycom』2019 年 7 月 18 日
・杉江あこ「artscapeレビュー」『artscape』2019年7月21日
・『ウーマンライフ』2019年7月22日
・『Timeout Tokyo』2019年8月6日
・坂田大作「Editor's Blog ヘアメイクは現代の鎧兜?」『SHOOTING MAGAZINE』2019年8月7日
・『Sightseeing Japan』2019年8月25日

＜テレビ、ラジオ＞

・NHK「日曜美術館・アートシーン」2019年7月28日
・テレビ埼玉「テレ玉ニュース」2019年7月12日

■担当後記

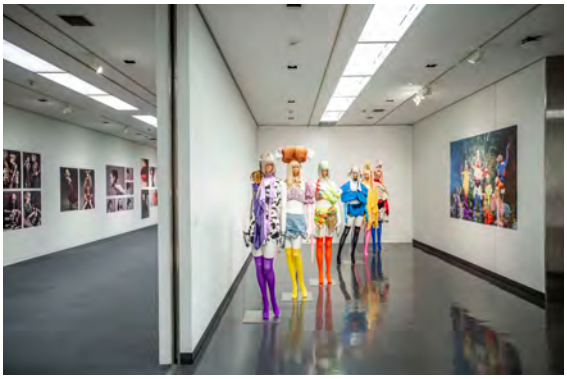
◆近年、美術館が扱う対象が加速度的に多様化し、従来的なオーソドキシーにとらわれない様々な展覧会が開催されているが、ヘアメイクアップアーティストの公立美術館での個展は日本初である。本展の隣接領域といえるファッションやデザインの展覧会であれば、成果物としての衣服やプロダクトがあり、それらを中心とした展示の見せ方にも前例の蓄積がある。一方でヘアメイクは生身の人間に施されるもので、生まれては消える刹那的なものといえる。これを長期間で固定的な「展覧会」というフォーマットでいかに見せるか。この点がこれまで美術館での開催例のない領域を扱う本展の最初の課題であった。

◆その上で、ヘアメイクそれ自体をクリエーションとして明確に位置づけ、鑑賞者に伝えることのできる内容と構成を目指した。ヘアメイクは今日の様々な表現に欠かすことのできないものでありながら、協働者のクリエーションの背後に隠れがちである。クオリティの高い宣伝広告の仕事から、従来のヘアメイクの枠を超える挑戦的な取り組みまで、幅広くかつ「越境」的な計良氏の仕事を、ひと続きの鑑賞体験として提供することによって、ヘアメイクの価値と魅力を実感できる展示を作ることが本展の大きな目的であり意義であると考えた。

◆従来的な美術作品の展示手法にもとづくスキームでは、このような課題・目的をクリアするのに不十分であると考え、本展の会場構成を建築家の海法圭氏に依頼した。海法氏による会場構成は、展示会場を奥に進むほど越境性が深まるように設定され、協働する作家やデザイナーのクリエーションや世界観の独立性を担保しつつ、展示風景としてはひとつながりに重なって見える緻密なものであった。計良氏の手業を手繰るように展示を見進めることで、その世界観や美意識が徐々に鑑賞者に伝わる構成が意図されていた。ちなみに、美術館外の協力者による会場構成は当館にとって初めての試みであったが、期待以上の成果を得ることができた。

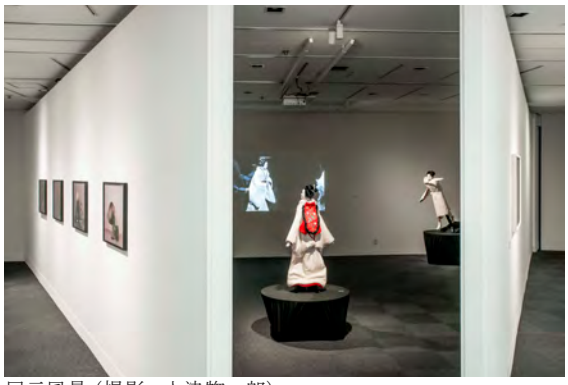
◆本展はこれまで計良氏と仕事を共にしてきた多くの方の惜しみないご協力によって実現したが、中でも坂部三樹郎氏と計良氏の協働による新作の映像インスタレーション《FACE》は特記すべき成果といえる。人の顔や表情、それが他者に与える印象など、「化粧」や「装い」にかかわる根源的な問いを出発点として制作された大規模なインスタレーションは、この二人の協働でなければなしえない、展覧会の核となる重要な作品となった。

◆会期中は老若男女を問わず幅広い層の来場を得たが、とくにファッション・ビューティーに携わる関係者の来場が多い印象であった。一方で、会場出口に設置したアンケート結果等から、これまでヘアメイクに関心を持っていなかった鑑賞者にも、この領域への関心を喚起できたという手ごたえを得た。本展タイトルの「May I Start?」は、計良氏がファッションショーのバックステージでヘアメイクを施す前にモデルにかける言葉からとっているが、今まさに彼がスタートさせた新たな挑戦の数々を目撃してほしい、という計良から鑑賞者への呼びかけでもあった。そのタイトルに違わず、新たな領域の魅力を発信する機会とできたと考えている。（大浦周）


展示風景（撮影：水津惣一郎）

展示風景（撮影：水津惣一郎）

展示風景（撮影：水津惣一郎）


展示風景（撮影：水津惣一郎）

■出品リスト

0

メイキング映像
制作：荒木隆久

1

1-1~4
Which is your Giulietta?
Alfa Romeo『I AM GIULIETTA. THE DRIVE ART EXHIBITION 2012』
photo: Joichi Teshigahara
stylist: Yuki Mayama
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-5
造形美／上昇
『HAIR MODE』2011年8月号
photo: Masaya Kudaka
model: MILI(AMAZONE)
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-6
造形美／ボリューム
『HAIR MODE』2012年2月号
photo: Masaya Kudaka
model: MILI(AMAZONE)
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-7
造形美／不定形
『HAIR MODE』2012年5月号
photo: Masaya Kudaka
model: MILI(AMAZONE)
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-8
造形美／スクエア
『HAIR MODE』2011年7月号
photo: Masaya Kudaka
model: MILI(AMAZONE)
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-9
造形美／下降
『HAIR MODE』2011年9月号
photo: Masaya Kudaka
model: MILI(AMAZONE)
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-10
造形美／サークル
『HAIR MODE』2011年6月号
photo: Masaya Kudaka
model: MILI(AMAZONE)
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-11,12
『HAIR MODE』2013年6月号
photo: Joichi Teshigahara
stylist: Yuki Mayama
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-13~18
Party『reQuest QJ』2010年12月号
photo: Joichi Teshigahara
stylist: Seiko Irobe
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-19, 20
『IZANAGI』2014年6月号
photo: Joichi Teshigahara
stylist: Seiko Irobe
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-21
『BOB』2008年9月号
photo: Joichi Teshigahara
stylist: Mio Kiyomiya
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-22
『HAIR MODE』2009年6月号（表紙）
photo: Osamu Yokonami
stylist: Yuki Mayama
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-23
『HAIR MODE』2009年5月号（表紙）
photo: Toshi Hirakawa
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-24
『HAIR MODE』2009年4月号（表紙）
photo: Joichi Teshigahara
stylist: Seiko Irobe
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-25
『花椿』2006年8月号
photo: Joichi Teshigahara
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-26
『花椿』2010年5月号
photo: Joichi Teshigahara
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-27~29
『IZANAGI』2018年4月号
photo: Joichi Teshigahara
stylist: Seiko Irobe
model: Carson(Bravo Model)
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-30~32
『IZANAGI』2015年4月号
photo: Joichi Teshigahara

stylist: Seiko Irobe
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-33,34
『Hyakunichiso』2009年12月号
photo: Joichi Teshigahara
stylist: Seiko Irobe
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-35,36
Beauty Graphics展2015
photo: Masato Kanazawa
stylist: Sachiko Ito
hair: Hirofumi Kera
makeup: Ikuko Shindo
AD: Katsura Marubashi

1-37
『reQuest QJ』2016年6月号
photo: Joichi Teshigahara
stylist: Seiko Irobe
model: Kurumi Emond
(Be Natural), Ruka(Vithmic)
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-38
『reQuest QJ』2016年6月号
photo: Joichi Teshigahara
stylist: Seiko Irobe
model: Ruka(Vithmic)
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-39
『reQuest QJ』2016年6月号
photo: Joichi Teshigahara
stylist: Seiko Irobe
model: Kurumi Emond(Be Natural)
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-40
TSUBAKI広告
photo: Kei Ogata
model: Anne
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-41
TSUBAKI広告
photo: Kei Ogata
stylist: Sonia Park
model: Ryoko Hirosue
hair: Hirofumi Kera
makeup: Mika Yamato

1-42
TSUBAKI広告
photo: Satoshi Saikusa
model: Yuri Ebihara
hair: Hirofumi Kera
makeup: Rena Takeda

1-43
TSUBAKI広告
photo: Hajime Watanabe
model: Haru Kuroki
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-44
TSUBAKI広告
photo: Ryan McGinley
model: Jun Hasegawa
hair: Hirofumi Kera
makeup: Ai Nieda

1-45
TSUBAKI広告
photo: Kei Ogata
model: Yu Aoi
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-46
DOLCE ROSA EXCELSA(DOLCE & GABBANA)広告
photo: Victor Demarchelier
model: He Cong(IMG Italy)
hair: Hirofumi Kera
makeup: Miyako Okamoto

1-47
DOLCE EAU DE PARFUM(DOLCE & GABBANA)広告
photo: Victor Demarchelier
model: Giulia Meanza(Why Not)
hair: Hirofumi Kera
makeup: Miyako Okamoto

1-48
DOLCE GARDEN (DOLCE & GABBANA)広告
photo: Victor Demarchelier
model: Chiara Scelsi(Women Models)
hair: Hirofumi Kera
makeup: Miyako Okamoto

1-49
White Lucent広告
photo: Ben Hassett
model: SUI HE
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-50
AUPRES広告
photo: TAKAY
model: Sun Li
hair: Hirofumi Kera
makeup: Sawako Yuri

1-51~58
ISSEY MIYAKE
photo: Yuriko Takagi
hair&makeup: Hirofumi Kera

1-59
蜷川実花
Untitled(DEMPAGUMI.inc)

2011
photo: Mika Ninagawa
costume design: Mikio Sakabe
model: DEMPAGUMI.inc
hair&makeup: Hirofumi Kera, Joji Taniguchi, Tomomi Shibusawa, Yuriko Hirose, Teruaki Shinjo, Asami Nishizawa
作家蔵

1-60~64
でんぱ組.inc　ウィッグ
2011
making: Hirofumi Kera

1-65
でんぱ組.inc「いのちのよろこび」
CD ジャケット
2019
photo: Eiki Mori
costume design: Jenny Fax
model: DEMPAGUMI.inc
hair&makeup: Hirofumi Kera, Yuka Ishizuka, Madoka Nakagawa, Yuka Fukano, Yuko Terada, Rei Matsui

1-66~71
でんぱ組.inc「いのちのよろこび」コスチューム、ウィッグ
2019
costume design: Jenny Fax
hair&makeup: Hirofumi Kera
コスチューム：株式会社トイズファクトリー蔵

2

LIMI feu（デザイナー　山本里美）

2-1　計良宏文
ヘアフォン
（LIMI feu 2009 年春夏パリコレクションで使用）
株式会社ヨウジヤマモト蔵

2-2　LIMI feu
2018 年秋冬コレクション
ヘアメイク：計良宏文
株式会社ヨウジヤマモト蔵

2-3　LIMI feu
2018 年秋冬コレクション
ヘアメイク：計良宏文
株式会社ヨウジヤマモト蔵

2-4　LIMI feu
2009 年春夏コレクション　ルックブック
株式会社ヨウジヤマモト蔵

2-5　LIMI feu
2009 年春夏パリコレクション
映像
株式会社ヨウジヤマモト蔵

ANREALAGE（デザイナー　森永邦彦）

2-6　ANREALAGE
2018 年秋冬パリコレクション「PRISM」
映像

2-7　ANREALAGE
2017 年秋冬パリコレクション「ROLL」
映像

2-8
プリズム状光学フィルム　SOLF

2-9　ANREALAGE
2018 年秋冬コレクション「PRISM」インヴィテーション
株式会社アンリアレイジ蔵

2-10　計良宏文
2018 年秋冬コレクション「PRISM」のためのヘッドピース
（別ヴァージョン）

2-11　ANREALAGE
2018 年秋冬コレクション「PRISM」
ヘッドピース制作・メイク：計良宏文
株式会社アンリアレイジ蔵

2-12　計良宏文
2017 年秋冬コレクション「ROLL」のための試作ヘッドピース

2-13　ANREALAGE
2017 年秋冬コレクション「ROLL」インヴィテーション
株式会社アンリアレイジ蔵

2-14　計良宏文
2017 年秋冬コレクション「ROLL」のためのウィッグ

2-15　ANREALAGE
2017 年秋冬コレクション「ROLL」
ウィッグ制作：計良宏文
株式会社アンリアレイジ蔵

SOMARTA（デザイナー　廣川玉枝）

2-16　SOMARTA
2019 年春夏コレクション「PRIMITIVE」インヴィテーション
SOMA DESIGN 蔵

2-17
中峠式縄文土器
花積貝塚（埼玉県春日部市）出土
紀元前 3000 年頃
埼玉県教育委員会蔵

2-18
勝坂式縄文土器
新田東遺跡（埼玉県毛呂山町）出土
埼玉県教育委員会蔵

2-19　SOMARTA
2019 年春夏コレクション「PRIMITIVE」
ヘアメイク：計良宏文
SOMA DESIGN 蔵

2-20　計良宏文
2019 年春夏コレクション「PRIMITIVE」のためのヘッドピース
（別ヴァージョン）

2-21　廣川玉枝
2019 年春夏コレクション「PRIMITIVE」ヘアメイクのためのイメージドローイング
SOMA DESIGN 蔵

2-22　廣川玉枝
2019 年秋冬コレクション「MOON」ヘアメイクのためのイメージドローイング
SOMA DESIGN 蔵

2-23　SOMARTA
2019 年春夏コレクション「PRIMITIVE」ルックブック
ヘアメイク：計良宏文
SOMA DESIGN 蔵

2-24　SOMARTA
2019 年春夏コレクション「PRIMITIVE」
ヘアメイク：計良宏文
SOMA DESIGN 蔵

2-25　計良宏文
「SOMARTA × smart fortwo」のためのヘア

2-26　計良宏文
「SOMARTA × smart fortwo」のためのヘッドピース

writtenafterwards（デザイナー　山縣良和）

2-27　writtenafterwards
2016 年秋冬コレクション「gege」
映像

2-28　writtenafterwards
2016 年秋冬コレクション「gege」インヴィテーション
ヴィジュアル：小西紀行

2-29　小西紀行
無題
2014
紙に油彩
ANOMALY 蔵

2-30　writtenafterwards
2016 年秋冬コレクション「gege」
株式会社リトゥンアフターワーズ蔵

2-31　計良宏文
2016 年秋冬コレクション「gege」特殊メイクのための石膏原型

2-32　計良宏文
2016 年秋冬コレクション「gege」特殊メイクパーツ

2-33　writtenafterwards
2016 年秋冬コレクション「gege」
メイク：計良宏文
株式会社リトゥンアフターワーズ蔵

2-34　計良宏文
2016 年秋冬コレクション「gege」特殊メイクパーツ

MIKIO SAKABE（デザイナー　坂部三樹郎）

2-35, 36　坂部三樹郎
2018 年春夏コレクション　ヘアメイクのためのイメージドローイング

2-37　MIKIO SAKABE
2018 年春夏コレクション
ヘアメイク：計良宏文
株式会社ミキオサカベ蔵

2-38　計良宏文
2018 年春夏コレクションのためのウィッグ

2-39　MIKIO SAKABE
2018 年春夏コレクション
ヘアメイク：計良宏文
株式会社ミキオサカベ蔵

2-40　計良宏文
2018 年春夏コレクションのためのウィッグ

2-41　MIKIO SAKABE
2018 年春夏コレクション
映像

2-42　計良宏文×坂部三樹郎
FACE
2019
マルチチャンネル・ヴィデオインスタレーション
（映像 39 点、各 3 分）

3

3-1　森村泰昌
侍女たちは夜に甦るⅤ：遠くの光に導かれ闇に目覚めよ
2013
株式会社資生堂蔵

3-2　森村泰昌
侍女たちは夜に甦るⅥ：王国の絵画、絵画の王国
2013
株式会社資生堂蔵

3-3　森村泰昌
絵画の国に住む（王妃）
2013
作家蔵

3-4　森村泰昌
絵画の国に住む（国王）
2013
作家蔵

3-5　森村泰昌
絵画の国に住む（傾く侍女）
2013
作家蔵

3-6　森村泰昌
絵画の国に住む（本を踏むニコラシーリョ）
2013
作家蔵

3-7　森村泰昌
絵画の国に住む（王女）
2013
作家蔵

3-8　森村泰昌
絵画の国に住む（跪く侍女）
2013
作家蔵

3-9　森村泰昌
絵画の国に住む（すべてを知る人）
2013
作家蔵

3-10　森村泰昌
絵画の国に住む（画家）
2013
作家蔵

3-11　森村泰昌
自画像の美術史（デューラーの手は、もうひとつの顔である）
2016
作家蔵

3-12　森村泰昌
自画像の美術史（カラヴァッジョ／マタイとは何者か）
2016
作家蔵

＊3-1~12 ヘア：計良宏文／メイク：森村泰昌、谷口丈児

3-13
文楽人形（マイヒン）
かしら制作：計良宏文
勘緑氏蔵

3-14
文楽人形（ケーラ）
かしら制作：計良宏文
勘緑氏蔵

3-15
文楽人形（ココン）
衣装制作：田村香織
かしら制作：計良宏文
勘緑氏蔵

3-16
Shiseido Professional Beauty Congress 2019
モデル：那須ミラノ
人形：勘緑（木偶舎）
音楽：スタン・デュゲ（チェロ）、平本正宏（作曲、ピアノ）
ヘアメイク：計良宏文
スタイリスト：色部聖乎
衣装協力：SAPHIR EAST(LYUMME)、ココティエ

3-17　計良宏文×勅使河原城一
Flowers　わたしを咲かせなさい
2016
撮影：勅使河原城一
ヘアメイク：計良宏文
スタイリスト： Takao
スタイリング：計良宏文、勅使河原城一
モデル： 松岡モナ（Image）

3-18　計良宏文×勅使河原城一
Flowers　わたしを咲かせなさい
2016
撮影：勅使河原城一
ヘアメイク：計良宏文
スタイリング：計良宏文、勅使河原城一
モデル： KIMI （ZUCCA）

3-19　計良宏文×勅使河原城一
Flowers 2019
2019
撮影：勅使河原城一
ヘアメイク：計良宏文
スタイリング：計良宏文、勅使河原城一
アシスタント：恩田希

■ DECODE/出来事と記録―ポスト工業化社会の美術
DECODE: Events & Materials ― The Work of Art in the Age of Post-Industrial Society

■会期：2019 年 9 月 14 日（土）～11 月 4 日（月・振休）
■主催：埼玉県立近代美術館、多摩美術大学
■協力：JR 東日本大宮支社、FM NACK5
■展示協力：サイバーグラフィックス株式会社
■映像展示協力：カシオ計算機株式会社
■観覧料:一般 1100 円（880 円）、大高生 880 円（710 円）（　　）は 20 名以上の団体料金
■入場者数：4,202 人
■広報印刷物：ポスター B2、ちらし B5 仕上り変形（二つ折り）／デザイン：川村格夫
■担当学芸員：梅津元、石井富久、平野到
■関根伸夫資料展示構成担当：鏑木あづさ
■多摩美術大学アートアーカイヴセンター：小泉俊己、田川莉那

B2 ポスター

■開催趣旨

1960 年代末から 70 年代にかけての美術状況を、記録写真や資料との関係から検証することを試みた。近年国際的に評価が高まっている「もの派」と呼ばれる動向の見直しを契機として、関根伸夫の資料、多摩美術大学アートアーカイヴセンターと共同で進めている「もの派アーカイヴ」関連の展示、この時代から現在に至るまでの美術状況を広い視野において再考するための写真や映像によるアクチュアルな展示、以上の３つの柱を中心に構成した。それぞれに異なる動機から発生した３つの柱から派生する展示が、時に重なりながら親和性を帯び、時にズレながら挑発しあうような、刺激的な時空間を出現させることによって、「ポスト工業化社会の美術」という見取り図を提起した。

■カタログ

規格：26.2 × 18.2cm、144 頁
編集：梅津元、石井富久、平野到（埼玉県立近代美術館）、鏑木あづさ（元埼玉県立近代美術館司書、アーキビスト）／小泉俊己、田川莉那（多摩美術大学アートアーカイヴセンター）
デザイン：川村格夫、河原弘太郎
発行：多摩美術大学
価格：2,400 円（税込）
内容・構成：A（モノクロ／テキスト・資料）：建畠哲「はじめに」／梅津元「解読せよ、霧の中で。」「デコードは風景をだいなしにする」／鏑木あづさ「関根伸夫資料について　「世界が裏返った場所、」から見渡す世界で」「関根伸夫　略歴」「環境美術研究所　主要プロジェクト一覧」「関根伸夫資料　図面ファイル」「関根伸夫資料　環美ファイル」／平野到「中嶋興ー共振する視線」／小泉俊己「伴走者の証言　多摩美術大学「安齊重男フォトアーカイヴ」の取り組み」／多摩美術大学アートアーカイヴセンター編「多摩美術大学を起点とした「もの派」をめぐる文化庁助成事業ー各資料のアーカイヴ化のプロセスを中心に」／上崎千「もの派のための「別の容器」について」／出品リスト／ B（カラー／展示記録）：展示記録写真、関根伸夫資料展示記録写真

■関連事業

・講演会「《位相ー大地》という出来事」／講師：小清水漸（彫刻家）、聞き手:建畠哲、梅津元／ 9 月 14 日（土）／講堂／参加者：121 名
・シンポジウム「出来事と記録ー写真の使命ー」／登壇者：中嶋興（映像作家）、小泉俊己（彫刻家・多摩美術大学教授）、聞き手：平野到、梅津元／ 10 月 27 日（日）／講堂／参加者：90 名
・担当学芸員によるギャラリートーク：10月12日（土）／梅津元 ※台風による臨時休館のため中止、10月19日（土）／平野到／参加者：20名

■広報記録

＜新聞＞

・「物質文明の意味表現」『読売新聞』2019年9月12日

・タカザワケンジ「問いの深さを引き出す」『東京新聞』2019年9月27日

・「映像、記録で「もの派」迫る」『埼玉新聞』2019年10月8日

・「もの派見直す美術展」『毎日新聞』2019年10月10日

・松本紗知「穴掘りの苦労　ものの存在実感」『朝日新聞』2019年10月15日

・永田晶子「もの派初期の空気感」『毎日新聞』2019年10月23日

・告知：『東京新聞』2019年9月12日、9月26日、10月24日／『埼玉新聞』2019年9月17日、10月29日／『朝日新聞』2019年9月17日、10月1日

＜雑誌、ミニコミ誌等＞

・告知：『ぱど』2019年8月23日／『Acore大宮』2019年10月1日／『たまログ』2019年10月1日／『F.U.N』2019年10月1日／『アートコレクターズ』2019年10月25日

＜WEB＞

・「「もの派」再考を契機に「ポスト工業化社会の美術」を照射する。」『web版美術手帖』2019年8月31日

・土渕信彦「埼玉県立近代美術館の「DECODE/出来事と記録―ポスト工業化社会の美術」展レビュー」（ときの忘れもの　ブログ）2019年9月30日

・「美術館独自のユニークな映像展示」CASIO、2019年10月15日

・坂本裕子「「もの派」の脱構築が提示したもの。埼玉県立近代美術館での展示の記録」『芸術広場』2020年1月8日

・告知：『ART　AgendA』2019年8月31日／『シェアアート』2019年9月7日／『Tokyo　Art　Beat』2019年9月14日／『artscape』2019年9月14日／『インターネットミュージアム』2019年9月14日／『ADF』2019年9月14日／『Katycom』2019年9月14日／『まいぷれ』2019年10月17日

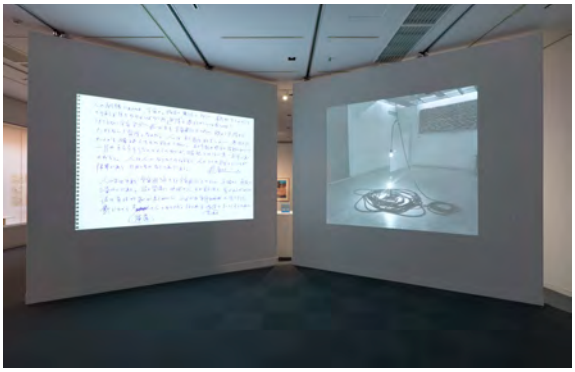
■担当後記

◆本展は、2017年から調査を進めてきた関根伸夫氏の資料の紹介をひとつの契機として、1960年代末から1970年代の美術を記録写真や資料との関係から検証する目的で企画された。関根資料の調査は文化庁の助成を得て多摩美術大学と共同で開始された。本展ではアーキビストの鏑木あづさ氏に関根資料の調査・展示を担当いただいた。残念ながら関根伸夫氏は2019年5月に他界され、本展をご覧いただくことはできなかったが、本展の実現に協力いただき方々にこの場を借りて深くお礼申し上げます。

◆多摩美術大学では、安齊重男氏のフォトアーカイヴの整理を進めており、本展では11名の作家を安齊氏の写真によるスライドショーで紹介した。また、図録掲載にあたり、安齊氏にコメントを寄せていただいた。本展で扱う時代の目撃者である同氏の臨場感あふれる言葉を寄せていただけたことは、とても有意義であった。（梅津元）

◆本展で、中嶋興氏の貴重な写真群を紹介できた点も大きな成果であった。中嶋氏はもの派の形成期にあたる1969年に、関根伸夫、李禹煥、菅木志雄、吉田克朗、成田克彦、小清水漸の制作風景や作品を、800カット以上撮影している。それらの写真の一部は『美術手帖』1970年2月号の座談会「特集＝発言する新人たち　＜もの＞がひらく新しい世界」に掲載され、当時の動向のひとつの歴史的な証拠として繰り返し参照されてきた。文化庁の助成のもと多摩美術大学と当館で実施した「もの派アーカイヴ」研究として、2018年から中嶋氏へ聞き取り調査を上崎千氏等と行ってきた。その調査の成果として、撮影の経緯や撮影場所などを、本展の展示や図録で紹介することができた。今後のもの派研究において、重要な事実となるに違いない。

（平野到）



会場風景（スライドショー）

会場風景（関根伸夫資料）

■出品リスト

凡例
・本リストでは、本展に展示された作品および資料を、概ね展示順に記載した。
・記載事項は原則として以下のとおり。番号 作家名・資料区分／作品名・資料名／制作年／材質・技法／寸法［高さ×幅×奥行き cm］・時間／所蔵者／備考。　※一部の項目を省略した場合がある。

1 金村修
Must Volunteer Kill
2019 年
ゼラチンシルバープリント
サイズ可変
作家蔵

2 金村修
Topless Beaver Drive
2019 年
映像 :DVD/11 分 47 秒
作家蔵

3 金村修
Aseptic Room Service
2019 年
映像 :DVD/11 分 45 秒
作家蔵

4 吉田克朗
650 ワットと 60 ワット
1970 年
コード、電球
サイズ可変
埼玉県立近代美術館蔵

【資料展示】 → 末尾に記載

5 飯田昭二
Half and Half
1968 年
鳥かご、ピンポン玉
20.0 × 19.8 × 19.8
鎌倉画廊蔵

6 柏原えつとむ
Silencer ー four panels
1967 年
水性ペイント、カンヴァス
185.3 × 372.2
埼玉県立近代美術館蔵

7 関根伸夫
位相ー大地 1
1986 年
シルクスクリーン、紙
87.0 × 190.0
埼玉県立近代美術館蔵

8 関根伸夫
映像版 位相ー大地
1968 年 /2005 年
映像 : DVD/7 分
埼玉県立近代美術館蔵

9 関根伸夫
位相 No.9
1968 年
木、ラッカー、ベニヤ
52.0 × 160.0 × 65.0
鎌倉画廊蔵

【関根伸夫資料】→ 末尾に記載

10 中嶋興（タイトルは以下に記載）
1969 年／プリントは 2019 年
フロンティアプリント
29.6 × 19.6cm［10-3, 10-4, 10-5, 10-14, 10-16, 10-17, 10-18, 10-19, 10-28 は 19.6 × 29.6cm］
画像提供 : 中嶋興、慶應義塾大学アート・センター

［10-1］～［10-5］ 小清水漸《かみ》
［10-6］～［10-10］ 関根伸夫《空相ー油土》
［10-11］～［10-15］ 吉田克朗《Cut-off》
［10-16］～［10-19］ 菅木志雄《空積》
［10-20］～［10-23］ 成田克彦《SUMI 7》
［10-24］～［10-27］ 李禹煥《現象と知覚 A, 改題 関係項》
［10-28］ 李禹煥《現象と知覚 B, 改題 関係項》

11 成田克彦
SUMI
1968 年
木
13.0 × 12.0 × 12.0
The Estate of Katsuhiko Narita

12 李禹煥
項
1968 年 /1985 年
石、鉄板 4 枚、ガラス
100.0 × 120.0 × 26.0
作家蔵

13 李禹煥
線より
1980 年
顔料、カンヴァス
130.0 × 162.0
埼玉県立近代美術館蔵

14 菅木志雄
界測
1990 年
鉄、木
21.2 × 104.5 × 73.5
埼玉県立近代美術館蔵

15 菅木志雄
四囲分集
1994 年
木、石、ペイント
70.0 × 395.0 × 206.0
埼玉県立近代美術館蔵

16 吉田克朗
赤・カンヴァス・糸など
1971-74 年
アクリル絵具、糸、カンヴァス
各 340.0 × 90.0
埼玉県立近代美術館蔵

17 小清水漸
鉄 I
1970 年 /1986 年
鉄
200.0 × 100.0 × 1.3
鎌倉画廊蔵

18 小清水漸
作業台ー硯ー
1980 年
合板、ウレタン塗装、水
70.0 × 91.0 × 120.5
埼玉県立近代美術館蔵

19 スライドショー（本展のために制作）
関根伸夫：位相ースポンジ（1968）、空相ー油土（1969）、空相ー水（1969）、空相（1970）、空相ー石を切る（1970-71）、石とネオン（1970）、草稿（1971）、草稿（1985）
2019 年
映像：DVD/7 分 40 秒

20 スライドショー（本展のために制作）
高松次郎、李禹煥、柏原えつとむ、関根伸夫、榎倉康二、吉田克朗、成田克彦、菅木志雄、小清水漸、野村仁、田窪恭治（1970-76 年）
撮影：安齊重男
2019 年
映像：DVD/7 分 20 秒

21 スライドショー（本展のために制作）
榎倉康二 P.W.- シリーズ（1972 年）
撮影：榎倉康二
2019 年
映像：DVD/6 分

22 スライドショー（本展のために制作）
小清水漸、関根伸夫、吉田克朗、菅木志雄、成田克彦、李禹煥 （1969 年）
撮影・映像監督：中嶋興
2019 年
映像：DVD/6 分 21 秒
協力：久山和宣
画像提供：中嶋興、慶應義塾大学アート・センター

23 小松浩子
内方浸透現象
2019 年
ゼラチンシルバープリント、スタイロフォーム、プラスチックシート、映像（ビデオプロジェクション、ブラウン管 3 台）
作家蔵
展示協力：サイバーグラフィックス株式会社

24 野村仁
Tardiology
1968-69 年 / プリントは 2019 年
ゼラチンシルバープリント /8 枚組
作家蔵

25 スライドショー（本展のために制作）
野村仁
Tardiology（未公開の 11 カットによる／ 1968-69 年）
2019 年
映像：DVD/3 分

26 印刷物
鈴木了二・田窪恭治・安齊重男
『絶対現場 1987』
1987 年
30.0 × 22.5
鈴木了二氏蔵

27 スライドショー（本展のために制作）
鈴木了二・田窪恭治・安齊重男
絶対現場 1987（1987 年）
2019 年
映像：DVD/7 分

28 関根伸夫
空相ー石を切る
1970 年 /2011 年
石、ステンレス板 /4 パーツ
各 70.0 × 50.0 × 30.0
個人蔵

29 関根伸夫
プロジェクト（空相ー石を切る）
1971 年
シルクスクリーン、ミラーシート
70.0 × 50.0
個人蔵

30 菅木志雄
空積
1969 年 /1986 年
金網、木
98.0 × 63.0 × 20.0
鎌倉画廊蔵

31 榎倉康二
不確定物質
1969 年
ほこり、綿、グラフ用紙
61.0 × 85.5
鎌倉画廊蔵

32 榎倉康二
P.W.-No.29
1972 年 / プリントは 1995 年
ゼラチンシルバープリント
個人蔵

33 柏原えつとむ
これは本である
1970 年
シルクスクリーン、紙
19.0 × 13.6 × 2.0
埼玉県立近代美術館蔵
※全ページの複写を壁面に展示

34 柏原えつとむ
これは本である
1973 年
オフセット印刷、紙
19.0 × 13.6 × 2.6
埼玉県立近代美術館蔵

35 飯田昭二
Paper
1969 年 /2014 年
紙に印刷
サイズ可変
鎌倉画廊蔵

36 高松次郎
万物の砕き
1972 年
混合材、木箱 /2 個
15.0 × 55.0 × 35.0
The Estate of Jiro Takamatsu

37 野村仁
Dec.1973-Oct.1974 又は 視覚のブラウン運動
1973-74 年（2012 年にデジタル化）
16mm フィルム（DVD 上映） /111 分（1 秒 8 コマ）
埼玉県立近代美術館蔵

38 記録映像（本展のためにデジタル化）
野村仁
Dryice
1969 年 /1995 年
VHS テープ（DVD 上映） /1 分 50 秒
撮影：梅津元

39 成田克彦
SUMI 7
1969 年 /1986 年
木 /5 パーツ
(1)27.0 × 40.0 × 60.0、(2) 39.0 × 38.0 × 30.0、(3) 27.0 × 33.0 × 61.0、(4) 37.0 × 33.0 × 58.0、(5) 37.0 × 37.0 × 31.0
鎌倉画廊蔵

40 16mm フィルム
鈴木了二
断層建築 I
1985 年
撮影 : 山崎博
鈴木了二氏蔵

41 記録映像 (本展のためにデジタル化)
鈴木了二
断層建築 I
1985 年
撮影 : 山崎博
16mm フィルム (DVD 上映) /11 分 54 秒

42 萩原朔美
KIRI
1972 年 (作家によってデジタル化)
16 mmフィルム (DVD 上映) /9 分
作家蔵

映像編集 | 町田良夫
8, 19, 20, 21, 25, 27, 38,

映像展示協力 | カシオ計算機株式会社
2, 3, 8, 19, 20, 21, 22, 23, 41, 42

【資料展示】(全て複写)

『神戸須磨離宮公園現代彫刻展』(1968 年) ／会場 1、会場 2、関根伸夫《位相ー大地》／撮影 : 大辻清司

『美術手帖』1968 年 12 月号／「自然の環境化ー神戸須磨離宮公園現代彫刻展」／関根伸夫《位相ー大地》／撮影 : 村井修

『美術手帖』1969 年 10 月号／「彫刻が自然の中に生きるとき」／関根伸夫《空相》／撮影 : 村井修

『週刊朝日百科 世界の美術 139』(1980 年 11 月 23 日号) ／関根伸夫《位相ー大地》／撮影 : 三木多聞

『空間の論理 日本の現代美術』(原榮三郎＋藤枝晃雄＋篠原有司男、1969 年) ／飯田昭二《無題》(毎日現代日本美術展) ／撮影 : 原榮三郎

『美術手帖』1970 年 9 月号／「関根伸夫の作品〈空相〉セッティングまで」／撮影 : 東野芳明

『美術手帖』1970 年 2 月号／(特集)「発言する新人たちー非芸術の地平から」飯田昭二《トランスマイグレイション》(李禹煥「出会いを求めて」記事内)

『第 10 回日本国際美術展 記録集』1970 年／野村仁《Dryice》撮影 : 原榮三郎、大辻清司／小清水漸《鉄 I》撮影 : 原榮三郎、小清水漸／成田克彦《SUMI》撮影 : 原榮三郎

【関根伸夫資料】
・関根伸夫資料を概ね展示順に記載 (撮影者が判明している写真については末尾に撮影者名を記載)。
映像編集 : 石井富久・町田良夫 : 3-12, 5-5

1. 手稿類 (すべて関根伸夫)

1-1 クロッキー帳 1965 年頃
1-2 マケット 1967 年頃
1-3 クロッキー帳 時空メモ 1967 年頃
1-4 メモ 1967 年頃
1-5 没文章 年代不詳
1-6 クロッキー帳 1968-70 年
1-7 クロッキー帳 1986-87 年
1-8 最近のプラン 原図
1-9 サイン・ストンファニチュア
1-10 原稿 忘却のかなたへ
1-11 原稿 〈環境美術〉のことなど 1983 年頃
1-12 クロッキー帳 1985 年
1-13 ドローイング 万里の長城に《位相ー大地》をつくる 2010 年頃
1-14 ドローイング 山の高さを 10M 高くする 2010 年頃
1-15 ドローイング 『半自伝』見返し 1985 年頃
1-16 スケッチ

2. 作家活動に関する資料

2-1 アルバム ハプニング 1965 年頃
2-2 アルバム 〈消去〉シリーズ 1967 年頃
2-3 アルバム 000 Plan 〈時空概念〉シリーズ 1967 年
2-4 写真 〈位相〉シリーズ以前の作品 1967-68 年頃
2-5 写真 〈位相〉シリーズ 1968 年
2-6 写真 《位相ー大地》制作風景 1968 年
2-7 写真 《位相ースポンジ》 1968 年

2-8　写真　《空相ー水》　1969 年
2-9　写真　《空相ー油土》　1969 年
2-10　写真　吉田克朗と関根伸夫　1969 年　撮影 : 中嶋興
2-11　写真　《空相ー布と石》　1970 年
2-12　写真　〈プロジェクト〉シリーズ　1971 年　撮影 : 安齊重男
2-13　写真　ガラスの照明器具　1971 年
2-14　写真　《空相ー石を切る》　1970 年　撮影 : 安齊重男
2-15　写真　《空相ー大地》　1970 年
2-16　写真　《空相ー立木》　1973 年
2-17　ネガアルバム　埼玉県立博物館《空の柱》設置風景　1975 年　撮影 : 吉田誠
2-18　アルバム　ヨーロッパ巡回個展　1978 年
2-19　アルバム　ルイジアナ　東京　カネコ　桜(石･ブロンズ)　1977　1978 年
2-20　アルバム　桜画廊展 1975　1975 年
2-21　アルバム　ルイジアナ FRP　1978 年頃
2-22　アルバム　位相絵画コンタクト　No.1　1988 年
2-23　アルバム　位相絵画コンタクト　No.2　1988 年
2-24　アルバム　位相絵画コンタクト　No.3　1988 年
2-25　位相絵画展　会場風景　1991 年
2-26　写真　「物質と知覚」展　会場風景 (フランス)　1996 年
2-27　写真　ポートレート
2-28　茶話会への御招待　1971 年
2-29　ファイル　天使美術館 (台湾) 個展　2005 年
2-30　文書　Blum & Poe 関連　2012 年頃
2-31　通信 (FAX)　鎌倉画廊より作品名について　2010 年　鎌倉画廊
2-32　ビデオ　DVD　カセットテープ
2-33　ポスター　《空相》1969 年　　1970 年　撮影 : 村井修
2-34　ポスター　《位相ー大地》1968 年　　1970 年　撮影 : 村井修
2-35　原図　〈プロジェクト〉シリーズ　1971 年頃　関根伸夫

3.　環境美術研究所に関する資料

3-1　御見積書　請求書　注文書　環境美術研究所
3-2　プロポーザル　環境美術研究所　1996 年頃　環境美術研究所
3-3　プロポーザル　モノリス 21 計画　1990 年　環境美術研究所
3-4　プロポーザル　環境美術研究所
3-5　プロポーザル　環境美術館　1999 年　関根伸夫＋環境美術研究所
3-6　プロジェクトリスト　2003 年頃　環境美術研究所
3-7　模型写真　環境美術研究所
3-8　模型写真　待ちぼうけの石　環境美術研究所
3-9　図面　志木駅東口立体遊歩道　2000 年頃　環境美術研究所
3-10　図面　東京都庁舎前広場　水の神殿　1991 年頃　環境美術研究所
3-11　図面　東京都庁舎前広場　空の台座　1991 年頃　環境美術研究所
3-12　スライド　プロジェクト写真　環境美術研究所
※以下スライドリスト
12-1　日本大学生産工学部習志野校　千葉県習志野市　1982 年
12-2　塩釜市総合体育館　宮城県塩釜市　1986 年
12-3　秦野南が丘団地緑道　神奈川県秦野市　1982 年
12-4　総和町ネーブルパーク　茨城県猿島郡　1989 年
12-5　新座市役所市民広場　埼玉県新座市　1974 年
12-6　九州産業医科大学　福岡県北九州市八幡西区　1979 年
12-7　深谷市上柴地区センター　埼玉県深谷市　1982 年
12-8　ホテル新羅　韓国 ソウル市　1993 年
12-9　千葉工業大学　千葉県習志野市　1986 年
12-10　東京都庁舎前広場　東京都新宿区　1991 年
12-11　弁天橋親柱彫刻　神奈川県横浜市　1977 年
12-12、12-13　世田谷美術館　東京都世田谷区　1986 年
12-14　フラワーセンター大船植物園　神奈川県鎌倉市　1982 年
12-15、12-16　水戸双葉台団地近隣公園　茨城県水戸市　1978年
12-17　沖縄海洋博南ゲート広場　沖縄県本部町　1975 年
12-18　棒誠会　静岡県沼津市　1984 年
12-19　東京都多磨霊園みたま堂　東京都府中市　1993 年
12-20　さわやか千葉県民プラザ　千葉県柏市　1996 年
12-21　住友生命東京教育センター　東京都調布市　1981 年
12-22　ベリタス II　ノルウェー　オスロ　1984 年
12-23　新潟駅南口駅前広場ーシンボルゾーン　新潟県新潟市　1982 年
12-24、12-25　奥久慈憩の森―昭和の森記念塔広場　茨城県久慈郡　1979 年
12-26　東急ドウェル藤沢ヴィレッジ　神奈川県藤沢市　1979 年
12-27　ハイランド塩浜　千葉県市川市　1982 年
12-28　三条市再開発都市緑地広場　新潟県三条市　1988 年
12-29　OCAT(大阪シティエアターミナル)　大阪府大阪市　1995 年
12-30　浦和市市庁舎　埼玉県浦和市　1976 年
12-31　横浜市瀬谷センター　神奈川県横浜市瀬谷区　1980年
12-32　プラザ元加賀　東京都江東区　1984 年
12-33　瀬下邸庭苑彫刻　神奈川県逗子市　1974 年
12-34　山村硝子加古川工場　兵庫県加古郡　1980 年

12-35　新座市役所市民広場　埼玉県新座市　1974 年
12-36　関根氏の仕事場?

3-13　写真　新座市役所市民広場　歩みの石　1974 年　撮影 : 安齊重男
3-14　写真　水戸双葉台団地近隣公園　1978 年　撮影 : 廣田治雄
3-15　写真　弁天橋親柱彫刻　横浜市　1977 年
3-16　写真　奥久慈憩の森ー昭和の森記念塔広場　茨城県　1979 年　撮影 : 安齊重男
3-17　写真　東急ドゥエル藤沢ヴィレッジ　待ちぼうけの石　藤沢市　1979 年
3-18　写真　新潟駅南口駅前広場　水の神殿　1982 年
3-19　写真　港区塩釜公園　1985 年　撮影 : 廣田治雄
3-20　写真　酒田市中町モール　ふれあいの門　1978 年　撮影 : 安齊重男
3-21　写真　グリーンピア三木　空の刀　兵庫県　1978 年　撮影 : 安齊重男
3-22　現場写真　グリーンピア三木　空の刀　兵庫県　撮影: 安齊重男
3-23　環美ファイル　環境美術研究所
3-24　写真　ポートレート
3-25　ベリタス II（オスロ、ノルウェー）　スケッチ　1984 年　環境美術研究所
3-26　ベリタス II（オスロ、ノルウェー）　写真
3-27　ベリタス II（オスロ、ノルウェー）　図面　1984 年　環境美術研究所
3-28　ベリタス II（オスロ、ノルウェー）　石材についてのレポート　1984 年　環境美術研究所
3-29　ベリタス II（オスロ、ノルウェー）　通信　1984 年　環境美術研究所
3-30　ベリタス II（オスロ、ノルウェー）　契約書　1983 年　環境美術研究所
3-31　ベリタス II（オスロ、ノルウェー）　作業指示書　1984 年　環境美術研究所
3-32　ベリタス II（オスロ、ノルウェー）『Sekine a message from Environment Art Studio』より　1992 年　プロセスアーキテクチュア
3-33　ベリタス II（オスロ、ノルウェー）　図面　1984 年　環境美術研究所

4. 刊行物

4-1　『場・相・時』　1970 年　関根伸夫編集代表
4-2　『8 opere di Nobuo Sekine』　1970 年　Galleria La Bertesca
4-3　『関根伸夫 1968-78』　1978 年　ゆりあ・ぺむぺる工房
4-4　『風景から広場へ』　関根伸夫 & 環境美術研究所　1983 年　商店建築社
4-5　関根伸夫『半自伝　美術と都市と絵空事』　1985 年　PARCO 出版
4-6　関根伸夫『風景の指輪』　2006 年　図書新聞
4-7　『SD』第 103 号（1973 年 4 月）　空間か建築か　責任編集　関根伸夫
4-8　関根伸夫のすと〜ん倶楽部　『ストーンテリア』第 9 号（1987 年 4 月）
4-9　関根伸夫が選ぶ庭 10 選　『なごみ』第 176 号(1994 年 8 月)
4-10　個展リーフレット
4-11　『われわれの広場　空間・環境・美術』　1973 年　環境美術研究所
4-12　『環境と美術』　1977 年　環境美術研究所
4-13　『環境と美術』　1980 年　環境美術研究所

5.　個人的な資料

5-1　年賀状　関根伸夫
5-2　ハガキ　手紙
5-3　手帳　2005 年　関根伸夫
5-4　写真　年代不詳
5-5　スライド　旅行写真　年代不詳

■ ニューヨーク・アートシーン　ロスコ、ウォーホルから草間彌生、バスキアまで　―滋賀県立近代美術館コレクションを中心に
THE NEW YORK ART SCENE From Rothko and Warhol to Kusama and Basquiat– From the Collection of The Museum of Modern Art, Shiga and More

■会期：2019 年 11 月 14 日（木・県民の日）～ 2020 年 1 月 19 日（日）
■主催：埼玉県立近代美術館
■特別協力：滋賀県立近代美術館
■助成：一般財団法人　地域創造
■協力：JR 東日本大宮支社、ＦＭ　ＮＡＣＫ５
■観覧料:一般 1200 円（960 円）、大高生 960 円（770 円）（　）内は 20 名以上の団体料金
■入場者数：10,659 人
■広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4（3種類）／デザイン：山下雅士（sleepwalk）
■担当学芸員：大越久子、菊地真央

B2 ポスター

■開催趣旨

第二次世界大戦後、画期的な表現を次々と生み出して注目を集めたニューヨーク。大戦中、戦火を逃れてヨーロッパから移り住んだ多くの美術家たちによって伝えられた近代美術がアメリカの若者たちを刺激し、新しい意欲的な表現へと道を開いたのである。

当時最先端の表現であったキュビスムとシュルレアリスムを乗り越えようとする試みは、アクションという画家の激しい身振りの結果として、あるいは広漠とした色面の広がりとして、抽象表現主義と呼ばれる新しい絵画を生み出した。また、男性用小便器を展覧会に出品したマルセル・デュシャンのダダ的な行為は、生活と芸術を等価とみなすネオ・ダダと呼ばれる作家たちに影響を与え、大衆文化への関心は大量消費社会を背景にポップ・アートというアメリカ独自の美術として花開く。一方で 1960 年代以降、美術の根源を探るきわめて禁欲的、還元的な美術も同じニューヨークに登場する。そして現代美術の首都とも呼ぶべきその街では多くの日本人も活躍し、草間彌生や河原温のように今日では世界的に知られる作家も存在した。

この展覧会は、現在改修のため休館中の滋賀県立近代美術館が所蔵する日本屈指の戦後アメリカ美術のコレクションを中心に、国内の美術館に所蔵される優品を加えた約 100 点の作品によって、ニューヨークという都市で繰り広げられたアメリカ美術の半世紀を紹介するもので、鳥取県立博物館、和歌山県立近代美術館、徳島県立近代美術館、埼玉県立近代美術館の 4 会場で開催された。

■カタログ

規格：26.5 × 19.0 ㎝、160 頁
編集：鳥取県立博物館、和歌山県立近代美術館、徳島県立近代美術館、埼玉県立近代美術館
翻訳：小川紀久子
デザイン：桑畑吉伸
制作：リーヴル
発行：「ニューヨーク・アートシーン　ロスコ、ウォーホルから草間彌生、バスキアまで　―滋賀県立近代美術館コレクションを中心に」展実行委員会
内容・構成：「ニューヨーク・アートシーン―グローバリズムを超えて」（尾崎信一郎、鳥取県立博物館副館長）、Ⅰ. 新しいアメリカ絵画―抽象表現主義、Ⅱ. デュシャンとその末裔―ネオ・ダダとフルクサス、Ⅲ. パクス・アメリカーナの夢―ポップ・アートとスーパー・リアリズム、Ⅳ. 最後の絵画―ポスト・ペインタリーアブストラクション、Ⅴ. 限

界における美術ーミニマル・アートとコンセプチュアル・アート、Ⅵ. ポスト・モダン以後の表現ーニュー・ペインティングとアプロプリエーション・アート（「章解説Ⅰ～Ⅵ」尾崎信一郎）、「ニューヨーク・アートシーンとふたつの「マティス」」（渡辺亜由美、滋賀県立近代美術館）、「石垣栄太郎のニューヨークー連邦美術計画との関わりを中心に」（奥村一郎、和歌山県立近代美術館）、「重要事項解説」（尾崎信一郎　編）、「作品解説」、「作家解説」（滋賀県立近代美術館／占部敏子、荒井保洋、田平麻子、平田健生、古沢ゆりあ、星野志穂、渡辺亜由美、鳥取県立博物館／尾崎信一郎、友岡真秀、和歌山県立近代美術館／奥村一郎、徳島県立近代美術館／江川佳秀、安達一樹、埼玉県立近代美術館／大越久子）、作品リスト
価格：2,000円

■関連事業

・「ミュージアム・カレッジ 2019 ー 20世紀アメリカの視覚表現ー＜埼玉大学創立70周年記念事業＞」／埼玉大学教養学部と埼玉県立近代美術館の共催による公開講座／講堂／無料／① 11月16日（土）「ニューヨーク・アートシーン　戦後アメリカ美術の展開と特質」尾崎信一郎（「ニューヨーク・アートシーン」展企画者、鳥取県立博物館副館長）、② 11月23日（土）「ロスコ、コーネル、フレヴィン、孤独への旅、あるいは恒星の国アメリカ」加藤有希子（埼玉大学基盤教育研究センター・准教授）、③ 11月30日（土）「ダンスとノン・ダンスの間：ジャドソン・グループとその周辺」外山紀久子（埼玉大学大学院人文社会科学研究科・教授）、④ 12月7日（土）「ニュー・バウハウスからMITへ：G・ケペシュのアート＆サイエンス」井口壽乃（埼玉大学大学院人文社会科学研究科・教授／副学長）／参加者：① 65名、② 45名、③ 35名、④ 32名

・ミュージアム・コンサート／① 12月1日（日）「ニューヨーク、記憶の襞を辿る」／出演：奥平真吾 THE FORCE SPECIAL〈奥平真吾（Ds）、岡　淳（Sax）、片倉真由子（Pf）、古木佳祐（B）〉／講堂／無料、② 12月22日（日）「笛は魔術師　エネルギーがほとばしる！」／出演：山下 Topo 洋平（ケーナ）、茨木智博（オカリナ）、森　悠也（ピアノ）／センターホール／無料、参加者：① 82名、② 60名

・担当学芸員によるギャラリートーク／①　12月14日（土）大越久子、②1月11日（土）　菊地真央／参加者：①　44名、②52名

■広報記録

＜新聞＞

・「ニューヨーク・アートシーン」『埼玉新聞』2019年11月19日

・「ニューヨーク・アートシーン」『上毛新聞』2019年11月25日

・「米国で開花　新しい表現」『埼玉新聞』2019年11月26日

・「アメリカ美術の半世紀を紹介」『毎日新聞』2019年11月30日

・「ニューヨーク・アートシーン」『読売新聞』2019年12月10日

・「ニューヨーク・アートシーン」『埼玉新聞』2019年12月10日

・「ニューヨーク・アートシーン」『東京新聞』2019年12月12日

・「ニューヨーク・アートシーン」『産経新聞』2019年12月15日

・「ニューヨーク・アートシーン」『朝日新聞』2020年1月7日

・「ニューヨーク・アートシーン」『読売新聞』2020年1月7日

・「NYのアーティスト作品100点」『産経新聞』2020年1月10日

・告知：『東京新聞』2019年11月21日／『朝日新聞』2019年11月12日、12月3日、12月24日、2020年1月14日／『埼玉新聞』2019年12月3日、12月24日／『読売新聞』2019年12月3日、12月24日

＜雑誌・ミニコミ誌等＞

・『たまろぐ』2019年11月1日／『月刊美術』2019年11月1日／『新美術新聞』2019年11月11日／『ブレイン』2019年12月1日／『ぱど』2019年12月1日／『In Red』2019年12月7日／『CLUEL』2019年12月12日／『リビングさいたま』2019年12月13日／『ホットペッパー』2019年12月20日／『定年時代』2020年1月5日／『美術の窓』2020年1月20日

＜ WEB ＞

・『Katycom』2019年11月14日／『InternetMuseum』2019年11月14日／『EXHIBITION』2019年11月14日／『美術手帖』2019年11月14日／『ARAKAWA+マドリン』2019年11月14日／『Tokyoartbeat』2019年11月14日／『埼玉観光国際協会』2019年11月14日／『美術展ナビ』2019年11月14日／「ニューヨーク・アートシーン体験記」『まいぷれ』2019年12月7日

＜テレビ＞

・J:COM　2019年11月29日

■担当後記

◆本展は、改修休館中の滋賀県立近代美術館の収蔵品の有効活用をきっかけに発案され、監修者の尾崎信一郎氏のリードにより、関西の他の美術館からも優品を借用して組み立てられた。当館ではかつて 1991 年に滋賀県立近代美術館のコレクション展を開催したことがあり、既視感があるかもしれないと若干の危惧があった。しかし、他館からの借用が半数以上を占める質量ともにパワーアップした内容となり、来場者アンケートでも、日本にこれだけのアメリカ現代美術のコレクションがあったことに驚く声が多数寄せられた。近代美術の展示を想定して設計された当館の展示室で、これ以上に大作ぞろいの展示を実現することは難しいであろうと思われた。

◆戦後アメリカ美術を概観する美術史的な企画には、なんとなく見飽きたようなイメージがあるかと思いきや、これが最近では意外に開催の機会が少ないことがわかった。とりわけ若い観覧者層からは、時系列を追った教科書どおりのアメリカ現代美術を実際に見ることができて新鮮だったという声が多々あり、意外な反応であった。また、かつて夢中になったアート・シーンや、その時代の自分自身を懐かしむ方もいて、アンケートに記された実にさまざまな感想が印象深かった。また展示の終盤では、ジェンダーやコミュニケーションを主題とする作品群を紹介したが、こうした問題意識はなお宙吊りのまま今日にもつながっており、表現の意味を再確認させられた。

（大越久子）

会場風景 :「Ⅲ . パクス・アメリカーナの夢」より

会場風景 :「Ⅴ . 限界における美術」より

会場風景 :「Ⅵ . ポスト・モダン以後の表現」より

「ミュージアム・カレッジ 2019」尾崎信一郎氏による講演

■出品リスト

・本リストの作品番号は図録の番号と対応している。ただし展示の順番とは必ずしも一致していない。
・会期中、一部展示替を行った。*印の作品は前期展示：2019年11月14日(木)-12月15日(日)、**印の作品は後期展示：2019年12月17日(火)-2020年1月19日(日)。
・図録に掲載されている作品のうち、当館では展示されなかった作品は本リストから割愛した。

No.	作家名	作品名	制作年	素材、技法	サイズ	所蔵
I. 新しいアメリカ絵画―抽象表現主義						
I-01	アーシル・ゴーキー	無題（バージニア風景）	1943-44 年頃	油彩、カンヴァス	86.4 × 116.8	滋賀県立近代美術館
I-02*	マーク・ロスコ	無題	1944 年	水彩、紙	65.0 × 99.0	国立国際美術館
I-04	マーク・ロスコ	ボトル・グリーンと深い赤	1958 年	油彩、カンヴァス	205.7 × 127.0	大阪中之島美術館
I-05	マーク・ロスコ	ナンバー 28	1962 年	油彩、カンヴァス	205.8 × 193.5	滋賀県立近代美術館
I-06*	ジャクソン・ポロック	無題	1944 年頃 （後刷り 1967 年）	エングレーヴィング・ドライポイント、紙	29.9 × 25.1	滋賀県立近代美術館
I-07*	ジャクソン・ポロック	無題	1944 年頃 （後刷り 1967 年）	エングレーヴィング・ドライポイント、紙	30.0 × 25.1	滋賀県立近代美術館
I-08*	ジャクソン・ポロック	無題	1944 年頃 （後刷り 1967 年）	エングレーヴィング・ドライポイント、紙	29.7 × 22.5	滋賀県立近代美術館
I-09*	ジャクソン・ポロック	無題	1944-45 年頃 （後刷り 1967 年）	エングレーヴィング・ドライポイント、紙	37.3 × 45.2	滋賀県立近代美術館
I-10*	ジャクソン・ポロック	無題	1944-45 年頃 （後刷り 1967 年）	エングレーヴィング・ドライポイント、紙	22.7 × 30.1	滋賀県立近代美術館
I-11*	ジャクソン・ポロック	無題	1944-45 年頃 （後刷り 1967 年）	エングレーヴィング・ドライポイント、紙	30.0 × 22.7	滋賀県立近代美術館
I-12*	ジャクソン・ポロック	無題	1944-45 年頃 （後刷り 1967 年）	エングレーヴィング・ドライポイント、紙	39.7 × 60.2	滋賀県立近代美術館
I-13**	ジャクソン・ポロック	Number 7, 1951	1951 年 （後刷り 1964 年）	シルクスクリーン、紙	74.0 × 58.4	高松市美術館
I-14**	ジャクソン・ポロック	Number 8, 1951 Black Flowing	1951 年 （後刷り 1964 年）	シルクスクリーン、紙	74.0 × 58.4	高松市美術館
I-15**	ジャクソン・ポロック	Number 9, 1951	1951 年 （後刷り 1964 年）	シルクスクリーン、紙	74.0 × 58.4	高松市美術館
I-16**	ジャクソン・ポロック	Number 19, 1951	1951 年 （後刷り 1964 年）	シルクスクリーン、紙	74.0 × 58.4	高松市美術館
I-17**	ジャクソン・ポロック	Number 22, 1951	1951 年 （後刷り 1964 年）	シルクスクリーン、紙	74.0 × 58.4	高松市美術館
I-18**	ジャクソン・ポロック	Number 27, 1951	1951 年 （後刷り 1964 年）	シルクスクリーン、紙（板、アクリル）	74.0 × 58.4	高松市美術館
I-19	バーネット・ニューマン	夜の女王 I	1951 年	油彩、カンヴァス	244.0 × 48.0	国立国際美術館
I-20	バーネット・ニューマン	無題	1966 年	シルクスクリーン、紙（板、アクリル）	124.1 × 12.6	滋賀県立近代美術館
I-22	アド・ラインハート	トリプティック	1960 年	油彩、カンヴァス	228.6 × 76.2	滋賀県立近代美術館
I-23	アド・ラインハート	無題	1966 年	シルクスクリーン、紙（10点組）	53.4 × 14.9	滋賀県立近代美術館
I-24	アド・ラインハート	無題	1966 年	シルクスクリーン、紙（10点組）	30.5 × 30.5	滋賀県立近代美術館
I-25	アド・ラインハート	無題	1966 年	シルクスクリーン、紙（10点組）	53.2 × 17.8	滋賀県立近代美術館
I-26	アド・ラインハート	無題	1966 年	シルクスクリーン、紙（10点組）	30.5 × 30.5	滋賀県立近代美術館
I-27	サイ・トゥオンブリー	マグダでの 10 日の待機	1963 年	鉛筆・クレヨン・油彩、カンヴァス	100.0 × 104.1	国立国際美術館
I-28	ヴィレム・デ・クーニング	水	1970 年	油彩・紙、カンヴァス	107.0 × 81.0	国立国際美術館
I-29	ヴィレム・デ・クーニング	頭　No.3	1973 年	ブロンズ	h 49.0	徳島県立近代美術館

No.	作家名	作品名	制作年	素材、技法	サイズ	所蔵
II. デュシャンとその末裔―ネオ・ダダとフルクサス						
II-01	マルセル・デュシャン	瓶乾燥器	1914/64 年	瓶乾燥機（鉄）／レディメイド（シュヴァルツ版 ed.6/8）	h 64.2	京都国立近代美術館
II-02	マルセル・デュシャン	折れた腕の前に	1915/64 年	雪掻きシャベル（鉄、木）／レディメイド（シュヴァルツ版 ed.6/8）	h 132.0	京都国立近代美術館
II-03	マルセル・デュシャン	泉	1917/64 年	小便器（磁器）／レディメイド（シュヴァルツ版 ed.6/8）	36.0 × 48.0 × 61.0	京都国立近代美術館
II-04*	マルセル・デュシャン	階段を降りる裸婦　No.2	1937 年	複製・鉛筆、紙	35.1 × 20.0	高松市美術館
II-05*	ジャスパー・ジョーンズ	旗	1960-69 年	鉛	48.2 × 53.4	和歌山県立近代美術館
II-06**	ジャスパー・ジョーンズ	ハトラス	1963 年	リトグラフ、紙	104.1 × 73.7	高松市美術館
II-07*	ジャスパー・ジョーンズ	ナンバーズ	1967 年	リトグラフ、紙	71.1 × 60.5	高松市美術館
II-08*	ジャスパー・ジョーンズ	ウォッチマン	1967 年	リトグラフ、紙	91.5 × 60.5	高松市美術館
II-09**	ジャスパー・ジョーンズ	0 から 9	1970 年	鉛	76.2 × 59.7	国立国際美術館
II-10**	ジャスパー・ジョーンズ	旗 I	1973 年	シルクスクリーン、紙	69.5 × 90.2	高松市美術館
II-11	ロバート・ラウシェンバーグ	アクシデント	1963 年	リトグラフ、紙	105.0 × 74.5	滋賀県立近代美術館
II-12*	ロバート・ラウシェンバーグ	スカイ・ガーデン	1969 年	リトグラフ・シルクスクリーン、紙	225.2 × 106.9	和歌山県立近代美術館
II-13	ロバート・ラウシェンバーグ	カードバード・ドア	1971 年	段ボール、コラージュ	203.0 × 101.0 × 32.5	滋賀県立近代美術館
II-14**	ロバート・ラウシェンバーグ	ミュール	1974 年	トランスファー・コラージュ、布	168.0 × 94.2	滋賀県立近代美術館
II-15	荒川修作	無題	1964 年	油彩、カンヴァス	225.0 × 162.7	和歌山県立近代美術館
II-16	ジョン・ケージ	Déreau ♯9	1982 年	エッチング・アクアチント・エングレーヴィング・フォトエッチング・ドライポイント、紙	46.0 × 63.2	和歌山県立近代美術館
II-17	ジョン・ケージ	Déreau ♯13	1982 年	エッチング・アクアチント・エングレーヴィング・フォトエッチング・ドライポイント、紙	46.0 × 63.2	和歌山県立近代美術館
II-18**		フルクサス cc V TRE No.1	1964 年	印刷、紙	58.6 × 45.9	国立国際美術館
II-19**		フルクサス cc V TRE No.2	1964 年	印刷、紙	58.6 × 46.0	国立国際美術館
II-20*		フルクサス cc V TRE No.3（持ち主不明の鞄）	1964 年	印刷、紙	57.3 × 44.5	国立国際美術館
II-21**		フルクサス　1	1964 年以降	ミクストメディア、木箱	22.4 × 24.0 × 5.4	国立国際美術館
II-22*		フルクサス　V TRE No.5（台形の真空）	1965 年	印刷、紙	56.0 × 43.1	国立国際美術館
II-23**		フルクサス　V TRE No.6（大道芸トーナメント）	1965 年	印刷、紙	56.1 × 43.3	国立国際美術館
II-24**	ジョージ・マチューナス	フルクサス（歴史的展開とアヴァンギャルド運動との関係）	1965 年頃	オフセット、紙	43.3 × 14.3	国立国際美術館
II-25*	塩見允枝子	スペイシャル・ポエム No.1「ことばのイヴェント」	1965/2004 年	77 本の旗（印刷、紙、金属ピン）、紙製ボード（フェルトペン、ポリスチレンフォーム、紙）、プラスチックケース	2.2 × 45.7 × 30.1	国立国際美術館
II-26*		フルクサス・プレビュー・レビュー	1963 年	印刷、紙	166.0 × 9.9	国立国際美術館

No.	作家名	作品名	制作年	素材、技法	サイズ	所蔵
III. パクス・アメリカーナの夢―ポップ・アートとスーパー・リアリズム						
III-01	トム・ウェッセルマン	グレート・アメリカン・ヌード #6	1961 年	ミクストメディア・コラージュ、板	121.9 × 121.9	滋賀県立近代美術館
III-02	トム・ウェッセルマン	シースケープ　#8	1966 年	アクリル、カンヴァス	172.9 × 106.8	和歌山県立近代美術館
III-03	ロイ・リクテンスタイン	クラック！	1964 年	オフセットリトグラフ、紙	47.2 × 68.7	和歌山県立近代美術館
III-04	ロイ・リクテンスタイン	スイート・ドリームス、ベイビー！	1965 年	シルクスクリーン、紙	90.4 × 64.5	和歌山県立近代美術館
III-05	ロイ・リクテンスタイン	夢想	1965 年	シルクスクリーン、紙	69.2 × 58.0	和歌山県立近代美術館
III-06	アンディ・ウォーホル	マリリン	1967 年	シルクスクリーン、紙（10 点組）	各 91.5 × 91.5	滋賀県立近代美術館
III-07	アンディ・ウォーホル	キャンベル・スープ II	1969 年	シルクスクリーン、紙（10 点組）	各 88.9 × 58.4	和歌山県立近代美術館
III-08	ジム・ダイン	ナイトポートレート	1969 年	リトグラフ、紙	135.2 × 95.7	滋賀県立近代美術館
III-09	ジム・ダイン	自画像	1970-73 年	ステンシルの上に手彩色、紙	152.5 × 101.5	滋賀県立近代美術館
III-10	チャック・クロース	ジョー	1969 年	アクリル・ジェッソ、カンヴァス	275.0 × 214.5	大阪中之島美術館
III-11	チャック・クロース	自画像	1983 年	ペーパーパルプ、カンヴァス	137.2 × 101.6	和歌山県立近代美術館
III-12	ジョージ・シーガル	コーヒーを注ぐウェイトレス	1973 年	石膏、木、金属、磁器、プラスチック	243.0 × 107.0 × 86.0	滋賀県立近代美術館
III-13*	ジェームズ・ローゼンクイスト	マリリン	1974 年	リトグラフ、紙	90.5 × 69.2	高松市美術館
IV. 最後の絵画―ポストペインタリーアブストラクション						
IV-01	モーリス・ルイス	ダレット・ペー	1959 年	アクリル、カンヴァス	234.0 × 367.5	滋賀県立近代美術館
IV-02	ケネス・ノーランド	メッシュ	1959 年	アクリル、カンヴァス	167.4 × 161.9	大阪中之島美術館
IV-03	ケネス・ノーランド	カドミウム・レイディアンス	1963 年	油彩、カンヴァス	237.0 × 241.0	滋賀県立近代美術館
IV-07	フランク・ステラ	グレー・スクランブル XII ダブル	1968 年	アクリル・カンヴァス	175.3 × 350.3	国立国際美術館
V. 限界における美術―ミニマル・アートとコンセプチュアル・アート						
V-01	フランク・ステラ	ゲッティ廟（第 1 ヴァージョン）	1959 年	エナメル、カンヴァス	215.0 × 245.0	大阪中之島美術館
V-03	草間彌生	アキュミュレーション	1960 年	油彩、カンヴァス	162.6 × 522.0	大阪中之島美術館
V-04*	草間彌生	Airmail Accumulation	1961 年	コラージュ、紙	53.0 × 68.0	高松市美術館
V-05	桑山忠明	無題 - 赤 -	1961 年	アクリル、カンヴァス	254.0 × 204.5	高松市美術館
V-06	桑山忠明	Untitled	1968 年	アクリル、カンヴァス	222.0 × 85.0	国立国際美術館
V-08**	ジョセフ・コスース	カラー	1968 年	写真（反転）	100.0 × 100.0	国立国際美術館
V-09	カール・アンドレ	Zinc-Zinc Plain	1969 年	亜鉛板	各 30.5 × 30.5 × 1.0 全体 183.0 × 183.0 × 1.0	滋賀県立近代美術館
V-10	ドナルド・ジャッド	無題（プログレッション）	1969/70 年	真鍮、アノダイズドアルミニウム	15.6 × 281.3 × 15.2	大阪中之島美術館
V-11	ドナルド・ジャッド	無題	1988 年	彩色アルミニウム	30.0 × 210.4 × 30.0	和歌山県立近代美術館
V-12	ロバート・モリス	無題	1972 年	フェルト	176.0 × 250.0	滋賀県立近代美術館
V-13	ソル・ルウィット	ストラクチャー（正方形として 1.2.3.4.5）	1978-80 年	木製、白塗り	97.0 × 325.0 × 325.0	滋賀県立近代美術館
V-14	ソル・ルウィット	星々―中心の青い	1983 年	エッチング・アクアチント、紙（7 点組）	各 42.0 × 42.0	和歌山県立近代美術館

No.	作家名	作品名	制作年	素材、技法	サイズ	所蔵
V-15	ソル・ルウィット	無題(シリーズ「4×4×4」より)	1990 年	シルクスクリーン、紙	116.0 × 116.0	和歌山県立近代美術館
V-16	リチャード・セラ	バック・トゥー・ブラック	1981 年	リトグラフ、紙	133.2 × 156.5	滋賀県立近代美術館
V-17	リチャード・セラ	バッド・ウォーター	1981 年	リトグラフ、紙	133.1 × 157.5	滋賀県立近代美術館
V-18	アグネス・マーチン	無題 #10	1988 年	アクリル・鉛筆、カンヴァス	183.0 × 183.0	国立国際美術館
V-19	河原 温	MAR.27,1989 Today シリーズ (1966-2013) より	1989 年	アクリル、カンヴァス	45.7 × 61.0	滋賀県立近代美術館
V-20	河原 温	SEPT.27,1992 Today シリーズ (1966-2013) より	1992 年	アクリル、カンヴァス	45.7 × 61.0	滋賀県立近代美術館

VI. ポスト・モダン以後の表現―ニュー・ペインティングとアプロプリエーション・アート

VI-01	杉本博司	ハイエナ、ジャッカル、ハゲタカ	1976 年	ゼラチン・シルバー・プリント	42.4 × 54.3	和歌山県立近代美術館
VI-02	杉本博司	ラジオシティ・ミュージックホール、ニューヨーク	1978 年	ゼラチン・シルバー・プリント	42.3 × 54.5	和歌山県立近代美術館
VI-03	杉本博司	オハイオ・シアター、オハイオ	1980 年	ゼラチン・シルバー・プリント	42.0 × 54.4	和歌山県立近代美術館
VI-04	杉本博司	ダチョウ、イボイノシシ	1980 年	ゼラチン・シルバー・プリント	35.0 × 58.8	和歌山県立近代美術館
VI-05	ジョナサン・ボロフスキー	ブリーフケースを持つ人	1980-82 年	アルミニウム	226.7 × 90.2 × 0.7	滋賀県立近代美術館
VI-06	篠原有司男	将軍バー	1982 年	アクリル、カンヴァス	242.5 × 423.0	国立国際美術館
VI-07	シンディ・シャーマン	無題 #131	1983 年	タイプ C プリント	241.5 × 115.0	和歌山県立近代美術館
VI-08	シンディ・シャーマン	無題 #128	1983 年	タイプ C プリント	175.5 × 115.0	和歌山県立近代美術館
VI-09	ジャン＝ミシェル・バスキア	無題	1983 年	シルクスクリーン、カンヴァス	146.0 × 192.0	和歌山県立近代美術館
VI-11*	近藤竜男	Two Arces: N.86	1986 年	アクリル、カンヴァス	91.5 × 274.5 (× 2)	高松市美術館
VI-12**	依田寿久	Untitled	1986 年	油彩、カンヴァス	183.0 × 270.0	高松市美術館
VI-13	フェリックス・ゴンザレス＝トレス	無題 (ラスト・ライト)	1993 年	電球、ソケット、電気コード、スイッチ	サイズ可変	国立国際美術館

■森田恒友展
Morita Tsunetomo: A Retrospective

■会期：2020年2月1日（土）～3月22日（日）
※新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、2月29日（土）～3月22日（日）は臨時休館。
■主催：埼玉県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
■協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
■助成：公益財団法人ポーラ美術振興財団、芸術文化振興基金
■出品協力：東京国立近代美術館
■観覧料：一般1100円（880円）、大高生880円（710円）
（　）内は20名以上の団体料金
■入場者数：2,742人
■広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4／デザイン：山下雅士（sleepwalk）
■担当学芸員：吉岡知子、鴫原 悠

B2ポスター

■開催趣旨

埼玉県熊谷市に生まれ、明治末から昭和初期にかけて活躍した画家・森田恒友（1881-1933）の回顧展。恒友は不同舎や東京美術学校で洋画を学び、美術学校では先輩の青木繁から影響を受けて浪漫主義的な作品を描いた。卒業後は雑誌や新聞で挿絵や漫画を担当し、美術文芸雑誌『方寸』の創刊にも携わる。1914（大正3）年にヨーロッパに渡ると、セザンヌに強く惹かれ、その影響を色濃く受けた作品を制作した。しかし、翌年に帰国して日本各地を旅するうちに、水墨表現が日本の風景に適していることを見出し、後半生には柔らかな筆遣いで旅先や武蔵野の平野をとらえた清澄な日本画を発表した。

恒友は生涯を通じて洋画と日本画の両方を手がけ、さまざまな作風を試みたが、自然やその地に暮らす人々を静かに見つめ、共感を込めて描く制作態度は一貫していた。この展覧会では、洋画と日本画の主要作品および雑誌やスケッチブック、書簡、装幀本等の資料を含む約250点によって、恒友の画業を辿った。また恒友が大正期にたびたび訪れ、支援者と親交を深めた会津地方における活動や、文芸誌との関わりにも着目し、新たな視点から恒友の魅力を紹介した。

■カタログ

規格：B5変型判（25.8×18.6cm）、240頁
編集・執筆：吉岡知子（埼玉県立近代美術館）、鴫原悠（埼玉県立近代美術館）、増渕鏡子（福島県立美術館）、紺野朋子（福島県立美術館）
翻訳：小川紀久子
デザイン：桑畑吉伸
制作：リーヴル
印刷：光村印刷株式会社
発行日：2019年11月23日
発行：埼玉県立近代美術館、福島県立美術館
内容・構成：吉岡知子「森田恒友　自然と人間を見つめて」／作品図版および章解説テキスト、コラム（カラー掲載）／増渕鏡子「森田恒友の支援者たち―会津と丹波を中心に―」／鴫原悠「森田恒友の挿絵と漫画―初期の仕事を中心に」／吉岡知子・増渕鏡子［編］森田恒友　書簡翻刻（倉田白羊宛、田代与三久［蘇陽］宛、西山亮三［泊雲］宛）／森田恒友　自筆文献再録／吉岡知子［編］森田恒友　年譜／鴫原悠［編］主要展覧会出品歴／落款・印章（日本画）、サイン（油彩画）／橘川英規・田所泰［編］森田恒友　書誌／出品リスト／奥付／英文抄訳
価格：2,100円

■関連事業

・レクチャー「恒友をめぐる人と自然―会津を中心に」／

2月23日（日）／講師：増渕鏡子（福島県立美術館学芸員）／講堂／参加者：55名
・ミュージアム・コンサート「彩り　魅せる～トランペットで奏でる音の風景」／日時：2月16日（日）／出演：佐藤友紀（トランペット）ほか／センターホール／参加者：58名
・担当学芸員によるギャラリー・トーク／2月29日（土）、3月14日（土）／臨時休館のため中止

■広報記録

＜新聞＞
・「日本の風景　柔らかな筆　近代美術館「森田恒友展」」『読売新聞』埼玉県版、2020年2月2日
・小出菜津子「森田恒友展　自然描き　自分の道模索」『埼玉新聞』、2020年2月18日
・井上晋治「誠実な自然描写の軌跡　森田恒友展」『読売新聞』、2020年2月20日
・吉岡知子「森田恒友展　セザンヌ強い影響」『読売新聞』埼玉県版、2020年2月16日
・鴫原悠「森田恒友展　旅を通じ作風転換」『読売新聞』埼玉県版、2020年2月21日
・吉岡知子「森田恒友展　たどり着いた画境」『読売新聞』埼玉県版、2020年2月22日
・「「森田展」に優秀カタログ賞」『読売新聞』埼玉県版、2020年3月12日
・「貴重な展示　家で鑑賞」『読売新聞』埼玉県版、2020年4月7日
・告知：『埼東よみうり』2020年1月3日／『埼玉中央よみうり』2020年1月24日／『東京新聞』2020年1月30日、2月13日、3月5日／『産経新聞』2020年2月2日、2月9日／『朝日新聞』2020年2月11日／『埼玉新聞』2020年2月16日、2月18日、2月25日、3月10日／『毎日新聞』2020年3月20日

＜テレビ＞
・「日曜美術館　アートシーン」NHK、2020年2月23日

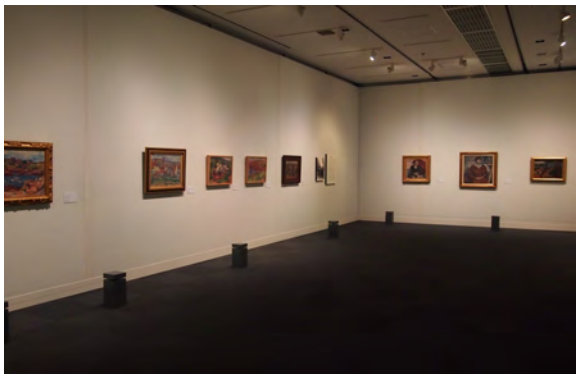
＜雑誌、ミニコミ誌等＞
・「森田恒友展」『美術展ぴあ』2019年9月30日
・吉岡知子「展覧会紹介　森田恒友展」『美連協ニュース』2019年11月号
・「2月1日から「森田恒友展　自然と共に生きて行かう」開催」『ショッパー』2020年1月1日
・『Acoreおおみや』2020年1月7日
・野地耕一郎「見なお史日本近代絵画　こんな画家がいた！　両洋の目をもった平野人画家　森田恒友」『一枚の繪』2020年2・3月号
・『美術展ぴあ』2020年1月30日
・『いけ花龍生』2020年2月号
・『彩の国だより』2020年2月1日
・『ホットペッパー』2020年2月1日
・『たまログ』2020年2月号
・『新美術新聞』2020年2月1日
・『つくりびと』2020年2月1日
・『定年時代』2020年2月3日
・『ミセス』2020年3月号
・吉岡知子「美連協大賞「優秀カタログ賞」」『美連協ニュース』2020年5月号

＜WEB＞
・『Share Art』2020年1月11日
・『美術手帖』2020年1月29日
・「自然に向き合い、自然をとらえる「森田恒友展　自然と共に生きて行かう」開幕（埼玉県立近代美術館）」『美術展ナビ』2020年2月4日

■担当後記

◆当館では県ゆかりの画家として、森田恒友の作品を継続的に収集しているが、回顧展は1991年の「森田恒友とその時代」展を最後に開催しておらず、本展はその画業を改めて見つめ直す機会となった。企画に賛同いただいた福島県立美術館との巡回展として、当館が幹事館になり、両館が協力して準備を進めた。先に福島会場で2019年11月に開幕し、その後、当館に巡回した。
◆「森田恒友とその時代」展で先輩学芸員が残してくれた文献資料や調査記録を読み解きつつ、関西から東北まで所蔵先を訪ねて作品調査を行った。調査の過程で、本画の下絵や旅先の風景が描かれたスケッチブック、俳誌『ホトトギス』の俳人との交流が窺える書簡、その他に装幀本、雑誌など多くの資料が見つかった。恒友は生涯にわたって自然と人間を真摯に見つめ、共感を込めて描いたが、こうした制作態度の背景には、恒友が親しんだ俳句の世界観や、雑誌の漫画の仕事を通じて培った、市井の人々に向けるユーモアに満ちた眼差しがあった。書簡や雑誌などの資料を本画とあわせて展示することにより、恒友の創作を支えた豊かな人的交流や文化的背景を、ある程度紹介することができたのではないかと思う。
◆恒友が大正期にたびたび訪れ、支援者と親交を深めた会津地方での活動について、長年調査を続けてこられた福島県立美術館のご協力により、詳しく紹介することができた。会期中に同館の増渕鏡子さんをお招きして、恒友の会津における足跡を、文化史を交えながら豊富な図版や地図とともにお話しいただいた。

◆連携展示として、会期中に埼玉県立久喜図書館と熊谷市立熊谷図書館で、恒友の関連書籍や雑誌等を展示していただいた。また当館では関連展示として、MOMASコレクション第4期の「春陽会―旗揚げのころ」のコーナーで、恒友、倉田白羊、斎藤与里らの春陽会出品作や、当時の雰囲気を伝える資料を紹介した。
◆会期中に新型コロナウイルス感染症の流行が広がり、はじめに2月29日から3月15日までの臨時休館が決まった。会期最後の1週間に再び開館できる可能性を考えて、3月2日に前後期の展示替を行ったが、臨時休館の延長により、最終日の3月22日まで結局開館は叶わなかった。会期の後半にご来場いただけなかったことは、大変残念であった。
◆展覧会は途中で終了してしまったが、ご遺族の皆様をはじめとする関係者の方々のご厚意により、恒友の多方面にわたる活動を紹介することができた。心よりお礼申し上げたい。また本展の図録は、美術館連絡協議会の優秀カタログ賞を受賞した。会期中に恒友に関する新たな資料の情報も寄せられ、本展を契機として、作家研究がさらに進むことを願っている。　（吉岡知子）


会場風景：「第3章　欧州漫遊」より

会場風景：「第4章　洋画から日本画へ」より

■出品リスト

・作品番号の後に「前期」または「後期」とある作品は、会期中展示替を行った。
　前期展示：2月1日～3月1日　後期展示：3月3日～3月22日　※ただし2月29日より臨時休館のため一般公開はなし。
・「不出品」とある作品は埼玉会場では展示されていない（福島会場のみ出品）。
・特に作家名の記載のないものは、森田恒友による作品である。

No.	作家名（森田恒友の場合は不記載） 作品・資料名	制作年	技法、素材／発行	寸法（cm）	所蔵先
第1章　出発―洋画家として					
1-01	河畔の村	1901（明治34）年頃	油彩、カンヴァス	45.8 × 33.5	埼玉県立近代美術館蔵
1-02	農家の洗場	1901（明治34）年頃	油彩、カンヴァス	33.5 × 45.5	埼玉県立近代美術館蔵
1-03	玉井村	1901（明治34）年	鉛筆、紙	45.5 × 29.1	個人蔵
1-04	土家	1901（明治34）年	鉛筆、紙	47.0 × 29.3	個人蔵
1-05	大里郡深谷並木	1901（明治34）年	鉛筆、紙	47.0 × 29.1	個人蔵
1-06	自画像	1903（明治36）年	木炭、紙	42.0 × 29.8	個人蔵
1-07	少女	1903（明治36）年頃	油彩、カンヴァス	60.7 × 45.2	熊谷市立熊谷図書館蔵
1-08	裸体習作	1904（明治37）年	木炭、紙	63.5 × 49.0	個人蔵
1-09	裸体習作	1906（明治39）年	木炭、紙	63.6 × 48.0	個人蔵
1-10	樵夫	1904（明治37）年頃	油彩、カンヴァス	90.0 × 124.0	埼玉県立近代美術館蔵
1-11	すき髪	1905（明治38）年	油彩、カンヴァス	100.0 × 73.0	個人蔵（熊谷市立熊谷図書館寄託）
1-12	青木繁・森田恒友 春の夕	1905（明治38）年	油彩、板	23.2 × 33.0	府中市美術館蔵
1-13	キリストの説教	1905（明治38）年	油彩、カンヴァス	41.0 × 32.0	株式会社 永木精機蔵
1-14	自画像	1906（明治39）年	油彩、カンヴァス	60.6 × 45.4	東京藝術大学蔵
資1-01	スケッチブック［不同舎時代］			10.5 × 18.2	個人蔵
資1-02	スケッチブック［明治時代後期］			13.6 × 18.5	個人蔵
資1-03	スケッチブック ［東京美術学校時代］			12.3 × 16.7	個人蔵
資1-04	スケッチブック ［東京美術学校時代・布良］			10.8 × 16.4	個人蔵
資1-05	スケッチブック ［東京美術学校時代］			11.3 × 19.4	個人蔵
資1-06	スケッチブック ［東京美術学校時代］			18.5 × 13.0	個人蔵
資1-07	スクラップブック［絵葉書］			30.1 × 23.4	個人蔵
資1-08	大里高等小学校第三学年編入証書	1893（明治26）年9月15日		24.8 × 35.1	個人蔵
資1-09	大里高等小学校第二学年修業証書	1894（明治27）年3月26日		21.7 × 28.4	個人蔵
資1-10	大里高等小学校第三学年修業証書	1894（明治27）年3月26日		21.5 × 28.4	個人蔵
資1-11	大里高等小学校第四学年級長辞令	1894（明治27）年4月5日		24.3 × 32.9	個人蔵
資1-12	大里高等小学校第四学年級什長辞令	1894（明治27）年12月25日		24.6 × 34.4	個人蔵
資1-13	大里高等小学校贈与状	1895（明治28）年8月15日		25.0 × 31.7	個人蔵
資1-14	東京美術学校卒業証	1906（明治39）年4月2日		41.2 × 54.2	個人蔵
第2章　『方寸』から无声会へ―模索の時代					
2-01	島の井	1906（明治39）年	油彩、カンヴァス	81.3 × 60.0	埼玉県立近代美術館蔵

No.	作家名（森田恒友の場合は不記載） 作品・資料名	制作年	技法、素材／発行	寸法（cm）	所蔵先
2-02	伊豆の海小屋	1906（明治 39）年	油彩、カンヴァス	60.5 × 80.5	熊谷市立熊谷図書館蔵
2-03	森田彦三郎氏肖像画	1927（昭和 2）年	油彩、カンヴァス	53.0 × 45.5	熊谷市立熊谷図書館蔵
2-04	湖畔	1907（明治 40）年	油彩、カンヴァス	66.0 × 114.0	埼玉県立近代美術館蔵
2-05	午睡する看護婦	1907（明治 40）年	油彩、カンヴァス	114.0 × 67.4	埼玉県立近代美術館蔵
2-06	新緑の水辺	1907（明治 40）年	油彩、カンヴァス	60.3 × 42.1	個人蔵
2-07	少女像	1907（明治 40）年	油彩、カンヴァス	45.5 × 33.0	個人蔵
2-08	舞妓	1911（明治 44）年頃	油彩・金、カンヴァス	50.0 × 26.0	個人蔵
2-09	作品名不詳		油彩・金泥、カンヴァス	30.5 × 95.8	個人蔵
2-10	作品名不詳		油彩、カンヴァス	45.3 × 60.0	個人蔵
2-11	漁村（網干）	1912（明治 45/ 大正元）年	油彩・木炭、カンヴァス	19.9 × 54.3	星野画廊蔵
2-12	漁夫の家族	1912（明治 45/ 大正元）年	油彩・木炭・金、カンヴァス	21.0 × 53.6	星野画廊蔵
2-13	漁村	1912（明治 45/ 大正元）年	油彩・木炭、カンヴァス	19.5 × 52.8	個人蔵
2-14	川に沿う街	1912（明治 45/ 大正元）年	油彩、カンヴァス	60.3 × 79.9	個人蔵
2-15	母と子	1911-12（明治 44- 大正元）年頃	油彩、カンヴァス	80.2 × 65.2	個人蔵
2-16	房州風景	1913（大正 2）年	油彩、カンヴァス	60.6 × 80.4	埼玉県立近代美術館蔵
2-17	着船	1913（大正 2）年	油彩、カンヴァス	79.0 × 59.0	埼玉県立近代美術館蔵
2-18 前期	海辺風景	1911-13（明治 44- 大正 2）年頃	金地・彩色、麻布	148.5 × 178.2	茨城県近代美術館蔵
2-19 後期	初夏風景	1911-13（明治 44- 大正 2）年頃	紙本着色	133.5 × 123.0	個人蔵
2-20 前期	呑み友達	1911-13（明治 44- 大正 2）年頃	紙本着色	129.0 × 31.0	個人蔵
2-21 後期	船頭	1911-13（明治 44- 大正 2）年頃	紙本着色	127.4 × 31.4	個人蔵
2-22 前期	赤マント	1911-13（明治 44- 大正 2）年頃	紙本着色	132.0 × 30.0	個人蔵
2-23 後期	淀川沿いの街道	1912（明治 45/ 大正元）年	紙本着色	136.2 × 31.0	個人蔵
2-24 前期	夏の街道	1911-13（明治 44- 大正 2）年頃	紙本着色	120.6 × 31.5	熊谷市立熊谷図書館蔵
2-25 後期	下総の一部	1911-13（明治 44- 大正 2）年頃	紙本着色	129.0 × 31.5	熊谷市立熊谷図書館蔵
2-26 前期	収穫	1911-13（明治 44- 大正 2）年頃	紙本着色	130.0 × 28.8	個人蔵
2-27 後期	漁村風景	1911-13（明治 44- 大正 2）年頃	紙本着色	135.0 × 31.0	個人蔵
2-28 ～ 37	「漫画の東京」『現代』原画	1913（大正 2）年頃			東京藝術大学蔵
2-28 前期	浅草（『現代』第 4 巻第 2 号）原画		墨・ペン、紙	13.4 × 17.9	
2-29 後期	浅草（『現代』第 4 巻第 2 号）原画		墨・ペン・水彩、紙	13.1 × 18.5	
2-30 前期	浅草（『現代』第 4 巻第 2 号）原画		墨・ペン・水彩、紙	13.0 × 18.3	
2-31 後期	浅草（『現代』第 4 巻第 3 号）原画		墨・筆・水彩、紙	13.8 × 19.1	
2-32 前期	浅草（『現代』第 4 巻第 3 号）原画		墨・筆・水彩、紙	12.6 × 18.0	
2-33 後期	浅草（『現代』第 4 巻第 3 号）原画		墨・ペン・水彩、紙	14.6 × 19.2	
2-34 前期	浅草（『現代』第 4 巻第 3 号）原画		コンテ、紙	13.5 × 18.9	
2-35 後期	上野（『現代』第 4 巻第 4 号）原画		墨・筆・ペン・水彩、紙	15.6 × 18.6	

No.	作家名（森田恒友の場合は不記載） 作品・資料名	制作年	技法、素材／発行	寸法（cm）	所蔵先
2-36 前期	上野（『現代』第 4 巻第 4 号）原画		墨・筆・ペン・水彩、紙	14.2 × 16.8	
2-37 後期	上野（『現代』第 4 巻第 4 号）原画		墨・筆・ペン・水彩、紙	14.6 × 18.0	
資 2-01	スケッチブック［方寸時代］			10.8 × 18.7	個人蔵
資 2-02	スケッチブック［方寸時代］			14.4 × 20.7	個人蔵
資 2-03	スケッチブック［1908 年頃］			14.2 × 19.2	個人蔵
資 2-04	スケッチブック［秋田時代 /1908 年］			11.4 × 18.7	個人蔵
資 2-05	スケッチブック［別府 /1911 年］			12.4 × 18.8	個人蔵
資 2-06	スケッチブック［耶馬溪 /1911 年］			10.9 × 18.3	個人蔵
資 2-07	スケッチブック［大阪時代］			11.4 × 18.7	個人蔵
資 2-08	スケッチブック［大阪時代］			11.7 × 18.7	個人蔵
資 2-09	スケッチブック［大阪時代・天神祭］			9.0 × 14.7	個人蔵
資 2-10	スケッチブック［大阪見物］			11.6 × 18.0	個人蔵
資 2-11	スケッチブック［涼風をちこち／京ところどころ］			11.1 × 18.6	個人蔵
資 2-12	スケッチブック［大阪時代］			9.1 × 14.7	個人蔵
資 2-13	『方寸』第 1 巻第 2 号	1907（明治 40）年 6 月 15 日	方寸社	31.4 × 23.2	個人蔵
資 2-14	『方寸』第 1 巻第 6 号	1907（明治 40）年 11 月 13 日	方寸社　附録：エッチング、紙	31.7 × 23.3 附録：30.5 × 22.1	個人蔵
資 2-15	『方寸』第 2 巻第 5 号	1908（明治 41）年 7 月 3 日	方寸社	31.0 × 23.2	熊谷市立熊谷図書館蔵
資 2-16	『方寸』第 3 巻第 1 号	1909（明治 42）年 1 月 1 日	方寸社	31.0 × 23.0	熊谷市立熊谷図書館蔵
資 2-17	『方寸』第 3 巻第 2 号 （HOSUN TOKBETU MANGAGŌ）	1909（明治 42）年 2 月 18 日	方寸社	30.0 × 22.2	熊谷市立熊谷図書館蔵
資 2-18	『方寸』第 3 巻第 3 号	1909（明治 42）年 3 月 28 日	方寸社	30.5 × 23.5	熊谷市立熊谷図書館蔵
資 2-19	『方寸』第 4 巻第 2 号	1910（明治 43）年 2 月 10 日	方寸社	31.0 × 23.2	熊谷市立熊谷図書館蔵
資 2-20	『方寸』第 4 巻第 4 号 （通信号）	1910（明治 43）年 5 月 10 日	方寸社	31.0 × 23.0	熊谷市立熊谷図書館蔵
資 2-21	『方寸画暦　四十弐季』	1908（明治 41）年 12 月 24 日	方寸社	19.2 × 11.4	埼玉県立近代美術館蔵
資 2-22	『ホトトギス』第 10 巻第 11 号	1907（明治 40）年 8 月 1 日	ほととぎす発行所	22.5 × 15.3	個人蔵
資 2-23	『サンデー』第 10 号	1909（明治 42）年 1 月 31 日	太平洋通信社	38.7 × 26.7	京都国際マンガミュージアム／京都精華大学国際マンガ研究センター蔵
資 2-24	『サンデー』第 24 号	1909（明治 42）年 5 月 9 日	週報社	38.7 × 27.2	京都国際マンガミュージアム／京都精華大学国際マンガ研究センター蔵
資 2-25	『東京パック』第 8 巻第 17 号	1912（明治 45）年 7 月 1 日	東京パック社	37.7 × 25.7	京都国際マンガミュージアム／京都精華大学国際マンガ研究センター蔵
資 2-26	『東京パック』第 8 巻第 18 号	1912（明治 45）年 7 月 10 日	東京パック社	37.6 × 25.9	京都国際マンガミュージアム／京都精華大学国際マンガ研究センター蔵
資 2-27	『早稲田文学』第 88 号	1913（大正 2）年 3 月 1 日	東京堂書店	22.2 × 15.0	さいたま文学館蔵
資 2-28	『早稲田文学』第 100 号	1914（大正 3）年 3 月 1 日	東京堂書店	22.5 × 15.0	さいたま文学館蔵

第3章　欧州漫遊

3-01	初夏のパリ郊外	1914（大正 3）年	油彩、カンヴァス	46.0 × 53.0	埼玉県立近代美術館蔵
3-02	リヨン郊外	1914（大正 3）年	油彩、カンヴァス	46.0 × 55.0	埼玉県立近代美術館蔵
3-03	プロヴァンス風景	1914（大正 3）年	油彩、カンヴァス	45.8 × 53.3	熊谷市立熊谷図書館蔵
3-04	婦人像	1914（大正 3）年	油彩、カンヴァス	53.0 × 45.5	東京国立近代美術館蔵

No.	作家名（森田恒友の場合は不記載） 作品・資料名	制作年	技法、素材／発行	寸法（cm）	所蔵先
3-05	少女（2）	1914（大正3）年	油彩、カンヴァス	72.6 × 60.2	埼玉県立近代美術館蔵
3-06	ヴェトゥイユの春	1915（大正4）年	油彩、カンヴァス	45.5 × 54.4	個人蔵
3-07	ヴェトゥイユの春 III	1915（大正4）年	油彩、カンヴァス	45.5 × 54.5	埼玉県立近代美術館蔵
3-08	ヴェトゥイユの春V	1915（大正4）年	油彩、カンヴァス	45.5 × 52.7	個人蔵
3-09	ブルターニュ風景	1915（大正4）年	油彩、カンヴァス	50.0 × 61.0	大阪市立美術館蔵
3-10	イル・ブレア	1915（大正4）年	油彩、カンヴァス	50.0 × 60.5	埼玉県立近代美術館蔵
3-11	作品名不詳	1914-15（大正3-4）年	油彩、カンヴァス	49.7 × 59.8	個人蔵
3-12	フランス風景	1914-15（大正3-4）年	油彩、カンヴァス	37.5 × 45.5	東京国立近代美術館蔵
3-13	フランス風景	1915（大正4）年	油彩、カンヴァス	50.0 × 61.0	埼玉県立近代美術館蔵
3-14	作品名不詳	1914-15（大正3-4）年	油彩、板	26.4 × 35.2	個人蔵
3-15	ヴェトゥイユ	1915（大正4）年	油彩、板	18.6 × 24.0	個人蔵
3-16	パリ風景	1915（大正4）年	水彩・鉛筆、紙	19.8 × 26.0	個人蔵
3-17	グラナダ	1915（大正4）年	鉛筆、紙	19.0 × 12.5	個人蔵
3-18	滞欧風景		油彩、カンヴァス	23.5 × 58.5	個人蔵
3-19	欧州風景		紙本着色	右：135.0 × 30.3 中：134.1 × 30.3 左：133.4 × 30.3	個人蔵
3-20	漫遊帖	1916（大正5）年	紙本着色	（各）18.0 × 27.1	個人蔵
3-21	欧州画旅之紀念	1916（大正5）年	紙本着色	（各）20.5 × 32.7	個人蔵
3-22	西欧風景		絹本着色	48.8 × 41.5	埼玉県立近代美術館蔵
資 3-01	スケッチブック ［留学時代（香港・上海）］			11.5 × 16.7	個人蔵
資 3-02	スケッチブック［留学時代］			11.0 × 16.3	個人蔵
資 3-03	スケッチブック［留学時代］			13.8 × 10.6	個人蔵
資 3-04	スケッチブック［留学時代］			12.5 × 19.3	個人蔵
資 3-05	スケッチブック［留学時代］			12.4 × 19.0	個人蔵
資 3-06	遠矢良茂宛葉書（コロンボ）	1914（大正3）年5月20日	ペン・鉛筆・水彩、紙	14.1 × 9.0	埼玉県立近代美術館蔵
資 3-07	遠矢良茂宛葉書（ローマ）	1915（大正4）年2月6日	ペン・鉛筆・水彩、紙	14.0 × 9.1	埼玉県立近代美術館蔵
資 3-08	遠矢良茂宛葉書（ヴェトゥイユ）	1915（大正4）年5月9日	ペン・水彩、紙	13.9 × 8.8	埼玉県立近代美術館蔵
資 3-09	遠矢良茂宛葉書（ヴェトゥイユ）	1915（大正4）年5月9日	ペン・水彩、紙	13.9 × 8.8	埼玉県立近代美術館蔵
資 3-10	遠矢良茂宛葉書（セゴビア）	1915（大正4）年6月24日	ペン・水彩、紙	14.0 × 9.1	埼玉県立近代美術館蔵
資 3-11	森田恒友・山本鼎 倉田白羊宛葉書（パリ）	1914（大正3）年7月13日 消印	ペン、紙	9.1 × 13.9	埼玉県立近代美術館蔵
資 3-12	倉田白羊宛葉書（サン＝シール）	1914（大正3）年10月［推定］	ペン、紙	9.0 × 13.9	埼玉県立近代美術館蔵
資 3-13	倉田白羊宛葉書（ブルターニュ）	1915（大正4）年7月24日	ペン、紙	9.0 × 13.9	埼玉県立近代美術館蔵
資 3-14	森田恒友装幀・口絵 島崎藤村『戦争と巴里』	1915（大正4）年12月24日	新潮社	19.5 × 12.9	個人蔵
第4章　洋画から日本画へ					
4-01	作品名不詳（天草）	1916（大正5）年頃	油彩、カンヴァス	45.6 × 53.2	個人蔵
4-02	見下ろしたる港町	1916（大正5）年	油彩、カンヴァス	45.7 × 54.5	埼玉県立近代美術館蔵

No.	作家名（森田恒友の場合は不記載） 作品・資料名	制作年	技法、素材／発行	寸法（cm）	所蔵先
4-03	日本風景版画 第五集 天草之部	1917（大正 6）年	木版、紙		埼玉県立近代美術館蔵
4-03-1	天草群島			16.9 × 23.2	
4-03-2	談合島			23.9 × 17.2	
4-03-3	牛深港			17.0 × 23.2	
4-03-4	二江漁村			17.0 × 23.8	
4-03-5	富岡			16.9 × 23.1	
4-04	作品名不詳		油彩、カンヴァス	53.0 × 40.7	個人蔵
4-05	松原	1916（大正 5）年	油彩、カンヴァス	54.5 × 43.0	大阪市立美術館蔵
4-06	城址	1916（大正 5）年	油彩、カンヴァス	53.0 × 41.0	埼玉県立近代美術館蔵
4-07	会津風景	1916（大正 5）年	油彩、カンヴァス	65.0 × 80.3	埼玉県立近代美術館蔵
4-08	緩流	1917（大正 6）年	油彩、カンヴァス	60.5 × 72.8	熊谷市立熊谷図書館蔵
4-09	水辺山路	1917（大正 6）年	油彩、カンヴァス	45.6 × 53.4	個人蔵
4-10	村童	1916（大正 5）年頃	紙本墨画淡彩	134.0 × 31.0	熊谷市立熊谷図書館蔵
4-11 後期	村はずれ	1916-17（大正 5-6）年頃	紙本墨画淡彩	85.2 × 42.7	個人蔵
4-12 前期	雪の会津図	1917（大正 6）年頃	絹本着色	126.3 × 41.0	個人蔵
4-13	草深し		絹本着色	132.8 × 42.3	個人蔵
4-14	日本風景版画 第二集 会津之部	1917（大正 6）年	木版、紙		埼玉県立近代美術館蔵
4-14-1	若松城趾			17.5 × 24.0	
4-14-2	阿賀川			17.4 × 24.2	
4-14-3	檜原湖畔			23.8 × 17.6	
4-14-4	川上温泉			17.5 × 24.3	
4-14-5	磐梯山麓小湖			17.0 × 23.5	
4-15	阿賀川河畔	1916（大正 5）年頃	コンテ・水彩、紙	29.5 × 38.5	熊谷市立熊谷図書館蔵
4-16	喜多方風景	1916-17（大正 5-6）年頃	コンテ、紙	29.8 × 42.5	個人蔵
4-17	奥会津の山村	1916-17（大正 5-6）年頃	コンテ、紙	26.7 × 38.0	個人蔵
4-18	雪国帖	1920（大正 9）年	紙本墨画淡彩	（各）24.0 × 35.6	個人蔵
4-19 前期	葦と舟（風景）		紙本墨画淡彩	127.8 × 41.0	熊谷市立熊谷図書館蔵
4-20	やどり木	1917（大正 6）年	紙本墨画	125.2 × 69.5	埼玉県立近代美術館蔵
4-21 前期	冬晴	1917-18（大正 6-7）年頃	紙本墨画	139.3 × 66.6	埼玉県立近代美術館蔵
4-22	晩春風景	1917（大正 6）年頃	紙本墨画	58.0 × 78.5	熊谷市立熊谷図書館蔵
4-23	郊外初夏	1917（大正 6）年	油彩、カンヴァス	45.6 × 55.0	個人蔵
4-24	秩父路冬日	1918（大正 7）年頃	油彩、カンヴァス	63.5 × 77.0	熊谷市立熊谷図書館蔵
4-25 後期	潮来		コンテ・水彩、紙	35.4 × 39.4	個人蔵
4-26 前期	郊外の図	1918（大正 7）年	紙本墨画淡彩	138.9 × 43.8	個人蔵
4-27 後期	沼畔風日		紙本墨画	124.1 × 58.0	個人蔵

No.	作家名（森田恒友の場合は不記載） 作品・資料名	制作年	技法、素材／発行	寸法（cm）	所蔵先
4-28	水郷図		絹本着色	126.4 × 41.8	個人蔵
4-29	岸近く	1919-20（大正 8-9）年頃	絹本着色	128.3 × 41.7	埼玉県立近代美術館蔵
4-30 後期	山村の麦刈	1920（大正 9）年頃	絹本着色	129.0 × 31.0	埼玉県立近代美術館蔵
4-31 後期	河岸葉柳	1921-22（大正 10-11）年頃	絹本着色	113.5 × 36.0	埼玉県立近代美術館蔵
4-32 前期	漁村図	1919-20（大正 8-9）年頃	紙本墨画、金	94.5 × 90.4	個人蔵（群馬県立館林美術館寄託）
4-33 後期	山麓	1920（大正 9）年	紙本墨画	60.0 × 69.0	埼玉県立近代美術館蔵
4-34	夏の路傍	1920（大正 9）年	油彩、カンヴァス	38.0 × 46.0	東京国立近代美術館蔵
4-35	晩夏	1921（大正 10）年	コンテ、紙	27.7 × 40.6	埼玉県立近代美術館蔵
資 4-01	スケッチブック［天草］			20.2 × 14.2	個人蔵
資 4-02	スケッチブック［会津］			15.0 × 22.5	個人蔵
資 4-03	スケッチブック［会津］			14.3 × 19.0	個人蔵
資 4-04	日本風景版画 第二集 会津之部 《若松城趾》校正刷	1917（大正 6）年頃	木版、紙	19.6 × 28.0 ほか	個人蔵
資 4-05	日本風景版画 第二集 会津之部 《阿賀川》校正刷	1917（大正 6）年頃	木版・墨、紙	19.4 × 26.5 ほか	個人蔵
資 4-06	短冊		金地着色	36.0 × 6.0	個人蔵
資 4-07	短冊		絹本着色	36.3 × 6.1	個人蔵
資 4-08	高浜虚子　小川芋銭画　俳句短冊		紙本墨書、淡彩	36.2 × 6.1	個人蔵
資 4-09	高浜虚子　西山泊雲追悼の句		紙本墨書	36.3 × 6.0	個人蔵
資 4-10	西山泊雲宛葉書	1921（大正 10）7 月 21 日	墨・彩色、紙	14.3 × 9.2	個人蔵
資 4-11	小川芋銭　西山泊雲宛葉書	1927（昭和 2）年 12 月 20 日 消印	墨、紙	14.0 × 9.1	個人蔵
資 4-12	小川芋銭　西山謙三・桑子宛葉書	1936（昭和 11）年 5 月 10 日 消印	墨、紙	14.0 × 8.9	個人蔵
資 4-13	平福百穂　葉書		ペン、紙	14.2 × 9.0	個人蔵
資 4-14	平福百穂　西山亮三（泊雲）宛葉書	1916（大正 5）年 1 月 30 日	ペン・水彩、紙	14.0 × 9.1	個人蔵
資 4-15	高浜清（虚子）宛葉書	1920（大正 9）年 11 月 4 日	水彩・鉛筆・ペン、紙	14.3 × 9.2	さいたま文学館蔵
資 4-16	田代与三久宛書簡	1916（大正 5）年 10 月 9 日		書簡：18.3 × 96.4	福島県立美術館蔵（安斎勇雄コレクション）
資 4-17	西山泊雲宛書簡	1932（昭和 7）年 6 月 19 日		書簡：26.0 × 20.3 封筒：21.5 × 8.8	個人蔵
資 4-18	山水五趣椀	1916-17（大正 5-6）年	漆器に絵付け	（各）12.7 × 12.7 × 8.5	熊谷市立熊谷図書館蔵
資 4-19	羽織	1916-17（大正 5-6）年	羽織に絵付け	身丈 110.0 × 裄 65.5	熊谷市立熊谷図書館蔵
資 4-20	茶碗	1916-17（大正 5-6）年	漆器に絵付け	径 6.7 × 7.8	福島県立美術館蔵
資 4-21	『ホトトギス』第 23 巻第 4 号	1920（大正 9）年 1 月 1 日	ほとゝぎす発行所	22.1 × 15.0	さいたま文学館蔵
資 4-22	『ホトトギス』第 23 巻第 12 号	1920（大正 9）年 9 月 1 日	ほとゝぎす発行所	22.0 × 15.0	さいたま文学館蔵
資 4-23	『電気と文芸』第 1 巻第 1 号	1920（大正 9）年 8 月 1 日	電気文芸社	26.0 × 19.1	さいたま文学館蔵
資 4-24	『電気と文芸』第 2 巻第 2 号	1921（大正 10）年 2 月 1 日	電気文芸社	26.0 × 18.9	さいたま文学館蔵
資 4-25	『電気と文芸』第 2 巻第 4 号	1921（大正 10）年 4 月 1 日	電気文芸社	26.0 × 18.4	さいたま文学館蔵
資 4-26	『電気と文芸』挿絵原画	1920-21（大正 9-10）年頃	インク、紙ほか	32.7 × 20.8 ほか	さいたま文学館蔵
資 4-27	『早稲田文学』第 176 号	1920（大正 9）年 7 月 1 日	東京堂書店	22.0 × 15.0	さいたま文学館蔵

No.	作家名（森田恒友の場合は不記載） 作品・資料名	制作年	技法、素材／発行	寸法（cm）	所蔵先
資 4-28	『早稲田文学』第 188 号	1921（大正 10）年 7 月 1 日	東京堂書店	22.0 × 15.0	さいたま文学館蔵
資 4-29	『早稲田文学』第 221 号	1924（大正 13）年 7 月 1 日	東京堂書店	22.2 × 15.1	さいたま文学館蔵
資 4-30	『枯野』第 8 巻第 5 号	1928（昭和 3）年 5 月 1 日	枯野発行所	22.6 × 15.0	さいたま文学館蔵
資 4-31	森田恒友装幀 田山花袋『こころの緒』	1921（大正 10）年 4 月 25 日	日本評論社出版部	17.8 × 11.7	個人蔵
資 4-32	森田恒友装幀 相馬御風『砂上漫筆』	1921（大正 10）年 5 月 20 日［再版］	春陽堂	20.0 × 13.5	個人蔵
資 4-33	森田恒友装幀 北原白秋『トンボの眼玉』	1922（大正 11）年 3 月 10 日［六版］	アルス	19.5 × 13.3	個人蔵
資 4-34	森田恒友装幀　野口米次郎　『二重国籍者の詩（林檎一つ落つ）』	1922（大正 11）年 4 月 15 日	玄文社詩歌部	19.6 × 14.2	島田安彦コレクション
資 4-35	森田恒友装幀 田山花袋『花袋全集　第 2 巻』	1923（大正 12）年 3 月 18 日	花袋全集刊行会	19.9 × 14.5	個人蔵
資 4-36	森田恒友装幀 島木赤彦『赤彦童謡集』	1924（大正 13）年 1 月 18 日［三刷］	古今書院	19.3 × 13.0	個人蔵
資 4-37	森田恒友装幀　神野溪石　『矢車　欧米漫遊の俳句と日誌』	1925（大正 14）年 7 月 15 日	枯野社	20.0 × 13.1	個人蔵
資 4-38	森田恒友装幀　長谷川零餘子編著 『季題別年代順　芭蕉俳句全集』	1925（大正 14）年 2 月 15 日	新詩壇社	19.5 × 13.7	個人蔵
資 4-39	森田恒友装幀 生方敏郎『金ゆえに』	1925（大正 14）年 4 月 25 日	共楽社	19.9 × 13.8	個人蔵
資 4-40	森田恒友装幀 釈迢空『自選歌集　海やまのあひだ』	1925（大正 14）年 5 月 30 日	改造社	19.6 × 13.9	島田安彦コレクション
資 4-41	森田恒友装幀 生方敏郎『諷刺　山椒の粒』	1925（大正 14）年 7 月 15 日	実業之日本社	19.5 × 13.2	個人蔵
資 4-42	森田恒友装幀 安成二郎『短篇集　子を打つ』	1925（大正 14）年 12 月 1 日	アルス	19.4 × 14.0	個人蔵
資 4-43	森田恒友装幀 長谷川零餘子編『枯野俳句選集』	1926（大正 15）年 12 月 20 日	枯野社	19.7 × 13.4	個人蔵
資 4-44	森田恒友装幀 生方敏郎『明治大正見聞史』	1926（大正 15）年 11 月 25 日［三版］	春秋社	20.0 × 14.0	個人蔵
資 4-45	森田恒友装幀 神野溪石編『三巴女句集』	1932（昭和 7）年 6 月 26 日	水明発行所	19.5 × 13.9	個人蔵
資 4-46	スクラップブック［装幀草稿］			42.2 × 31.8	個人蔵

第5章　晩年の画境

5-01 不出品	八歳帖	1921-28（大正 10- 昭和 3）年	絹本着色、紙本着色	（各）21.0 × 18.0	東京国立近代美術館蔵
5-02 後期	関西ところどころ	1922（大正 11）年	紙本墨画淡彩	（各）23.5 × 32.7	東京国立近代美術館蔵
5-03	枯れ芦図	1922-24（大正 11-13）年頃	紙本墨画淡彩	139.7 × 82.0	埼玉県立近代美術館蔵
5-04 前期	新秋	1922-24（大正 11-13）年頃	絹本着色	141.0 × 51.7	埼玉県立近代美術館蔵
5-05 後期	水辺童戯	1923（大正 12）年	紙本墨画淡彩	46.6 × 56.5	個人蔵
5-06 前期	山峡図	1923-25（大正 12-14）年頃	絹本着色	42.5 × 51.0	熊谷市立熊谷図書館蔵
5-07 後期	春郊図	1925（大正 14）年	絹本着色	127.2 × 41.8	熊谷市立熊谷図書館蔵
5-08	壁画下絵 I	1925（大正 14）年頃	油彩、カンヴァス	157.0 × 137.0	埼玉県立近代美術館蔵
5-09	壁画下絵 II	1925（大正 14）年頃	油彩、カンヴァス	157.0 × 137.0	埼玉県立近代美術館蔵
5-10 前期	半月	1926（大正 15）年	紙本墨画	41.0 × 58.0	東京国立近代美術館蔵
5-11 後期	初夏の図	1926-27（大正 15- 昭和 2）年	絹本着色	141.2 × 51.0	埼玉県立近代美術館蔵
5-12	緑野	1926-27（大正 15- 昭和 2）年頃	絹本着色	45.0 × 54.6	埼玉県立近代美術館蔵
5-13 前期	山野万緑	1926-27（大正 15- 昭和 2）年頃	絹本着色	129.3 × 36.2	埼玉県立近代美術館蔵
5-14 後期	田園の春	1926-27（大正 15- 昭和 2）年頃	絹本着色	34.8 × 41.7	個人蔵
5-15	春郊十趣	1927（昭和 2）年	紙本墨画淡彩	（各）23.4 × 35.3	個人蔵

No.	作家名（森田恒友の場合は不記載） 作品・資料名	制作年	技法、素材／発行	寸法（cm）	所蔵先
5-16 前期	新柳水禽		絹本着色	144.0 × 51.7	個人蔵
5-17	四季田園和楽	1928（昭和 3）年	絹本墨画淡彩	（各）40.8 × 94.0	個人蔵
5-18 前期	平野冊	1928（昭和 3）年	紙本墨画淡彩	（各）23.5 × 35.5	東京国立近代美術館蔵
5-19	春の池畔	1930（昭和 5）年	油彩、カンヴァス	38.5 × 45.5	東京国立近代美術館蔵
5-20	丘と水田	1930（昭和 5）年	油彩、カンヴァス	34.0 × 46.0	個人蔵
5-21	葛飾野	1930（昭和 5）年	紙本墨画淡彩	34.3 × 57.5	福島県立美術館蔵
5-22	山村秋景	1931（昭和 6）年	油彩、カンヴァス	38.0 × 45.5	東京国立近代美術館蔵
5-23 後期	蔬菜帖	1931（昭和 6）年	紙本着色	（各）20.0 × 26.5	埼玉県立近代美術館蔵
5-24	尾瀬沼	1932（昭和 7）年	油彩、カンヴァス	59.0 × 79.0	個人蔵（熊谷市立熊谷図書館寄託）
5-25	尾瀬沼	1932（昭和 7）年	油彩、カンヴァス	59.1 × 79.1	個人蔵（滴翠美術館寄託）
5-26 後期	野松	1932（昭和 7）年	絹本墨画淡彩	58.5 × 71.0	群馬県立近代美術館蔵
5-27 前期	四季蔬菜冊	1932（昭和 7）年	紙本着色	（各）20.0 × 25.6	東京国立近代美術館蔵
5-28	山麓煙霧図	1932（昭和 7）年頃	紙本墨画	61.0 × 94.0	埼玉県立近代美術館蔵
5-29	水村訪友	1932（昭和 7）年頃	絹本着色	36.0 × 113.5	埼玉県立近代美術館蔵
5-30-1	水郷図（春）	1932（昭和 7）年頃	紙本墨画淡彩	41.5 × 93.5	個人蔵
5-30-2	水郷図（冬）	1932（昭和 7）年頃	紙本墨画淡彩	41.5 × 93.5	個人蔵
5-31 後期	閑郷		絹本着色	130.4 × 41.6	個人蔵
5-32 前期	水亭閑話図		絹本着色	44.6 × 56.5	個人蔵
資 5-01	スケッチブック［関西］			14.5 × 23.5	個人蔵
資 5-02	スケッチブック［京都・伏見］			14.6 × 23.1	個人蔵
資 5-03	スケッチブック［京都］			14.6 × 22.7	個人蔵
資 5-04	スケッチブック［利根川 /1926 年］			16.4 × 22.7	個人蔵
資 5-05	スケッチブック［東京 /1927 年］			14.5 × 22.8	個人蔵
資 5-06	スケッチブック［水郷］			15.1 × 18.8	個人蔵
資 5-07	スケッチブック［十和田 /1927 年］			23.0 × 30.3	個人蔵
資 5-08	スケッチブック［丹波］			14.6 × 22.8	個人蔵
資 5-09	スケッチブック［丹波］			14.1 × 18.6	個人蔵
資 5-10	スクラップブック［素描］			42.2 × 31.8	個人蔵
資 5-11	高橋好三宛書簡	1930（昭和 5）年 4 月 23 日		書簡：17.1 × 72.0 封筒：20.1 × 14.8	個人蔵
資 5-12	ボード入れ			24.3 × 8.3 × 19.5	目黒区美術館蔵
資 5-13	折り畳み椅子			29.0 × 25.1 × 31.5	目黒区美術館蔵
資 5-14	オイル入れ			14.7 × 4.0 × 2.9	目黒区美術館蔵
資 5-15	オイル入れ			13.3 × 5.7 × 2.4	目黒区美術館蔵
資 5-16	トランク			81.6 × 50.5 × 32.2	個人蔵

■ＭＯＭＡＳコレクション

ＭＯＭＡＳコレクション （埼玉県立近代美術館常設展） では、当館のコレクションの中核をなす埼玉ゆかりの美術家と彼らに影響を与えた国内外の優れた作品を、さまざまな角度から紹介している。

年間を４つの会期に分け、各回さらにいくつかのコーナーを設けて、ジャンルやテーマ、作家の小特集、名品選など、さまざまな切り口で多様な作品を紹介できるよう構成している。さらに所蔵作品に加えてテーマに相応しい寄託・借用作品も随時展示し、企画性を高めている。このような姿勢を明確に提示するため、平成 20 年度よりこれまでの「常設展」に替わり「ＭＯＭＡＳコレクション」という名称を用いている。

平成 31・令和元年度は展示の内容や規模にあわせて、各回を２～４コーナーで構成した。昨年度から継続して「セレクション」のコーナーを毎回設け、西洋の近代美術の主要作品に日本の近代絵画を交え、コレクションのエッセンスを紹介した。

学芸員の調査・研究を基にした企画性の高い展示としては、第３期の「近代日本画における中国」、第４期の「サポーターズ・チョイス！」、「春陽会―旗揚げのころ」などが挙げられる。

なお、会期中の 5 月 16 日、11 月 7 日には、子育て中の家族を応援するファミリー鑑賞会を開催し、多くの方にご参加いただいた。

■ＭＯＭＡＳコレクション［Ｉ］

■会期：2019 年 4 月 20 日（土）～ 7 月 21 日（日）
■主催：埼玉県立近代美術館
■協力：JR 東日本大宮支社
■入場者数：8,415 人
■広報印刷物：ポスター B1・B2 ／デザイン：川村格夫
■担当学芸員：平野到、菊地真央、五味良子

B1・B2 ポスター

■展示室Ａ（1 階）

≪セレクション：ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義へ≫

ポール・シニャックの著作『ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義へ』を手がかりに、西洋近代絵画の流れをたどった。

作者名	作品名	制作年
ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	イタリアの想い出	1866
ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	砂丘にて―ハーグの森の想い出	1869
ウジェーヌ・ドラクロワ	聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち	1854-1857

※登録美術品　丸沼芸術の森蔵

作者名	作品名	制作年
ウジェーヌ・ブーダン	ノルマンディーの風景	1854-1857
	※登録美術品　丸沼芸術の森蔵	
カミーユ・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	1884
クロード・モネ	ルエルの眺め	1858
	※登録美術品　丸沼芸術の森蔵	
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919
ポール・ゴーギャン	川岸の女たち	1893-1894
ポール・ゴーギャン	悪魔は語る	1893-1894
ポール・ゴーギャン	死霊は見ている	1893-1894
ポール・ゴーギャン	かぐわしき大地	1893-1894
ポール・ゴーギャン	宇宙創造	1893-1894
ポール・ゴーギャン	かぐわしい、かぐわしい	1893-1894
ポール・シニャック	アニエールの河岸	1885
ポール・シニャック	『ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義へ』	1899 ※個人蔵
モーリス・ドニ	シャグマユリの聖母子	1925
斎藤豊作	初冬の朝	1914

≪山水から風景へ≫

近現代の日本画における風景表現の変遷を辿った。

前期展示（4 月 20 日～ 6 月 2 日）

作者名	作品名	制作年
狩野芳崖	楼閣山水図	1878-1886
橋本雅邦	大和山水図巻	制作年不詳
橋本雅邦	月夜山水	制作年不詳
奥原晴湖	水墨山水	制作年不詳
野口小蘋	茂林佳趣図	1913
横山大観	萬歳松碧	1925 頃
横山大観	朧夜	1924 頃
川合玉堂	蓬莱暁色図	1918
川合玉堂	山村春色	1913 頃
結城素明	春景山水	1921-1926
川村曼舟	春宵	制作年不詳
速水御舟	夏の丹波路	1915

後期展示（6 月 4 日～ 7 月 21 日）

作者名	作品名	制作年
橋本雅邦	長江晴楼図	1895 頃
奥原晴湖	夏景山水	1891 頃
野口小蘋	僊人観瀑図	1913
本多天城	蓬莱山之図	1908
	※寄託作品　個人蔵	
横山大観	漁村曙	1940
川合玉堂	高原秋晴	1941
菱田春草	湖上釣舟	1900
小室翠雲	楼閣山水ノ図	1921-1936
川村曼舟	芦ノ湖	制作年不詳
川村曼舟	曲浦春霞	制作年不詳

通期展示

作者名	作品名	制作年
四方田草炎	霧積山中黒滝	1950
田中青坪	離宮暦日	1983
川本末雄	浜風	1964
加藤勝重	皎	1984
大野百樹	秋韻	1968
三尾雄治（彰藍）	森	1954
伊藤彬	秋思	1982

《自然の造形―増田三男作品を中心に》

さいたま市出身で、彫金の重要無形文化財保持者（人間国宝）である増田三男（1909 ～ 2009）の作品を中心に、動植物をモチーフにした工芸作品を紹介した。

作者名	作品名	制作年
内藤四郎	波文銀四方盛器	1983
増田三男	金彩露草蝶文透彫箱	1957
増田三男	金彩蝶文筥	1962
増田三男	金彩銅壺　山茱萸と鷽	1971
増田三男	金彩山裾箱	1976 頃
増田三男	金彩梶ノ葉茶器	1993
増田三男	金彩壺　賑	1998
増田三男	金彩浜辺ノ詩箱	制作年不詳
増田三男	スケッチブック	制作年不詳
帖佐美行	赫牡丹・香炉	1985
原清	鉄釉青実文大壺	1992 頃

■展示室 A 入口

作者名	作品名	制作年
ジャン・アルプ	バラを食べるもの	1963

■ 1 階ギャラリー

作者名	作品名	制作年
エミール＝アントワーヌ・ブールデル	チリーの女	1921
シャルル・デスピオ	ビアンキーニ嬢	1929
オーギュスト・ロダン	ウスタッシュ・ド・サン＝ピエールの頭像	1884-1886 頃

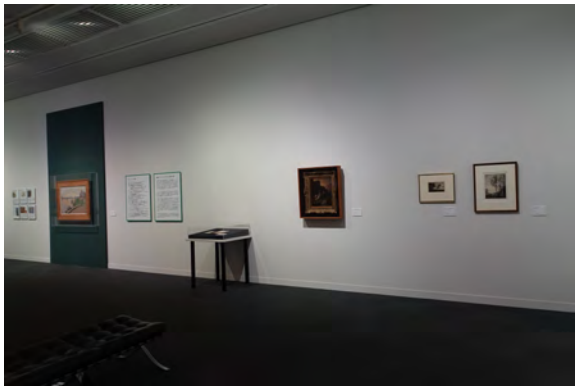
■担当後記

◆≪セレクション：ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義へ≫では、前年度に美術作品取得基金を活用して新規に収蔵したポール・シニャックの《アニエールの河岸》を起点にし、展示を構成した。シニャックはスーラに共鳴しながら、科学的な色彩論を参照した点描技法を試み、新印象派を牽引した画家である。最後の印象派展となった第八回展（1886 年）に出品された《アニエールの河岸》は、新印象派の助走の時期に制作された重要な作品で、印象派から新印象派の画風に移行する過程を垣間見ることができる。

◆シニャックは『ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義へ』と題した著作を 1899 年に刊行する。新印象派の色彩論を、ドラクロワを起点とする美術の流れに理論的に紐づけていくことが狙いであった。この書物はほどなくして翻訳され、フォーヴィスムの画家からカンディンスキーまで 20 世紀の西洋の美術家に影響を与え、色彩による絵画の革新を加速させていくひとつの原動力にもなった。

◆ 19 世紀後半以降の当館の所蔵・寄託作品に目を向けると、シニャックの『ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義へ』に関連づけられる作品が少なくない。例えば、登

録美術品として寄託されているドラクロワの作品、モネ、ピサロ、ルノワールらの印象派の作品、新印象派と同時代に活動したゴーギャンの作品などは、シニャックの理論を直接的、間接的に浮かび上がらせるものといえるだろう。今後も、ポール・シニャックの《アニエールの河岸》を、当館の収蔵品に関連づける展示を積極的に試みていきたい。（平野到）



「セレクション：ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義へ」の展示風景

■ＭＯＭＡＳコレクション［II］

■会期：2019 年 7 月 27 日（土）～ 10 月 20 日（日）
■主催：埼玉県立近代美術館
■協力：JR 東日本大宮支社
■入場者数：11,913 人
■広報印刷物：ポスター B1・B2 ／デザイン：川村格夫
■担当学芸員：佐原しおり、五味良子、平野到

B1・B2 ポスター

■展示室 A（1 階）

≪セレクション：モネとかピカソとか≫

キュビスムの画家パブロ・ピカソなど、西洋の名画に日本近代の作品を交えて紹介した。

作者名	作品名	制作年
カミーユ・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	1884
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919
ポール・シニャック	アニエールの河岸	1885
パブロ・ピカソ	静物	1944
マルク・シャガール	二つの花束	1925
キスリング	赤いテーブルの上の果実	1944
斎藤豊作	フランス風景Ⅰ	1910 頃
斎藤豊作	フランス風景Ⅱ	1910 頃
斎藤豊作	装飾画（蓮と鯉Ⅰ）	制作年不詳
斎藤豊作	装飾画（蓮と鯉Ⅱ）	1940-1941
斎藤豊作	装飾画（橘に鳥）	制作年不詳

≪うつしと重なり―版画の諸相≫

版画表現の多彩さを、様々な作家の作品を通して紹介した。

作者名	作品名	制作年
白髪一雄	芬	1990
宮脇愛子	UTSUROHI k	1984
宮脇愛子	UTSUROHI l	1984
宮脇愛子	UTSUROHI m	1984
宮脇愛子	UTSUROHI n	1984
宮脇愛子	UTSUROHI o	1984
靉嘔	Love letter	1974
靉嘔	[Love letter] の別バージョン	1974
靉嘔	[Love letter] の別バージョン	1974
靉嘔	[Love letter] の別バージョン	1974
立石大河亜（タイガー立石）	Milano-Torino Superway	1974
高柳裕	透明な記憶　Ⅰ－Ⅱ	1978
関根伸夫	おちるリンゴ	1975
関根伸夫	月をよぶ	1975
本田眞吾	EXTENSION No.31	1977
本田眞吾	EXTENSION No.32	1977
菅井汲	赤い太陽	1976
菅井汲	青い星	1976
ジョージ・シーガル	赤いシャツを着た三つの人体	1975
宮脇愛子	Golden Egg A	1982
宮脇愛子	Golden Egg B	1982
磯崎新	内部風景Ⅰ　ストン・ボロウ邸―ルートウィッヒ・ウィトゲンシュタイン	1979
磯崎新	内部風景Ⅱ　カトルマル精神病院―アントナン・アルトー	1979
磯崎新	内部風景Ⅲ　増幅性の空間―アラタ・イソザキ	1979
加藤清之	作品‘83-10	1983
島州一	ジーンズ	1974
島州一	ゲバラ	1974
関根伸夫	ピラミッドの頂き	1982
小山愛人	Prism and hand	1977
ジョナス・メカス	セルフ・ポートレイト、ラコステ（サド侯爵の城）の日蔭にて 1975	1983
ジョナス・メカス	モントークのピーター・ビアード　1974	1983
ジョナス・メカス	枝と葉の影を映し、雨滴に濡れた壁	1983
ジョナス・メカス	ウーナ・メカス５才　猫とホリス（母）の前でヴァイオリンの稽古　1979	1983
ジョナス・メカス	京子７才の誕生日（ヨーコ・オノの愛娘）　1970	1983
ジョナス・メカス	夜の街を走る車　マンハッタン	1983
ジョナス・メカス	ひなぎくを持ったケイト・マンハイム　1972	1983
山口勝弘	Ｃの関係	1981
山口勝弘	港	1981
山口克人	Kinetic Fountain	1981
島州一	ボートの女	1974
島州一	愛	1974

≪小特集：バウハウス 100 年≫

ドイツ、ヴァイマールに設立された総合芸術教育機関、バウハウスの創立 100 年を記念し、関連作家の作品などを通してその活動を紹介した。

作者名	作品名	制作年
ヨーゼフ・ハルトヴィヒ	バウハウス　チェスセット	1924 頃（復刻版 naef 社製）
ラスロ・モホリ＝ナジ	フォトグラム	1922（プリント）:1929
ルートヴィヒ・ミース・ファンデル・ローエ	MR チェア	デザイン :1927 製品化 :1927-1930
ラスロ・モホリ＝ナジ	フォトグラム	1922-1926（プリント :1973）
ラスロ・モホリ＝ナジ	フォトグラム	1922-1926（プリント :1973）
ラスロ・モホリ＝ナジ	フォトグラム	1922-1926（プリント :1973）
ラスロ・モホリ＝ナジ	フォトグラム	1922-1926（プリント :1973）
ラスロ・モホリ＝ナジ	フォトグラム、ラスロとルチア	1922-1926（プリント :1973）
ラスロ・モホリ＝ナジ	フォトグラムとコラージュ、セルフポートレート	1926（プリント :1973）
アルマ・ブッシャー	バウハウス　積み木	1923（復刻版 naef 社製）
マルセル・ブロイヤー	ヴァシリー	デザイン :1925 製品化 :1928 頃

バウハウス叢書　企画編集：ヴァルター・グロピウス、ラスロ・モホリ＝ナジ

第２巻：	パウル・クレー著『教育スケッチブック』1	1925
第３巻：	アドルフ・マイヤー著『バウハウスの実験住宅』	1925
第４巻：	シュレンマー，モホリ＝ナジ，モルナール著『バウハウスの舞台』	1925
第６巻：	テオ・ファン・ドゥースブルフ著『新しい造形芸術の基礎概念』	1925
第７巻：	ヴァルター・グロピウス著『バウハウス工房の新製品』	1925
第８巻：	ラスロ・モホリ＝ナジ著『絵画・写真・映画』	1925
第９巻：	ヴァシリー・カンディンスキー著『点と線から面へ』	1926
第10巻：	J.J.P. アウト著『オランダの建築』	1926

刊行：クリスチャン・ゼルヴォス　『カイエ・ダール』誌　1926 年 9 号　1926 ※個人蔵

■展示室 A 入口

作者名	作品名	制作年
ジャン・アルプ	バラを食べるもの	1963

■１階ギャラリー

作者名	作品名	制作年
エミール＝アントワーヌ・ブールデル	チリーの女	1921
シャルル・デスピオ	ビアンキーニ嬢	1929
オーギュスト・ロダン	ウスタッシュ・ド・サン＝ピエールの頭像	1884-1886 頃

■広報記録

＜ミニコミ誌＞

・「まだあるぞ！100 周年の注目イベント！」『Begin』2019 年 9 月 14 日

■担当後記

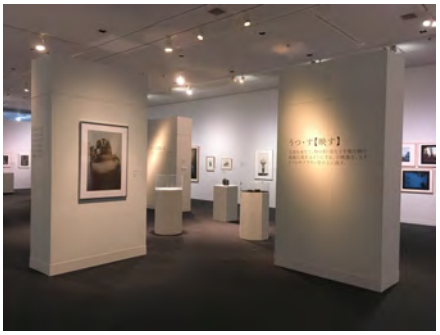
◆「うつしと重なり－版画の諸相」のコーナーでは、「うつし」という言葉が呼び覚ますさまざまなイメージを、当館の版画作品に重ね合わせることを試みた。

◆４月のある日、本コーナーの担当を前任者から引き継いだ。その時点ではタイトルのみが定まっていて、内容はこれから組み立て段階であった。まっさらな展示室の図面を前に、さて何を展示しようと考えあぐねていると、タイトルの「うつし」が平仮名であることに改めて気がついた。「うつし」という単語を辞書でひも解くと、「写し」「移し」「映し」など、実に多彩な意味をたぐり寄せることができる。それでは、この言葉が持つ豊かなイメージを、当館の収蔵品に照らしてみてはどうだろうと思いいたったことが、展示の出発点となった。プランを進める中で多少の工夫を試みたので、以下に展示方法を中心に紹介する。

◆展示室では「写し」「移し」「映し」「現し」「虚し」の５つのコーナーを設け、辞書から引用した定義を壁に掲示した。また作品理解の手がかりとなるよう、各コーナーには、展示作品と言葉を結びつける小さな解説をつけることとした。「うつし」のさまざまな意味合いに共通する性質を意識して、解説には半透明のトレーシングペーパーを使い、虫ピンで上方の２か所だけ留めて、揺らぎを表現した。

◆版画作品というと、紙に摺られたものという印象が強いが、平坦な感触にならないよう、展示室の中央に立体作品を配置したり、独立した移動壁を組み合わせることで、回遊できるような空間とした。コーナーを自由に移動する中で、空間全体への視線を喚起できるようなリズムを特に意識した。また各コーナーの定義テキストは、あえて角部分に折り曲げて貼るものを加えて、構成に動きが感じられるよう意図した。

◆クラシカルな雰囲気のある作品とクールで無機質なタイプの作品が併存すること、掲示した辞書のテキストが親しみづらい印象にならないようにすることを念頭に、ライティングには、あたたかみの感じられる電球色に近い3000Kの色温度を採用した。一連の試みが功を奏したか、版画作品の深みや、これまでと違った印象を持つことができたという好意的な反応を得ることができた。　（五味良子）



「うつしと重なり－版画の諸相」の展示風景

■ＭＯＭＡＳコレクション［Ⅲ］

■会期：2019 年 10 月 26 日（土）～ 2020 年 2 月 2 日（日）
■主催：埼玉県立近代美術館
■協力：JR 東日本大宮支社
■入場者数：11,832 人
■広報印刷物：ポスター　B1・B2 ／デザイン：川村格夫
■担当学芸員：五味良子、菊地真央、佐原しおり

B1・B2 ポスター

■展示室Ａ（１階）

≪セレクション：ドニとかフジタとか≫

19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての絵画にみられる、東西の美術のさまざまな交流の要素を紹介した。

作者名	作品名	制作年
ウジェーヌ・ドラクロワ	聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち　※登録美術品　丸沼芸術の森蔵	1860
ポール・ゴーギャン	感謝	1893-1894
ポール・ゴーギャン	微笑（風刺紙『微笑』第４号の扉絵）	1893-1894
ヤン・トーロップ	生命の守護神	1895
アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック	『ラ・ルビュ・ブランシュ』誌ポスター	1895
モーリス・ドニ	シャグマユリの聖母子	1925
モーリス・ドニ	トレストリニェルの岩場	1920

作者名	作品名	制作年
マルク・シャガール	二つの花束	1925
レオナール・フジタ	横たわる裸婦と猫	1931
レオナール・フジタ	横たわる裸婦	1930 頃
レオナール・フジタ	立てる裸婦	1930 頃
レオナール・フジタ	二人の裸婦	1930 頃
斎藤豊作	にわか雨	1930
斎藤豊作	波 I（展示期間 10/26-12/8）	制作年不詳
斎藤豊作	波 II（展示期間 12/10-2/2）	制作年不詳
田中保	窓辺の婦人	1925-30
チャールズ・レニー・マッキントッシュ	アーガイル / アーガイル・ストリートのティー・ルームのためのハイバック・チェア	デザイン :1897 製品化 :1973
チャールズ・レニー・マッキントッシュ	ヒルハウス1 / ヒルハウスのベッドルームのためのハイバック・チェア	デザイン :1903 製品化 :1973
歌川国貞	江戸姿八契	1815-1842 頃
S. ビング（編）｜大島清次（ほか翻訳・監修）	芸術の日本（復刻版）	初版 1888-1891 再版 1981
東京帝室博物館（編）	稿本日本帝國美術略史（再版）	初版 1900 再版 1908

≪近代日本画における中国≫

日本の文化に深く浸透した中国絵画の影響について、明治から昭和にかけての日本画作品を通して紹介した。

前期展示（10 月 26 日～ 12 月 8 日）

作者名	作品名	制作年
狩野芳崖	楼閣山水図	1878-1886
橋本雅邦	長江晴楼図	1895 頃
橋本雅邦	竹梅図	1898
寺崎廣業	李太白観瀑之図	制作年不詳
本多天城	蓬莱山之図	1908
本多天城	羅浮仙図	制作年不詳
下村観山	牧童	1911 頃
菱田春草	湖上釣舟	1900

後期展示（12 月 10 日～ 2 月 2 日）

作者名	作品名	制作年
横山大観	仙果	1934 頃
吉川霊華	羅浮僊女	1928
倉田白羊	小江柴舟	制作年不詳
倉田白羊	満支砕餘	制作年不詳
橋本関雪	春秋山水	制作年不詳
橋本関雪	訪隠図	制作年不詳
土田麦僊	甜瓜図	1931
堂本印象	春酒沽	1921-1923 頃
堂本印象	鳥言長者草	1922
日本旅行文化協会（刊行）	旅　創刊号（復刻版）	1974 初版 1924 ※個人蔵

≪ゆれるかげ≫

秋岡美帆≪ゆれるかげ≫を中心に、光と影、樹木などをテーマにした作品を紹介した。

作者名	作品名	制作年
小村雪岱	青柳（展示期間 10/26-12/8）	1924 頃
小村雪岱	青柳（展示期間 12/10-2/2）	1941 頃
小村雪岱	落葉（展示期間 10/26-12/8）	1924 頃
小村雪岱	落葉（展示期間 12/10-2/2）	1941 頃
小村雪岱	花の影	1982
金昌烈	水滴 J.T.83002	1983
福岡道雄	飛び石	1994
野村仁	太陽 7 月	1985-1992
林範親	9:36A.M.（ブラインド）	1981-1982
秋岡美帆	ゆれるかげ	1991
丸山直文	garden 3	2003
北野謙	「光を集めるプロジェクト」埼玉県立近代美術館屋上から（東）2015 冬至 -2016 夏至	2017
北野謙	「光を集めるプロジェクト」埼玉県立近代美術館屋上から（西）2015 冬至 -2016 夏至	2017
正木隆	造形 01-13	2001

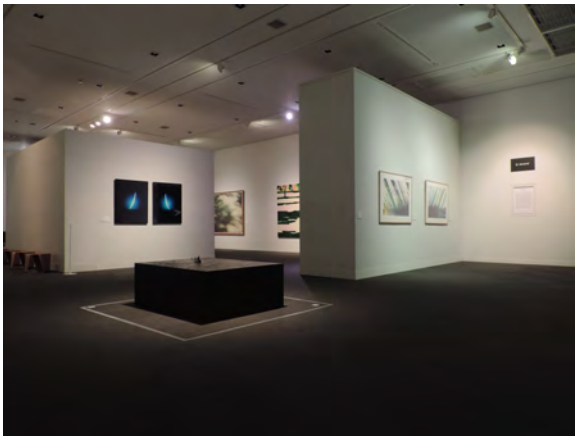
■担当後記 :≪近代日本画における中国≫

◆この展示では、近代日本画家が西洋絵画の陰影表現や色彩表現だけではなく、中国古典絵画の画題、構図や描法に深く関心を寄せていたことについて、コレクションを通して紹介した。菱田春草の《湖上釣舟》、土田麦僊《甜瓜図》はその代表的な作例として、典拠となった作品の画像を併せて掲示し、見比べていただけるようにした。アンケートでは、作品と画像を比較し、それぞれの特徴を考察した記述などが見られ、気付かされることもあった。また、橋本雅邦の《竹梅図》などを展示することで、中国の文化に由来するモチーフについても改めて紹介する機会とした。

◆展示は前期と後期に分けて、出品作品と解説パネルを変えて行った。前期に明治時代、後期に大正時代以降の作品が主となるよう構成した。両方の会期をご覧いただく場合に、時代の様相の変化を感じていただけることを意図した。また、1920 年代初め、中国への関心が高まり、大陸への旅行が流行したことを雑誌の復刻版で紹介した。今後、日本画を紹介する際に、資料や他ジャンルの作品なども活用し制作背景について多角的に想像いただけるような構成も行っていけたらと考えている。

（菊地真央）

「近代日本画における中国」の展示風景



■担当後記：≪ゆれるかげ≫

◆≪ゆれるかげ≫では当館の収蔵作品のなかから、様々なスケールで外界と人間の関係を示す作品を紹介した。冒頭で紹介したのは、太陽の軌跡をとらえた写真作品である。野村仁≪太陽 7月≫と北野謙「光を集めるプロジェクト」シリーズは、いずれも太陽系と人間という壮大なスケールの関係性を想像させる。北野謙の作品は、当館の屋上にカメラを設置し、冬至から夏至までの半年間の太陽の軌跡を長時間露光で撮影したもので、2017年の当館の「アーティスト・プロジェクト #2.02 北野謙：光を集める」を機に作家本人からご寄贈いただいたものである。

◆展示では、太陽、空、風景、家というように、作品のなかのスケールが徐々に小さくなるように構成した。本企画のタイトルにもなっている秋岡美帆の《ゆれるかげ》は、1980年代後半から制作されたシリーズ「ゆれるかげ」のなかの1点である。風にそよぐ樹木の影を撮影した本作は、スキャンした画像データをNECO（New Enlarging Color Operation）という、機械的な技法で麻紙に定着させたものである。縦155cm、横215cmの大画面の前に立ってみると、光と影の織り成すぼやけたイメージは紙面上で固定されているにもかかわらず、ゆれる樹木の影の様子が映像のように浮かび上がってくる。

◆本企画の出品作品は、小村雪岱の肉筆画、2000年代の平面作品など多様であった。美術史的な時代・ジャンルの理解を必ずしも必要とせず、誰もが日常生活で経験する感覚をもとにイメージを膨らませるような作品選定となるよう心掛けた。正木隆≪造形01-13≫の前でサンデー・トークを行った際、作品のもつ雰囲気や空間に対する様々な意見に耳を傾ける鑑賞者の姿が印象的だった。（佐原しおり）

■ＭＯＭＡＳコレクション［Ⅳ］

■会期：2020 年 2 月 8 日（土）～ 4 月 19 日（日）
※新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、2 月 29 日（土）～ 4 月 19 日（日）は臨時休館
■主催：埼玉県立近代美術館
■協力：JR 東日本大宮支社
■入場者数：2,163 人
■広報印刷物：ポスター B1・B2 ／デザイン：川村格夫
■担当学芸員：石井富久、喜多春月、鴫原悠

B1・B2 ポスター

■展示室 A（1 階）

≪セレクション：シャガールとか佐伯祐三とか≫

シャガールの≪二つの花束≫のほか、西洋、日本の近代洋画や版画を紹介した。

作者名	作品名	制作年
ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	イタリアの想い出	1866
ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	砂丘にて―ハーグの森の想い出	1869
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919
モーリス・ユトリロ	旗で飾られたモンマルトルのサクレ＝クール寺院	1919
ジュール・パスキン	眠る裸女	1928
マルク・シャガール	二つの花束	1925
キスリング	赤いテーブルの上の果実	1910 頃
ジョアン・ミロ	詩画集『手づくり諺』より	1914
イヴ・タンギー	無題	1947
ロベルト・マッタ	支点の支点（『ホメロス四世〈支点〉』の 1）	1983
ロベルト・マッタ	雌影（『ホメロス四世〈支点〉』の 2）	1983
ロベルト・マッタ	平和は新しい理想（『ホメロス四世〈支点〉』の 3）	1983
ロベルト・マッタ	デカルトのカードを再び見る（『ホメロス四世〈支点〉』の 4）	1983
ロベルト・マッタ	妄想を選ぶ（『ホメロス四世〈支点〉』の 5）	1983
ロベルト・マッタ	燃える思いの赤外線（『ホメロス四世〈支点〉』の 6）	1983
ロベルト・マッタ	四角い炉（『ホメロス四世〈支点〉』の 7）	1983
ロベルト・マッタ	結び目の真実（『ホメロス四世〈支点〉』の 8）	1983
ロベルト・マッタ	本質の要素（『ホメロス四世〈支点〉』の 9）	1983
ロベルト・マッタ	入口は出口にあり（『ホメロス四世〈支点〉』の 10）	1983
田中保	黒いドレスの腰かけている女	1920-1930
古賀春江	コンポジション	1930 頃

≪サポーターズ・チョイス！≫

2020 年で活動 20 周年を迎える当館のガイド･ボランティア「美術館サポーター」のアイディアをもとに展示を構成した。美術館サポーターの日々の活動については P.90 を、本コーナーの詳細は P.97 を参照のこと。

作者名	作品名	制作年
ポール・シニャック	アニエールの河岸	1885
モーリス・ドニ	シャグマユリの聖母子	1925
ジョルジュ・ルオー	横向きのピエロ	1925 頃
パウル・クレー	古代風の二重肖像	1933
パブロ・ピカソ	静物	1944
ジャン・アルプ	バラを食べるもの	1963
レオナール・フジタ	横たわる裸婦と猫	1931
キスリング	リタ・ヴァン・リアの肖像	1927
ポール・デルヴォー	森	1948
李禹煥	線より	1980
小林清親	猫と提燈	1876
鏑木清方	慶長風俗	1926 頃
小村雪岱	おせん	1941 頃
小村雪岱	見立寒山拾得	制作年不詳
小茂田青樹	春の夜	1930
小茂田青樹	鳴鶏	1930
伊東深水	宵	1933
須田剋太	文楽お染	1987
木村忠太	ル・クロ＝サン＝ピエールの庭	1984
元永定正	聖火	1964
木村直道	シンバルを叩く男（バックミラー楽団）	1965-1968
上田薫	ジェリーにスプーン C	1990
堀越陽子	とりとめなく、あてどないオルフェウスの散歩	1979
倉俣史朗	ミス ブランチ	デザイン :1988
日和崎尊夫	海球	1980
日和崎尊夫	海花	1984
戸谷成雄	「森」シリーズ―湿地帯	1985
深井隆	逃れゆく思念ー時の曳航	1998
森村泰昌	だぶらかし（ポートレート D）	1988
山本容子	Papa's and Mama's〈JUNE BRAND '75〉	1975

作者名	作品名	制作年
福田美蘭	湖畔	1993
福田美蘭	黄金の雨に変身したジュピターを迎えるダナエ	1994

≪春陽会―旗揚げのころ≫

1922（大正 11）年に結成された洋画団体、春陽会の草創期について、創設メンバーである森田恒友や岸田劉生らの作品を通して紹介した。

作者名	作品名	制作年
森田恒友	山村早春	1917
森田恒友	尾瀬沼風景	1932
倉田白羊	夏の菜園	1919 頃
倉田白羊	柳の若芽	1933
山本鼎	多治見の街	1929 頃
斎藤与里	雪の日の天王寺公園	1925
岡本一平	祭見物へ	※寄託作品　個人蔵
岸田劉生	路傍初夏	1920
林倭衛	画家K氏の肖像	1922
木村荘八編	『春陽会パンフレット』	1924
岸田劉生	『劉生絵日記』第 1 巻、第 2 巻	1952
	『第二回春陽会美術展覧会目録』	1924
	『春陽会展覧会第三回出品目録』	1925
	『春陽会第五回展覧会出品目録』	1927
林倭衛	春陽会出品作品絵葉書	制作年不詳 ※個人蔵
	『春陽会雑報』第 2 号	1928
	『春陽会雑報』第 7 回展覧会　第 1 号	1929 ※個人蔵
	『春陽会雑報』第 10 回展覧会　第 1 号	1932 ※個人蔵
	『春陽会雑報』第 10 回展覧会　第 2 号	1932 ※個人蔵
	『春陽会雑報』第 11 回展覧会号	1933 ※個人蔵
	『春陽会雑報』第 13 回展覧会号	1935
	『春陽会雑報』第 14 回展覧会号	1936
	『春陽会雑報』第 15 回展覧会号	1937
	『春陽会雑報』第 16 回展覧会号	1938
	倉田白羊旧蔵　春陽会資料	1936

■担当後記：≪サポーターズ・チョイス！≫

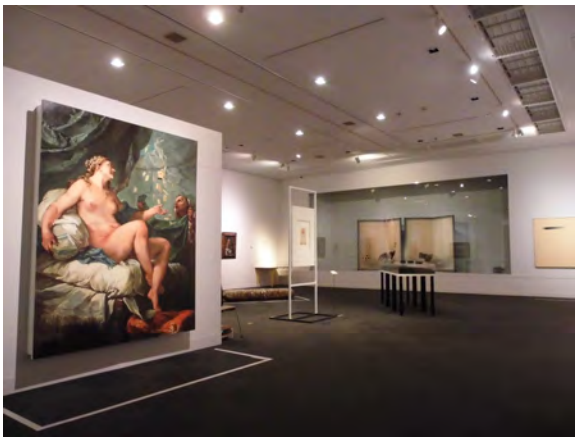
◆今回、20 年間の活動の歴史において初めて、美術館サポーターが展示プランの考案に参加した。当館のコレクションと観覧者とをつなぐ架け橋として活動しているボランティアスタッフの視点を展示に取り入れることで、コレクションの魅力を再発掘することを目指した。展示を構成するにあたっては、美術館サポーター各々の個性や意見を反映しつつも、1つの展示としてまとまりのあるかたちを目標とした。結果、計4つの小コーナーから成る、通常のMOMASコレクションとは一味違った展示空間が完成した。

◆展示の準備は2019年6月末から開始した。基本的には、美術館サポーターそれぞれに意見を紙媒体やメールで提出してもらい、それを担当者が整理することで準備を進めていった。意見の調節が必要な場合は、美術館サポーターが一堂に会する月に一度の月例会で話し合いの場を設けるようにした。

◆コロナウイルス感染拡大の影響で、展示は会期半ばで終了してしまった。美術館サポーターによる約半年間にわたる準備・協力を思うと、その成果を広く見せる機会が失われたことが本当に無念でならない。全く同じ展示が実現することは二度とないが、「サポーターズ・チョイス！」の第二弾が開催されるときには、今回の成果と反省が生かされることを切に願っている。

◆本コーナーを実現するにあたり、美術館サポーターのみなさまに多大なるご協力をいただいた。約 30 名弱で1つの展示をつくるということで大変なこともあったが、全員の尽力のおかげで、最終的には、学芸部の視点だけではできないような展示を完成させることができた。また、時折いただいた温かい言葉に、担当者自身が何度も救われた。すべてのご協力と心遣いに、この場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

（喜多春月）



「サポーターズ・チョイス！」会場風景

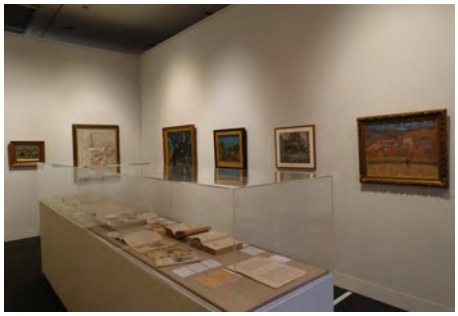
■担当後記：≪春陽会―旗揚げのころ≫

◆この展示では、同時期に開催された企画展「森田恒友展」に関連して、恒友が結成に関わった美術団体・春陽会の草創期にかかわりのある作家の作品や関連資料を展示し、その活動を紹介した。1922（大正 11）年に結成された春陽会の創設メンバーの多くは、明治後期に刊行された美術文芸雑誌『方寸』や、大正期の日本美術院展洋画部に参加している。草創期の春陽会を通して、こうした恒友周辺の交友関係の一端が浮かび上がるのではないかと考えた。

◆当館では、斎藤与里《雪の日の天王寺公園》、林倭衛

《画家 K 氏の像》など、初期の春陽会出品作を数点収蔵している。こうした作品に加えて、寄託作品である岡本一平の日本画、恒友や白羊の春陽会出品作など、展示機会の少ない作品も紹介することができた。

◆資料としては、特に、春陽会の刊行物に着目した。『春陽会パンフレット』(1924 年)、1928 年頃から刊行された『春陽会雑報』などは、会員の文章の掲載や、同時代美術の情報の発信が行われた刊行物で資料的価値も高い。森田恒友展の調査の過程で、初期の『春陽会雑報』を個人の所蔵者から拝借することができ、本展示で紹介した。また、アクリルパネルを利用して壁に展示した、倉田白羊旧蔵の会員向けの手書きの告知は、内輪向けの砕けた内容で会の雰囲気が良く分かる資料である。春陽会関連作家の作品や資料を通して、小さなスペースではあるものの、当時の活動や雰囲気が立体的に浮かび上がるような展示を目指した。 (鴫原悠)



「春陽会―旗揚げのころ」会場風景

■1階ギャラリー

作者名	作品名	制作年
エミール＝アントワーヌ・ブールデル	チリーの女	1921
シャルル・デスピオ	ビアンキーニ嬢	1929
オーギュスト・ロダン	ウスタッシュ・ド・サン＝ピエールの頭像	1884-1886 頃

■展示室 A 入口

作者名	作品名	制作年
アリスティド・マイヨール	イル・ド・フランス	1925

■広報記録

＜新聞＞

・告知：『読売新聞』2020 年 3 月 10 日／ 2020 年 3 月 31 日

＜ WEB ＞

・「常設展レビュー執筆への提言―埼玉県立近代美術館MOMASコレクションの事例―」レビューとレポート 2020 年 4 月 27 日

■サンデー・トーク

年間で 10 回程度、日曜日の 15 時から展示室 A で開催しているプログラム。学芸員が開催中の「MOMASコレクション」から 1 点を選び、作者と作品についてのエピソードを交えながら 30 分程度の解説を行った。平成 31 年度および令和元年度は、以下のように計 9 回実施した。参加者：計 162 名。

・5 月 26 日／大野百樹《秋韻》／担当学芸員：菊地真央／参加者：12 名

・6 月 9 日／カミーユ・コロー《イタリアの想い出》／担当学芸員：吉岡知子／参加者：20 名

・7 月 21 日／川合玉堂《高原秋晴》／担当学芸員：鴫原悠／参加者：16 名

・8 月 11 日／《バウハウス叢書》／担当学芸員：平野到／参加者：25 名

・9 月 22 日／山本容子《After- 我々はどこから来たか?》／担当学芸員：五味良子／参加者：20 名

・11 月 17 日／正木隆《造形 01-13》／担当学芸員：佐原しおり／参加者：11 名

・12 月 15 日／北野謙《「光を集めるプロジェクト」埼玉県立近代美術館屋上から（東）2015 冬至 -2016 夏至》、《「光を集めるプロジェクト」埼玉県立近代美術館屋上から(西) 2015 冬至 -2016 夏至》／ 担当学芸員：梅津元／参加者：21 名

・1 月 12 日／関根伸夫《ストンファニチュア》／担当学芸員：大越久子、ゲスト：鏑木あづさ（元埼玉県立近代美術館司書、アーキビスト）／参加者：18 名

・2 月 9 日／日和崎尊夫《海球》／担当学芸員：石井富久／参加者：19 名

■アーティスト・プロジェクト #2.04 トモトシ 有酸素ナンパ

■会期：2019 年 11 月 14 日（木・県民の日）～ 2020 年 1 月 19 日（日）
■主催：埼玉県立近代美術館
■観覧料：無料
■広報印刷物：DM A4 変形／デザイン：林頌介
■担当学芸員：佐原しおり

DM

■開催趣旨

「アーティスト・プロジェクト #2.0」は、平成 28 年度にスタートした新しいプログラムである。従来の「アーティスト・プロジェクト」は、「MOMAＳコレクション」（収蔵作品展）の展示室内で、存命の収蔵作家による特集展示を行うものであった。一方、「アーティスト・プロジェクト #2.0」は、収蔵品という枠組みにとらわれず、優れた表現を紹介する試みとして再出発している。

第 4 回目となる「AP #2.04」では、新進気鋭の作家であるトモトシを迎えた。トモトシは、1983 年山口県生まれ。2014 年から作品制作を始め、「ゲンロン カオス＊ラウンジ新芸術校」に第 1 期生として参加している。これまで、路上や電車内などの公共空間に潜むシステムに着目し、街行く人々にアーティスト自ら介入する様子をとらえた映像作品を発表してきた。

本企画では、偶然居合わせた他者に声をかけ、能動的に関係を生み出そうとするトモトシの行為そのものを広い意味での「ナンパ」と定義し、合理性や機能性を第一とする公共空間において、より柔軟で偶発的なコミュニケーションを模索することをテーマとした。「有酸素ナンパ」という一見突飛なタイトルには、気軽なトレーニングによって身体を鍛える「有酸素運動」のように、都市と人間、あるいは都市における人間同士の関係性もトレーニングによって強化できるのではないかというトモトシのアイデアが反映されている。

「AP #2.04」では、作家自身が棒高跳びのポールを埼玉から新国立競技場まで運ぶ《グレイトイベント》や、路上駐輪される自転車を色ごとに並べる《カラーパーキング》などの新作 4 点と、旧作 3 点を、1 階ギャラリーや通路、ミュージアム・ショップなど美術館内各所に展示した。

■関連事業

・トモトシ過去作品上映会 2016-2019／① 12 月 8 日(日)、② 12 月 21 日（土）、③ 1 月 19 日（日）／講堂／参加者：① 46 名、② 17 名、③ 56 名
・副音声としてのアーティスト・トーク／ 12 月 8 日（日）（上映会と同時開催）／ゲスト：トモトシ、山本悠（イラストレーター）、聞き手：佐原しおり／講堂／参加者：46 名

■広報記録

＜雑誌＞
・告知：『たまログ』2019年12月1日
・「となりのアートさん」（レビュー・ヤマザキムツミ）『百兵衛』2020年4月13日
＜WEB＞
・『まいぷれ』（レビュー）2019年12月7日
・『美術手帖』（レビュー・藤田直哉）2019年12月29日
・告知：『Tokyo Art Beat』／『美術手帖』／『artscape』

■担当後記

◆「アーティスト・プロジェクト（以下、AP）#2.0」は、アーティストと学芸員の対話のなかから始まる。これまで、齋藤春佳による「AP #2.01」は 2 階展示室 D、北野謙による「AP #2.02」は 1 階ギャラリーで、いずれも観覧無料で開催された。館内の空いたスペースを使って、展覧会の内容や開催場所、会期を調整しながら準備される「AP #2.0」は、企画展以上に、即興的かつ実験的な試みを可能にするものである。本企画の前年に準備された「AP #2.03」は、プロジェクトが企画されたものの実現に至らなかった。「AP #2.0」は必ずしも「展覧会」を最終形とせず、企画が始まった時点で、ひとつのプロジェクトとしてカウントする方針をとっている。
◆「AP #2.04」も、当初から館内のエントランスや廊下など、展示室以外の場所での開催を前提として計画を始めた。北浦和公園内にある当館には、展覧会鑑賞だけでなく、休憩を目的とした来館者も多く訪れる。本来、

来館者の通行や休憩を目的とした館内のパブリック・スペースに、美術作品が「介入」するような展示の枠組みを想定した際、真っ先に思い浮かんだのがトモトシ氏であった。

◆展覧会の準備にあたり、トモトシ氏は当館が「椅子の美術館」として知られており、さまざまなデザイン椅子を収蔵していることに着目した。展示会場では、トモトシ氏が映像作品の特徴に合わせて椅子を選び、作品の前に配置した。東京オリンピックのユニフォームを着た作家自身が、街の人々に協力を求めながら棒高跳びのポールを運ぶ様子を記録した《グレイトイベント》の前には、棒高跳びの選手が跳躍する瞬間のポーズを想起させるシェーズ・ロング《ブルム》を配置するなど、ユニークな仕掛けが見られた。

◆社会の制度やルールを撹拌し、善／悪、合法／違法など相反する要素をまるまるとのみ込む「都市」の懐の深さを顕在化させる作品群は、鋭い批評性をもつ優れた表現であった。同時に、通行人に声をかける作家の姿はユーモラスで、子どもからお年寄りまで、幅広い来館者が椅子に腰かけながら作品を見ていた。「AP #2.04」は1階から3階まで館内各所に作品を配置したため、正式な入場者数は不明であるが、11月14日～1月19日の入館者数は35,847人であった。

■出品リスト

作品データは、以下の順に記した。
出品番号／作品名／制作年／技法・素材等／寸法（尺）

1　ビッグオレンジボックス／2019年／映像／6分20秒
2　カラーパーキング／2019年／映像／8分11秒
3　デモクラティックファッション／2019年／映像／8分25秒
4　グレイトイベント／2019年／映像／8分44秒
　　協力：埼玉県立浦和高等学校
5　逆パノプティコン／2016年／映像／6分25秒
6　ブザービーター／2018年／映像／2分45秒
7　美しい日本の私たち／2018年／映像／11分56秒

展示風景《デモクラティックファッション》《グレイトイベント》
撮影：奥祐司

展示風景《カラーパーキング》
撮影：奥祐司

ミュージアム・ショップ展示風景《ブザービーター》
撮影：奥祐司

■収集事業

今年度は、近現代の美術史に足跡をとどめる7名の作家（森田恒友・倉田白羊・田中保・末松正樹・瑛九・大野百樹･清水晃）の作品･資料が寄贈される運びとなった。

埼玉ゆかりの作家の作品として、森田恒友の希少な素描類や色紙、扇面の作品10点と、倉田白羊の素描類5点が加わった。令和元年2月に当館で開催した「森田恒友展」をきっかけに寄贈されたもので、重点作家として収集を続けてきた両者のコレクションにさらなる厚みを与えるものとなった。

やはり埼玉ゆかりの作家として、田中保の油彩画3点と瑛九の展覧会ポスター1点が寄贈となった。それぞれ作者の画業の幅と、展覧会が開催された1975年当時の社会への紹介を伝える、貴重な収集となった。

これまで版画1点を収蔵するのみだった末松正樹について、油彩画3点とドローイング1式50点が寄贈となり、まとまった形で作家の初期の画業をふり返ることができるようになった。

埼玉に生まれた大野百樹の日本画作品として、これまで収集のなかった早期と晩年の院展出品作2点が収蔵された。また県内在住の清水晃より、制作の背景を知る手がかりとなるスケッチブックが寄贈された。

寄託作品としては、小倉遊亀・杉山寧・児玉希望・小茂田青樹といった日本画の重鎮たちの作品が新たに加わった。また、「DECODE／出来事と記録ーポスト工業化社会の美術」で展示した成田克彦の立体作品も寄託となった。

このように、収蔵品のミッシング・ピースを埋めるような貴重な寄贈・寄託を受け、コレクションがいっそう充実したものとなった。今後MOMASコレクションの展示などで随時紹介していきたい。

■令和元年度収集作品数と収蔵作品総数

令和2年3月30日現在

区分	令和元年度収集点数			収蔵作品総数
	購入	寄贈	保管転換	
日本画	0	12	0	461
油彩画ほか	0	6	0	655
ドローイング	0	7	0	633
版画	0	0	0	1314
写真	0	0	0	211
平面その他	0	0	0	17
彫刻	0	0	0	197
立体その他	0	0	0	11
工芸	0	0	0	50
書	0	0	0	31
資料Ⅰ	0	0	0	141
資料Ⅱ	0	1	0	32
合計	0	26	0	3,753

■新収蔵作品一覧

1
大野百樹　1920（大正 9）-2019（平成 31）
ONO Momoki
秋韻
The Autumn Wind
昭和 43 年　彩色、紙
1968　Color on paper
170.0 × 215.2cm
令和元年度大野雅志氏寄贈
J-0450

2
大野百樹　1920（大正 9）-2019（平成 31）
ONO Momoki
雪の旭岳
Mt.Asahidake in the Snow
平成 17 年　彩色、紙
2005　Color on paper
218.0 × 174.0cm
令和元年度大野雅志氏寄贈
J-0451

3
森田恒友　1881（明治 14）- 1933（昭和 8）
MORITA Tsunetomo
作品名不詳
Title Unknown
彩色、紙、色紙
Color on paper
21.1 × 18.0cm　右上に「恒友」、朱文方印
令和元年度笹木俊孝氏寄贈
J-0452

4
森田恒友　1881（明治 14）- 1933（昭和 8）
MORITA Tsunetomo
作品名不詳
Title Unknown
彩色、絹、色紙
Color on silk
21.1 × 18.0cm　右上に「恒友」、朱文方印
令和元年度笹木俊孝氏寄贈
J-0453

5
森田恒友　1881（明治14）－1933（昭和8）
MORITA Tsunetomo
作品名不詳
Title Unknown
水墨、淡彩、紙、色紙
Sumi,color on paper
21.1×18.0cm　右下に「恒友」、朱文方印
令和元年度笹木俊孝氏寄贈
J-0454

6
森田恒友　1881（明治14）－1933（昭和8）
MORITA Tsunetomo
作品名不詳
Title Unknown
彩色、紙、色紙
Color on paper
21.1×18.0cm　左上に「平野人」、朱文方印
令和元年度笹木俊孝氏寄贈
J-0455

7
森田恒友　1881（明治14）－1933（昭和8）
MORITA Tsunetomo
作品名不詳
Title Unknown
彩色、紙、色紙
Color on paper
21.1×18.0cm　右下に「恒友」、朱文方印
令和元年度笹木俊孝氏寄贈
J-0456

8
森田恒友　1881（明治14）－1933（昭和8）
MORITA Tsunetomo
作品名不詳
Title Unknown
墨、淡彩、紙、色紙
Sumi, color on paper
21.1×18.0cm　右下に「恒友」、白文方印
令和元年度笹木俊孝氏寄贈
J-0457

9
森田恒友　1881（明治14）－1933（昭和8）
MORITA Tsunetomo
水郷図（春）
Waterside Village (Spring)
昭和7年頃　彩色、紙
c.1932　Color on paper
41.5×93.5cm　右下に朱文方印、左に小杉放庵の賛
令和元年度綾部良司氏寄贈
J-0458

10
森田恒友　1881（明治14）－1933（昭和8）
MORITA Tsunetomo
水郷図（冬）
Waterside Village（Winter）
昭和7年頃　彩色、紙
c.1932　Color on paper
41.5×93.5cm　右下に朱文方印、右に小杉放庵の賛
令和元年度綾部良司氏寄贈
J-0459

11
森田恒友　1881（明治14）－1933（昭和8）
MORITA Tsunetomo
山色新
New Color of the Mountain
昭和3年頃　彩色、紙
c.1928　Color on paper
51.2×23.0cm（扇面）　右上に「山色新」、「恒友」、白文方印
令和元年度綾部良司氏寄贈
J-0460

12
森田恒友　1881（明治14）－1933（昭和8）
MORITA Tsunetomo
作品名不詳
Title Unknown
コンテ、水彩、紙
Contè, watercolor on paper
23.2×32.5cm　右下に「Tsu」、裏面に「森田恒友　「伊豆の冬」」
令和元年度森田恒之氏寄贈
D-0627

13
倉田白羊　1881（明治14）－1938（昭和13）
KURATA Hakuyo
作品名不詳
Title Unknown
大正6年　彩色、絹
1917　Color on silk
33.7×21.6cm　右下に「六年春白羊寫」、朱文方印
令和元年度森田恒之氏寄贈
J-0461

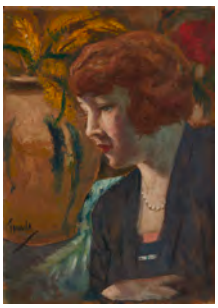
14
倉田白羊　1881（明治14）－1938（昭和13）
KURATA Hakuyo
瓦やき
Tile Maker
墨、紙
イメージ寸：17.2×11.2cm／紙寸：18.6×17.1cm　右下に「羊」
令和元年度森田恒之氏寄贈
D-0628

15
倉田白羊　1881（明治14）-1938（昭和13）
KURATA Hakuyo
「小笠原島」の下図
Study of Bonin Islands
大正3年　水彩、鉛筆、紙
1914　Watercolor,pencil on paper
イメージ寸：13.5×33.6cm／台紙寸：16.8×35.0cm
令和元年度森田恒之氏寄贈
D-0629

16
倉田白羊　1881（明治14）-1938（昭和13）
KURATA Hakuyo
作品名不詳
Title Unknown
コンテ、水彩、紙
Contè, watercolor on paper
24.9×32.8cm　左下に「羊」
令和元年度森田恒之氏寄贈
D-0630

17
倉田白羊　1881（明治14）-1938（昭和13）
KURATA Hakuyo
作品名不詳
Title Unknown
大正13年　コンテ、鉛筆、紙
1924　Contè, pencil on paper
イメージ寸：24.3×32.6cm／紙寸：29.6×42.3cm　右下に「羊13」
令和元年度森田恒之氏寄贈
D-0631

18
田中保　1886（明治19）-1941（昭和16）
TANAKA Yasushi
花瓶のある横顔
Profile with a Vase
大正15／昭和元年頃　油彩、ボード
c.1926　Oil on board
46.0×32.5cm　左端に「TANAKA」
令和元年度小川智美氏寄贈
O-0650



19
田中保　1886（明治19）-1941（昭和16）
TANAKA Yasushi
花
Flower
大正15／昭和元年頃　油彩、ボード
c.1926　Oil on board
45.5×33.0cm　左下に「Louise from Yasushi Be(...) Luise(?)」
令和元年度小川智美氏寄贈
O-0651

20
田中保　1886（明治19）-1941（昭和16）
TANAKA Yasushi
猫
Cat
大正9-昭和5年　油彩、ボード
1920-30　Oil on board
56.2×43.0cm　右下に「Tanaka」
令和元年度小川智美氏寄贈
O-0652

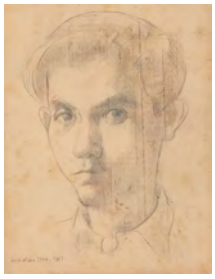
21
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
貞子像
Portrait of Sadako
昭和25年　油彩、カンヴァス
1950　Oil on canvas
39.0×30.0cm
令和元年度香山万里惠氏寄贈
O-0653

22
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
油彩、カンヴァス
Oil on canvas
66.0×81.5cm　右下にサイン「Suematsu」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
O-0654

23
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
油彩、カンヴァス
Oil on canvas
64.3×52.1cm　裏に「タイトル不詳 1959 油-2」の題箋あり
令和元年度香山万里惠氏寄贈
O-0655

24-1
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和19年　紙、ペン
1944　Ink on paper
26.6×23.1cm　裏面右下に「Le 19 septembre 1944 à Perpignan」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-2
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和19年　紙、鉛筆
1944　Pencil on paper
31.2×24.0cm　左下に「Le 18 octobre 1944.（四）」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632



24-3
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、ペン
1945　Ink on paper
24.0×15.7cm　右下に「Le 20 Avril 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-4
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945　Pencil on paper
31.8×23.9cm　左下に「Le 2 mai 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-5
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆、水彩
1945　Pencil, watercolor on paper
17.5×14.0cm　裏面下に「Le 5 mai 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-6
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、コンテ
1945　Contè on paper
24.0×15.7cm
裏面下に「Le 2 Septembre 1945.」、裏に「自画像　コンテ 1945 No.4 8」の貼札
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-7
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
紙、表：鉛筆、色鉛筆／裏：コンテ、色鉛筆
Pencil, colored pencil on paper／Contè, colored pencil on paper
29.1×24.8cm
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-8
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945　Pencil on paper
24.2×31.4cm
左上に「Le 21 Octobre 1945.」、右上にサイン「Suematsu」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-9
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945　Pencil on paper
24.0×31.8cm
左下にサイン「Suematsu」、左上に「Le 12 Octobre 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-10
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆、水彩
1945　Pencil, watercolor on paper
15.1×22.6cm　右上に「Le 8 mai 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-11
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆、水彩
1945　Pencil, watercolor on paper
19.9×23.8cm
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-12
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和21年　紙、鉛筆、水彩
1946　Pencil, watercolor on paper
24.6×32.1cm
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-13
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
紙、鉛筆、水彩
Pencil, watercolor on paper
30.3×23.6cm　左下に「à Perpignan」、右下にサイン「Suematsu」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-14
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆、色鉛筆か
1945 Pencil, colored pencil? on paper
30.3×23.6cm　左下に「Le 8 mars 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-15
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆、色鉛筆
1945 Pencil, colored pencil on paper
23.2×31.6cm　右に「激怒」、左下に「Le 10 Avril 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-16
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆、色鉛筆
1945 Pencil, colored pencil on paper
紙寸：23.9×31.4cm　左に「眞實に肉迫する線を！」、左下に「Le 14 Avril 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-17
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆、水彩、油彩か
1945 Pencil, watercolor, oil? on paper
紙寸：24.9×32.0cm　右下に「Le 22 Novembre 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-18
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和19年　紙、鉛筆
1944 Pencil on paper
24.2×31.3cm
左上に「力の線」、左下に「20/10/44」、裏に「No.17 力の線　1944.10.20 7」の貼札
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-19
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和19年　紙、鉛筆
1944 Pencil on paper
30.3×23.7cm　右上に「向日葵へのエスキース」、左下に「Le 23 Octobre 1944.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-20
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和19年　紙、鉛筆
1944 Pencil on paper
24.5×32.0cm
左下に「24.10.44」、裏に「No.14 群踊 1944 10.24 7」の記載あり
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-21
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和19年　紙、鉛筆
1944 Pencil on paper
紙寸23.9×31.5cm
右に「高貴な像を求める　高貴にして豊かなるもの」、右下に「Le 5 Novembre 1944.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-22
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和19年　紙、鉛筆
1944 Pencil on paper
24.1×31.7cm
右下に「Le 16 Novembre 1944,」、裏に「No.16 群踊　1944 11.16 7」の貼札
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-23
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和19年　紙、鉛筆
1944 Pencil on paper
23.9×31.5cm
左下に「Le 17 Novembre 1944.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-24
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和19年　紙、鉛筆
1944 Pencil on paper
23.7×23.2cm
左下に「Le Novembre 27 1944」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-25
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和19年　紙、鉛筆
1944 Pencil on paper
23.9×31.8cm
右に「「雲の歌」（デオダード・セヴェラロフに據る）衣裳＝黄色」、左下に「Le 27 Novembre 1944.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-26
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和19年　紙、鉛筆
1944 Pencil on paper
24.0×31.8cm
右に「色彩を抽出す。」、左下に「Le 30 Novembre 1944.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-27
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和19年　紙、鉛筆
1944 Pencil on paper
31.4×23.9cm
右下に「Le 29 Décembre 1944.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-28
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和19年　紙、鉛筆
1944 Pencil on paper
31.5×23.9cm
右下に「Le 30 Décembre 1944.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-29
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
24.5×32.6cm
右下に「Le 5 Janvier 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-30
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
23.7×31.5cm
右下に「Le 12 Janvier 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-31
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
24.0×31.4cm
右に「過去への訣別！過去はつぶれた！一切はない。」、左に「生新なる人間として　私の肉体のうちに生新な血は漲る！」、左下に「Le 15 Janvier 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-32
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
24.5×32.1cm
裏に「No.10 コンポジション 1945 9」の貼札、左下に「Le 22 Janvier 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-33
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
23.9×31.6cm
右に「常に小さなカルトンを持って歩くこと。」「退屈の時は自由にデッサンをする。」、
左に「第三次元へ！セザンヌの水浴。」、左下に「Le 30 Janvier 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-34
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
23.8×31.4cm
右に「緊張なき1枚の作品も描くな！より激しく、より緊張して！」、
左下に「Le 15 Fèvrier 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

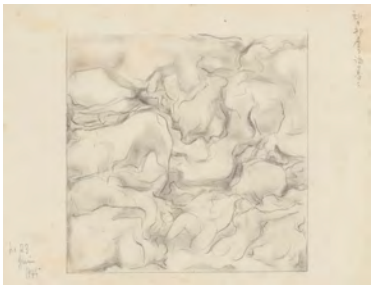
24-35
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
23.7×31.6cm
右に「鍛えること、激しく鍛えること。タラワ・スターリングラードを観る。」、
左に「眞實なるもの、美しきもの。此さかの驕りなく、言葉なく。緊張！」、
右下に「Le 16 Fèvrier 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-36
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
24.0×31.1cm
左下に「Le 25 mai 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-37
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
31.3×24.0cm
右に「残るものは生命のみ。気魄のみ。」、上に「リズムの変化。」、
左に「回やその悦しみを更めず。賢なる哉回也」、
右下に「Le 29 mai 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-38
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
31.3×24.1cm
左に「踊る初夏」、右下に「Le 1 Juin 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-39
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
24.5×32.1cm
右に「私の部屋に海の香を」、左下に「Le 23 Juin 1945」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632



24-40
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
24.5×35.1cm
右に「「フーガ」わが生活は舞踊」、左に「神を謳ふ魂の歌。」、左下に「Le 28 Juin 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-41
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
24.0×31.7cm
右に「星夜の水浴。ルオー」、左に「ダヴィンチ、聖ヂェロム」、左下に「Le 4 Juillet 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-42
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
23.5×31.7cm
左下に「Le 14 octobre 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-43
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
23.8×31.4cm
左下に「Le 19 octobre 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-44
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
24.2×31.3cm
左上に「Chant. Lèonard de Vinci」、右下に「Le 4 Novembre 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-45
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
24.1×31.4cm
左に「バレーへ。冬から春へ。」、右下に「Le 9 Dècembre 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-46
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
24.2×31.4cm
右に「叩き出す」、左下に「Le 9 Dècembre 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-47
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
24.1×31.4cm
左に「神の力なくしては何事も成らず。」、右下に「Le 13 Dècembre 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-48
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和20年　紙、鉛筆
1945 Pencil on paper
24.1×31.2cm
右に「鋭いものを。冬のニュディテ。」、左に「絵画の中に私の生活がなければならない。」
左下に「Le 28 Dècembre 1945.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-49
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和21年　紙、鉛筆
1946 Pencil on paper
24.5×32.0cm
左に「希望と意志と。思索の中に生きて。」、左下に「Le 18 janvier 1946.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

24-50
末松正樹　1908（明治41）-1997（平成9）
SUEMATSU Masaki
作品名不詳
Title Unknown
昭和23年　紙、鉛筆
1948 Pencil on paper
27.3×26.1cm
右下に「rose」の書き込みあり、裏に「No.21 群踊 1948 7」の貼札あり
左下に「Le 7 Juin 1948.」
令和元年度香山万里惠氏寄贈
D-0632

25
清水晃　1936（昭和11）-
SHIMIZU Akira
S字型（スケッチブック）
S-shape（Sketchbook）
昭和38年～　紙、鉛筆、色鉛筆、水彩
1963～ Pencil,colored pencil,watercolor on paper
表紙：34.0×24.8cm、紙寸法：33.3×24.2cm（スケッチブック・F4サイズ）／18枚組
表紙に「Akira Shimizu」、「S字型（1963起草）」／　本紙右下に「S」
令和元年度寄贈
D-0633

26
瑛九　1911（明治44）-1960（昭和35）
Ei-kyu
瑛九関連資料（「瑛九「田園」展」ポスター）
Materials on Ei-kyu: Poster for the Exhibition of Ei-kyu "Pastoral"
昭和50年　印刷、シルクスクリーン、紙
1975
94.0×63.7㎝
令和元年度大久保静雄氏寄贈
R2-0032

■美術資料貸出等一覧

■美術作品の館外貸出

館外貸出点数：16 件（展覧会）　74 点（点数）

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期
相原求一朗	初雪ふる	相原求一朗の軌跡ー大地への挑戦ー	北海道立近代美術館	2019/4/19-5/26
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星 「室内楽を聴くための筏」	インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史	新潟市美術館	2019/4/13-7/15
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星 「室内楽を聴くための筏」	インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史	広島市現代美術館	2019/9/18-12/8
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星 「室内楽を聴くための筏」	インポッシブル・アーキテクチャー 建築家たちの夢	国立国際美術館	2020/1/7-3/15
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星「ワルツ、タンゴ、ロック、チャチャの音楽を提供する巨大な自動販売機」	インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史	新潟市美術館	2019/4/13-7/15
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星「ワルツ、タンゴ、ロック、チャチャの音楽を提供する巨大な自動販売機」	インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史	広島市現代美術館	2019/9/18-12/8
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星「ワルツ、タンゴ、ロック、チャチャの音楽を提供する巨大な自動販売機」	インポッシブル・アーキテクチャー 建築家たちの夢	国立国際美術館	2020/1/7-3/15
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星「星をみるためのスタジアム」	インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史	新潟市美術館	2019/4/13-7/15
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星「星をみるためのスタジアム」	インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史	広島市現代美術館	2019/9/18-12/8
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星「星をみるためのスタジアム」	インポッシブル・アーキテクチャー 建築家たちの夢	国立国際美術館	2020/1/7-3/15
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星「香、LSD、マリファナ、アヘン、笑気ガスを提供する自動販売機」	インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史	新潟市美術館	2019/4/13-7/15
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星「香、LSD、マリファナ、アヘン、笑気ガスを提供する自動販売機」	インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史	広島市現代美術館	2019/9/18-12/8
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星「香、LSD、マリファナ、アヘン、笑気ガスを提供する自動販売機」	インポッシブル・アーキテクチャー 建築家たちの夢	国立国際美術館	2020/1/7-3/15
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星「巨大コンサートを開くためのスタジアム」	インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史	新潟市美術館	2019/4/13-7/15
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星「巨大コンサートを開くためのスタジアム」	インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史	広島市現代美術館	2019/9/18-12/8
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星「巨大コンサートを開くためのスタジアム」	インポッシブル・アーキテクチャー 建築家たちの夢	国立国際美術館	2020/1/7-3/15
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星「瞑想にふけるための屋上」	インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史	新潟市美術館	2019/4/13-7/15
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星「瞑想にふけるための屋上」	インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史	広島市現代美術館	2019/9/18-12/8
エットレ・ソットサス	祝祭としての惑星「瞑想にふけるための屋上」	インポッシブル・アーキテクチャー 建築家たちの夢	国立国際美術館	2020/1/7-3/15
ポール・デルヴォー	森	シュルレアリスムとダリ　幻想と脅威の超現実	諸橋近代美術館	2019/4/20-6/23
熊谷守一	大島	熊谷守一　いのちを見つめて	群馬県立館林美術館	2019/4/20-6/23
熊谷守一	大島	熊谷守一　いのちを見つめて	静岡県立美術館	2019/8/2-9/23
熊谷守一	大島	熊谷守一　いのちを見つめて	岡山県立美術館	2019/9/28-11/4
熊谷守一	大島	熊谷守一　いのちを見つめて	久米市立美術館	2019/11/16- 2020/1/13
熊谷守一	ケシ	熊谷守一　いのちを見つめて	群馬県立館林美術館	2019/4/20-6/23
熊谷守一	ケシ	熊谷守一　いのちを見つめて	静岡県立美術館	2019/8/2-9/23
熊谷守一	ケシ	熊谷守一　いのちを見つめて	岡山県立美術館	2019/9/28-11/4
熊谷守一	ケシ	熊谷守一　いのちを見つめて	久米市立美術館	2019/11/16- 2020/1/13
熊谷守一	百日草	熊谷守一　いのちを見つめて	群馬県立館林美術館	2019/4/20-6/23
熊谷守一	百日草	熊谷守一　いのちを見つめて	静岡県立美術館	2019/8/2-9/23
熊谷守一	百日草	熊谷守一　いのちを見つめて	岡山県立美術館	2019/9/28-11/4
熊谷守一	百日草	熊谷守一　いのちを見つめて	久米市立美術館	2019/11/16- 2020/1/13
熊谷守一	夏の月	熊谷守一　いのちを見つめて	群馬県立館林美術館	2019/4/20-6/23
熊谷守一	夏の月	熊谷守一　いのちを見つめて	静岡県立美術館	2019/8/2-9/23
熊谷守一	夏の月	熊谷守一　いのちを見つめて	岡山県立美術館	2019/9/28-11/4

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期
熊谷守一	夏の月	熊谷守一　いのちを見つめて	久米市立美術館	2019/11/16-2020/1/13
梅田正徳	月苑	椅子の神様　宮本茂紀の仕事	LIXIL ギャラリー（大阪）	2019/6/7-8/20
梅田正徳	月苑	椅子の神様　宮本茂紀の仕事	LIXIL ギャラリー（東京）	2019/9/5-11/23
武内鶴之助	アラシの夕	黄昏の絵画たち 近代絵画に描かれた夕日・夕景	山梨県立美術館	2019/6/22-8/25
武内鶴之助	アラシの夕	黄昏の絵画たち 近代絵画に描かれた夕日・夕景	島根県立美術館	2019/9/4-11/4
武内鶴之助	アラシの夕	黄昏の絵画たち 近代絵画に描かれた夕日・夕景	神戸市立小磯記念美術館	2019/11/16-2020/1/26
北沢楽天	降魔の図	北沢楽天と時事漫画	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2019/7/13-9/1（半期）
北沢楽天	ぼんおどり	北沢楽天と時事漫画	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2019/7/13-9/1（半期）
北沢楽天	南瓜の図	北沢楽天と時事漫画	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2019/7/13-9/1（半期）
森田恒友	岸近く	平福百穂	宮城県美術館	2019/7/13-9/1
マルセル・デュシャン	ロト・レリーフ	画家の彫刻	DIC 川村記念美術館	2019/9/14-12/8
高松次郎	布の弛み	画家の彫刻	DIC 川村記念美術館	2019/9/14-12/8
パブロ・ピカソ	静物	ピカソ展ー《ゲルニカ（タピスリ）》をめぐって	群馬県立館林美術館	2019/10/5-12/8
クロード・モネ	ルエルの眺め	Claude Monet: The Truth of Nature	デンヴァー美術館	2019/10/20-2020/2/2
ウジェーヌ・ブーダン	ノルマンディーの風景	Monet and Places	バルベリーニ美術館	2020/2/29-6/1（会期変更 2/29-7/19）
クロード・モネ	ルエルの眺め	Claude Monet: The Truth of Nature	デンヴァー美術館	2019/10/21-2020/2/2
ウジェーヌ・ブーダン	ノルマンディーの風景	Monet and Places	バルベリーニ美術館	2020/2/22-6/1（会期変更 2/29-7/19）
森田恒友	河畔の村	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	農家の洗場	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	樵夫	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	島の井	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	湖畔	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	午睡する看護婦	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	房州風景	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	着船	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	初夏のパリ郊外	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	リヨン郊外	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	少女（2）	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	ヴェトゥイユの春 III	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	イル・ブレア	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	フランス風景	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	西欧風景	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	滞欧期葉書（コロンボ）	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	滞欧期葉書（ローマ）	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	滞欧期葉書（ベトイユ）	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	滞欧期葉書（ベトイユ）	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	滞欧期葉書（セゴビア）	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	倉田白羊宛滞欧期葉書	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	倉田白羊宛滞欧期葉書（イルブレア）	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	倉田白羊宛滞欧期葉書（サンシール）	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	見下ろしたる港町	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	天草群島	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	談合島	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	牛深港	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	二江漁村	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	富岡	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	城址	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	会津風景	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	やどり木	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	冬晴	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	岸近く	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	山村の麦刈	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25（半期展示）
森田恒友	河岸葉柳	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	山麓	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期
森田恒友	晩夏	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	枯れ芦図	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	新秋	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	壁画下絵 I	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	壁画下絵 II	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	初夏の図	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	緑野	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	山野万緑	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	蔬菜帖	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	山麓煙霧図	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
森田恒友	水村訪友	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
	『方寸画暦 四十弐季』	森田恒友展	福島県立美術館	2019/11/1-12/25
加納光於	色身ー未だ視ぬ波頭よ I	瀧口修造／加納光於《海燕のセミオティク》2019	富山県美術館	2019/11/23-1/19
カミーユ・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	ゴッホ展	兵庫県立美術館	2020/1/25-3/29(会期変更 3/4 ー 3/16 臨時休館、3/20 ー 3/29)
澄川喜一	そりのあるかたち	澄川喜一　そりとむくり	横浜美術館	2020/2/15-5/24(会期変更 2/24-5/29 臨時休館)

■特別利用

写真原板貸出 : 30 件 44 点
作品撮影 : 2 件 10 点
作品熟覧 : 1 件 9 点
作品模写 : 0 件

■原板貸出

作者名	作品名	発行元等	媒体
小茂田青樹	春の夜	(編集・企画) NPO アートバーブスフォーラム／(発行) 株式会社一色出版	『うつくしの街川越 小江戸成長物語』
木内克	トルソ	川越ペンクラブ	同人誌『武蔵野ペン』
関根伸夫	位相―大地 1	株式会社ゲンロン	『ゲンロン 10』
瑛九	青の中の黄色い丸	アトレ浦和店	『ULaLa』22 号
エクストレム	エクストレム	NHK エンタープライズ／ケイアイエヌ有限会社	web 動画配信サイト「NHK オンデマンド」の放送動画「人間ってナンだ？　～超 AI 入門～」(2019 年 3 月 7 日テレビ放送)
瑛九	花	一般財団法人日本エスペラント協会／埼玉県エスペラント連絡会	第 106 回日本エスペラント大会記念品絵葉書
森田恒友	会津風景	埼玉県県民生活部共助社会づくり課	埼玉県特定非営利活動促進基金協力証および礼状
倉田白羊	ねぎ畑	埼玉県県民生活部共助社会づくり課	埼玉県特定非営利活動促進基金協力証および礼状
倉俣史朗	ミス・ブランチ	(発行・発売) 株式会社 ボーンデジタル／(編纂) 公益社団法人　日本インダストリアルデザイナー協会	『プロダクトデザイン　ー商品開発にかかわるすべての人へー　改訂版』
駒井哲郎	小さな幻影	株式会社 生活の友社	『美術の窓』2019 年 11 月号
小村雪岱	青柳	一般財団法人 小原流	『小原流挿花』2019 年 12 月号
林倭衛	別所沼風景	株式会社コバヤシヒデカズ事務所／街 CHECK	(仮称) さいたま市浦和区三丁目計画(分譲マンション) ホームページ
瑛九	田園 (寄託作品)	White	CD『Q-Ei ep』ブックレット
小村雪岱	雪兎	株式会社 小学館	『和楽』2020 年 2・3 月号
小村雪岱	小村雪岱肖像写真 (昭和 11 年 11 月平河町の自宅 2 階画室にて)	株式会社 浅野研究所	「小村雪岱スタイル　江戸の粋から東京モダンへ」展 (岐阜県現代陶芸美術館ほか) 図録
小村雪岱	小村雪岱肖像写真 (昭和 11 年 11 月平河町の自宅 2 階画室にて)	株式会社 浅野研究所	「小村雪岱スタイル　江戸の粋から東京モダンへ」展 (岐阜県現代陶芸美術館ほか) 展示会場パネル
小村雪岱	小村雪岱肖像写真 (昭和 11 年 11 月平河町の自宅 2 階画室にて)	株式会社 小学館	『和楽』2020 年 2・3 月号
倉俣史朗	ミス・ブランチ	(発行) 東京商工会議所／(編集) 年友企画	『カラーコーディネーター検定試験　アドバンスクラス公式テキスト』

作者名	作品名	発行元等	媒体
澄川喜一	そりのあるかたち	日本文教出版株式会社	「デジタルアートカード　日本・東洋美術編」
木村忠太	ル・クロ＝サン＝ピエールの庭	日本文教出版株式会社	「デジタルアートカード　日本・東洋美術編」
小村雪岱	青柳	（発行）株式会社　朝日新聞出版／（編集制作）株式会社 童夢	『マンガで教養　やさしい日本絵画』
小村雪岱	青柳	株式会社 NHK 出版	『日本美術の底力 「縄文×弥生」で解き明かす』
	埼玉県立近代美術館外観写真	有限会社クリエイティブ	積水ハウス分譲地広告
	埼玉県立近代美術館外観写真(美術館遠景)	有限会社クリエイティブ	積水ハウス分譲地広告
	北浦和公園写真（音楽噴水）	有限会社クリエイティブ	積水ハウス分譲地広告
	北浦和公園写真（公園入口）	有限会社クリエイティブ	積水ハウス分譲地広告
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	日本文教出版株式会社	「デジタルアートカード　西洋美術編」
小村雪岱	一本刀土俵入り（舞台装置原画）序幕第一場　取手の宿・安孫子屋の前	取手市教育委員会／取手市埋蔵文化財センター	『取手市史　追補版（仮）』
小村雪岱	一本刀土俵入り（舞台装置原画）　序幕第二場　利根の渡し	取手市教育委員会／取手市埋蔵文化財センター	『取手市史　追補版（仮）』
小村雪岱	一本刀土俵入り（舞台装置原画）序幕第一場　取手の宿・安孫子屋の前	取手市教育委員会／取手市埋蔵文化財センター	『広報とりで』第 1289 号（2020 年 3 月 15 日発行）
橋本雅邦	竹梅図	飯田市美術博物館	『飯田市美術博物館研究紀要第 30 号』
横山大観	日本心神	大阪府保険医協会	『大阪保険医雑誌』2020 年 4 月号
奥原晴湖	仙境群鶴	（編集）編集室　青人社／（発行）株式会社河出書房新社	『江戸の美しい生物画集成』
橋本雅邦	乳狼吼月	（編集）編集室　青人社／（発行）株式会社河出書房新社	『江戸の美しい生物画集成』
瑛九	雲	徳島県立近代美術館	鑑賞シート指導の手引き「模写して発見！芸術家の技」PDF 版

その他 2 件 5 点の原板貸出あり

■作品撮影

作者名	作品名	発行元等	媒体
ヘリット・トーマス・リートフェルト	レッド・アンド・ブルー	株式会社 LIXIL　LIXIL 出版	森村泰昌『ほんきであそぶと　せかいはかわる』
小林真二	ベルギー風景	個人	
小林真二	教会	個人	
小林真二	風景	個人	
小林真二	庭	個人	
小林真二	風景	個人	
小林真二	花とローソク	個人	
小林真二	海の幸	個人	
小林真二	赤城山	個人	
小林真二	赤木湖風景	個人	

■作品熟覧

作者名	作品名	発行元等	媒体
小林真二	ベルギー風景	個人	
小林真二	教会	個人	
小林真二	風景	個人	
小林真二	庭	個人	
小林真二	風景	個人	
小林真二	花とローソク	個人	
小林真二	海の幸	個人	
小林真二	赤城山	個人	
小林真二	赤木湖風景	個人	

■教育・普及事業

■美術館講座「映像の可能性」

■開催趣旨

美術館講座「映像の可能性」の第３回（最終回）。講師は、第２回にゲストとしてお招きした写真家の金村修氏と小松浩子氏。上映プログラムは、この２名の作品に、映像を手がける建築家・鈴木了二氏（第１回、第２回の講師）、自主上映会の企画でも注目を集める写真家/映像作家の立川清志楼氏、崩壊をモチーフとする映像や立体を発表している美術家・諫山元貴氏の３名の作品を交えて構成した。シリーズ最終回として、都市や建築に潜む「映像の断層／物質の残響」を照射し、「映像の可能性」について議論することを狙いとした。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため２月 29 日から臨時休館となったため開催中止。

■概要

日時：2019 年 3 月 22 日（日） 11:00 ～ 17:00
タイトル：映像の断層／物質の残響
講師：金村修（写真家）、小松浩子（写真家）
場所：講堂
定員：35 名

第１部［作品上映］
11:00 ～ 12:30
上映：諫山元貴、立川清志楼（講師によるコメント有）
13:45 ～ 17:00
上映：金村修、小松浩子、鈴木了二《断層建築Ⅰ》、《断層建築Ⅰ》（撮影：山崎博）
レクチャー＆ディスカッション：講師（進行：梅津元）
エンディング：スライドショー《絶対現場》（1987/2019）
※上映形態:フィルム作品も Blue-ray 又は DVD での上映。

■担当後記

◆平成 30 年度に立ち上げた美術館講座「映像の可能性」の最終回として企画したプログラムであっただけに、開催中止はとても残念だった。開催に向けて準備を進めてくださった金村修氏、小松浩子氏、鈴木了二氏、立川清志楼氏、諫山元貴氏には、この場を借りてお詫びとお礼を申し上げます。また、参加者の募集が始まってからの開催中止であったため、申し込みをしてくださった参加希望の方々には大変申し訳なく、この場を借りてお詫び申し上げます。美術館講座という形式での開催は中止となってしまいましたが、上映予定作品については、ミュージアムシアターなどの形で、上映会形式で紹介できる機会を探りたいと希望しています。（梅津元）

美術館講座ちらし

■一般団体対応

■スライド・トーク

平成27年度より、希望する一般団体（成人を中心とする2名以上の団体。学校団体や子供中心の団体と区別）に対して、スライドや資料を用いて展覧会や美術館の案内を行っている。事前予約制で、企画展またはMOMAＳコレクション展を観覧するグループを対象とし、観覧する展覧会の見どころや作品解説、美術館全体の案内、屋外彫刻の解説など、希望に応じた内容・時間で対応している。展覧会観覧前にテーマや構成、見どころ等を聞くことで、「より関心をもった」「展覧会観覧がますます楽しみになった」という声が聞かれ、一定の成果があるものと考えられる。

また、出張講座も受け付けている。遠方の社会教育施設を利用する成人の団体を対象とし、当館所蔵作品を中心に美術史や美術鑑賞の基礎的な講義を行っている。所蔵作品をメインに構成されるアートカードを用いた鑑賞体験を交えたり、所蔵作品の画像を講座内で活用したりすることで、美術館になかなか来られない地域の方の美術についての興味や関心に応えるとともに、埼玉県の美術文化財への理解を促す取り組みとなっている。

■対応実績

対応数：25団体、計554名（出張講座3件含む）
団体種：カルチャースクール、公民館、聴覚障害者団体生涯学習グループ、デイサービスなど

■視覚障害者向け作品案内サービス

今年度より、目の不自由な方を対象として、MOMAＳコレクション展とデザイナーズチェアの案内を行っている。事前予約制で、展示室内の作品２点と、１階ギャラリーの椅子を約30分程度で案内する。一度の案内につき視覚障害者は２名程度までとしているが、利用者の希望に沿って臨機応変に対応している。

視覚障害者にとって本事業は、日常生活において接する機会のほとんどない視覚芸術との出会いを通して、美術作品への造詣を深めるとともに、未知の世界や価値観に触れるきっかけとなっている。また、当館にとっては、誰もが親しみをもって気軽に利用できる「開かれた美術館」を実践する機会の一つであると同時に、「見ることとはどういうことか」という美術鑑賞の本質を再考する事業ともなっている。

今年度作成した触図（作家五十音順）：①ポール・シニャック《アニエールの河岸》、②タイガー立石《Milano-Torino Superway》、③野村仁《太陽7月》、④レオナール・フジタ《横たわる裸婦と猫》、⑤クロード・モネ《ジヴェルニーの積みわら、夕日》、⑥横山大観《漁村曙》

■対応実績

対応数：9団体、計46名（付き添いの方23名を含む）

■担当後記

◆スライドを用いた団体案内事業開始から5年が経過した。広報物を見ての問い合わせや、以前「スライド・トーク」を利用した団体による再度申し込みなど、本事業が当館のサービスとして定着してきているように思われる。基本的には、企画展の案内を別室でスライドを見せながら30分程度で行っているが、団体の要望によって時間や内容、実施場所等を変更し、柔軟に対応している。

◆視覚障害者のための収蔵品案内の要望が昨年度から増えたため、今年度より新たな事業としてサービスを整備した。展覧会の会期ごとに案内する作品を固定し、その作品の触図（絵の輪郭線等に凹凸をつけたもの）を段ボールで自作するようにしている。作品の構図を伝達する上で触図は非常に有効なツールであり、多くのサービス利用者から好評をいただいた。障害の程度や、障害を持った年齢によって案内の内容を調節・工夫する必要があり、今後もより良い案内方法の研究を続けていきたい。

◆新型コロナウイルスの感染拡大を受け、3月中の一般団体対応はすべて中止となった。利用者、そして職員も、安全で安心できる事業運営のために、団体対応時における感染拡大防止策を考えるとともに、コロナ禍で疲れた人々の癒しと喜びとなるような事業を今後展開していきたい。

◆美術館に訪れる人々はすべて、多種多様なバックグラウンドを持ち、必要としているサービスも人それぞれである。美術に関心のある人が、1人でも多く当館での美術鑑賞を楽しむことができるよう、柔軟な対応を続けるとともに、方法論の精査を積み重ねていきたい。くわえて、将来的に来館者になりうる人々に向けても、事業を通して積極的な働きかけを継続していきたい。　（喜多春月）

視覚障害者向け作品案内の様子

■ファミリー鑑賞会

赤ちゃんや小さいお子様連れのパパやママがゆっくり気兼ねなく美術館を楽しむきっかけとなるよう、MOMASコレクションをスタッフが案内した。また、飽きてしまいがちな子供たちのために、スタッフが一緒に遊ぶコーナーを展示室内に設けた。

■開催実績

①5月16日（水）11：00～12：00／参加者数：10組22名／参加者の感想（抜粋）：子供を見てもらってゆっくり楽しめた。／赤ちゃん連れで美術館に行けて良かった。／短いが豊かな時間を過ごせた。

②11月7日（水）11：00～12：00／参加者数：12組25名／参加者の感想（抜粋）：子供が生まれて初めての美術館で、子供と一緒に楽しめた。／解説があると絵の見方がわかり、素人でも楽しめた。／子供が声を出してもいいことが大変ありがたかった。

（参考）平成25年度～平成30度

平成30年度
　①5月16日（水）／参加者数：19組44名
　②10月24日（水）／参加者数：13組27名

平成29年度
　①5月18日（木）／参加者数：19組40名
　②10月25日（水）／参加者数：5組10名

平成28年度
　①5月11日（水）／参加者数：4組8名
　②10月12日（水）／参加者数：27組56名

平成27年度
　①5月13日（水）／参加者数：14組29名
　②11月26日（木）／参加者数：10組22名

平成26年度
　①5月15日（木）／参加者数：12組26名

平成25年度
　①7月19日（金）／参加者数：10組20名

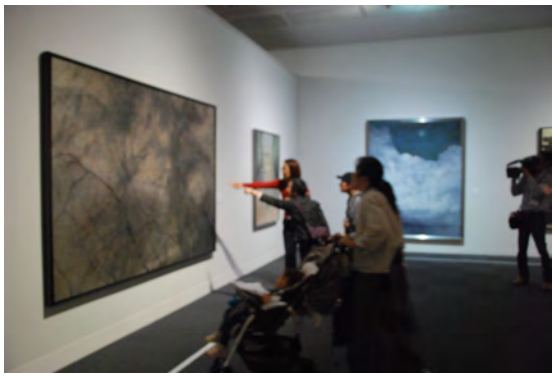
（平成25・26年度後期は大規模改修のため休館）

■担当後記

◆7年目を迎えたファミリー鑑賞会だが、今年度は合計22組47名と前年度を下回る参加者数であった。子供を連れての鑑賞をためらう方がまだまだ多いと思われる。今後は、より気兼ねなく鑑賞できる機会を提供していきたい。（塩野谷孝志）

ちらし（令和元年5月16日／表面・裏面）

ちらし（令和元年11月7日／表面・裏面）


作品解説の様子

子供が遊べるスペースの様子

■子供のためのプログラム

■アート体感ワークショップ「ＭＯＭＡＳのとびら」

0.「MOMASのとびら」とは

2010 年 4 月からスタートした教育普及プログラム。美術館という場所を舞台に、関わる人全て（参加者、美術館スタッフ、ボランティア）が一緒になって美術館での体験を共有することにより、一人ひとりの新しい次元の扉が開き、芸術文化を共に創造する機会が充実することを目的としている。

開催日は土曜日。美術館での“できごと”を楽しむというコンセプトで運営し、参加対象は、幼児（4 才）から大人まで幅広く、参加人数は 1 回につき 30 名程度。作品鑑賞と制作が一体となったプログラムでは、毎回変化のある趣向を用意している。

1. MOMASコレクション みる+つくる

ＭＯＭＡＳコレクションや美術館の建物などをまわり、対話を楽しんで作品の鑑賞を行う。その後、鑑賞をもとにした簡単な制作を楽しむプログラムを実施した。対象枠：小・中学生。

・「見つけた色で光を描こう !!」5 月 25 日／参加者：20 名
・「くるくる！ぴょんぴょん！線の動きは…?」9 月 28 日／参加者：24 名
・「大きくして“みる”世界は粒でできている！?」11 月 23 日／参加者：28 名
・「じわじわ楽しく描こう！」12 月 14 日／参加者：23 名

2. MOMASコレクション 親子クルーズ

ＭＯＭＡＳコレクションや美術館の建物などを親子で鑑賞する。その後、鑑賞をもとにした簡単な制作を親子で楽しむプログラムを実施した。対象枠:小・中学生+親。

・「1 枚の板から椅子ができた！」6 月 22 日／参加者：20 名
・「HALF and HALF！　わたしは誰でしょう?」9 月 14 日／参加者：21 名
・「窓の向こうに見える世界ー重なる時間ー」11 月 9 日／参加者：23 名
・「不思議な果実！君の中身はなんだろな?」2 月 22 日／参加者：18 名

3. 企画展物語 みる+つくる

開催中の企画展の魅力や楽しむためのヒントをわかりやすく紹介するプログラム。鑑賞の後に簡単な制作を行った。対象枠：小・中学生。

・「伝えていきたいことチェア」5 月 11 日／参加者：29 名
・「☆変形キャンバス☆ー自分だけのイメージでー」12 月 7 日／参加者：23 名
・3 月 7 日／新型コロナウイルス感染予防対策のため中止

4. 企画展物語 親子クルーズ

企画展を親子で楽しむプログラム。作品の魅力を紹介し、親子で鑑賞した後、簡単な制作を行った。対象枠:小・中学生+親。

・「願いを込めて☆親子の椅子」4 月 27 日／参加者：30 名
・「DECODE せよ！『もしも』の地球！」10 月 12 日／台風のため中止
・「みないで…?みて…！手で感じるカタチ！」1 月 11 日／参加者：31 名

5. ＳＭＦプログラム

埼玉県内の様々な場所で展覧会やワークショップを行っているＳＭＦ（Saitama Muse Forum）に所属している方を招き、作品制作を楽しむプログラムを実施した。

・「化石発掘★簡単鋳造で古代の生き物をつくろう！」2 月 8 日／講師：矢花俊樹（金工家）／対象枠：小学生～一般／参加者：27 名
・「光るたまごをつくろう！」3 月 21 日／講師：みゃうか（アーティスト）／対象枠：小学生～一般／新型コロナウイルス感染予防対策のため中止

6. み～っけ！

美術館でのできごとを、体いっぱい楽しむプログラム。美術館や公園などの環境を生かし、発見をテーマに実施した。対象枠：幼児（4 才～ 6 才）とその親。

・「MOMASでみつけよう！いろ・イロ・色！」6 月 15 日／参加者：27 名
・「キラキラ枢機卿に大変身！」7 月 13 日／参加者：34 名
・「MOMASで紙の上の運動会！」10月19日／参加者:33名
・3月14日／新型コロナウイルス感染予防対策のため中止

7. 工房

美術館ならではの制作を中心としたプログラム。子供から大人まで、互いに刺激されながら楽しく制作した。対象枠：小学生～一般。

・「まるまるあなだらけのランプシェードをつくろう！」6 月 8 日／参加者：30 名
・「マイ美術館コレクションをつくろう！」7 月 20 日／参加者：32 名
・「きみは見つけられるかな?～展示室のひみつ～」1 月 18 日／参加者：29 名

8. アート★ビンゴ

9 つのクイズを解きながら、美術館を巡って気軽に楽しむ鑑賞プログラム。参加者はエントランスロビーでビンゴ・シートを受け取り、館内外を巡りながらクイズを解く。最後にスタッフと一緒に答えを確認し、スタンプをもらう。想像力を問う問題にファンも多く、少人数でもグループ単位でも楽しめる。対象枠：どなたでも。

・4 月 6 日、7 月 27 日、10 月 26 日、12 月 21 日、2 月 15 日／参加者：計 363 名

9. 彫刻あらいぐま

屋外にある彫刻作品を洗浄するプログラム。参加者は洗浄のプロ（学芸員）やボランティア・スタッフに教えてもらいながら彫刻作品を洗浄する。また、洗浄前と後の彫刻の気持ちを考えるなど、スタッフと会話をしながら鑑賞も楽しむ。彫刻に触れる貴重な体験として人気のプログラムである。対象枠：小・中学生＋親。

・5 月 18 日／参加者：28 名・9 月 21 日／参加者：23 名

10. わくわく鑑賞ツアー

スタッフと会話をしながら、美術館の作品を鑑賞して楽しむプログラム。参加者はエントランスロビーからスタートし、館内外を巡って、スタッフと対話をしながら 2 ～ 3 作品を鑑賞する。子供たちから大人まで、気軽に作品と関われる人気のプログラムである。対象枠：どなたでも。

・4 月 13 日、10 月 5 日、11 月 2 日、／参加者：計 175 名

・2 月 29 日／新型コロナウイルス感染予防対策のため中止

11. フリープログラム

誰でも参加できるプログラム。洗濯ばさみやスプーンを使って造形遊びをしたり、青空の下で風を感じて描いたり、ストローをカクカクつなげたりして楽しむ。対象枠：どなたでも。

・「洗濯ばさみで絵を描こう！」4 月 20 日／参加者：109 名

・「洗濯ばさみで絵を描こう！」「風を描こう！」「リキシャカメラ登場！」5 月 4 日／参加者：395 名

・「洗濯ばさみで絵を描こう！」「カクカクつなげて遊ぼう！」7月6日／参加者：97名

・「洗濯ばさみで絵を描こう！」「風を描こう！」9 月 7 日／参加者：188 名

・「洗濯ばさみで絵を描こう！」「カクカクつなげて遊ぼう！」「お顔をトレース★肖像画！」1月25日／参加者：144名

「洗濯ばさみで絵を描こう！」

12. サマー・アドベンチャー

夏休み限定の特別企画。普段なかなか足を運べない遠方の方にも参加しやすく、美術に触れ、美術の価値を見出す機会を提供するスペシャル・プログラムである。

・「洗濯ばさみで絵を描こう！」「キラキラ・カチカチ★スプーンワールド」「つなげて遊ぼう！」8 月 3 日／参加者：371 名

・「アーティストから『カタチの挑戦状』が届く！～カタチの言葉で対話しよう～」8 月 10 日／講師：高田洋一（美術家）／参加者：30 名

・「もう一人の自分、私の影は何色?」8 月 17 日／講師：青木聖吾（美術家）／参加者：37 名

・「MOMASでヘアメイクアップアーティストになろう！」8 月 24 日／参加者：18 名

「もう一人の自分、私の影は何色?」

13. もますまつり

県民の日に 1 日行う、フリープログラムの拡大版。対象枠：どなたでも。

・「洗濯ばさみで絵を描こう！」「風を描こう！」「リキシャカメラ登場！」11 月 14 日／参加者：741 名

■夏休みの特別プログラム

1. 夏休みMOMASステーション

夏休みに美術館を訪れる子供たちをサポートするコーナー。研修を受けた教育普及サポート・スタッフが相談員となり、館内の案内や「彫刻や作品を楽しむためのワークシート」、「展覧会を楽しむためのワークシート」などの資料を配布したり、美術館見学の宿題の相談に応じたりした。また、県内の中学生が作成した美術館紹介のレポート例を掲示するなど、子供のサポートを充実させた。

・7月20（土）～8月25日（日）の休館日以外の毎日／エントランスロビー／対応数：計2,706名

2. 夏休み鑑賞ガイドツアー

夏休み期間中に3日間限定で行う30分のミニ・ツアー。美術館職員と教育普及サポート・スタッフの有志がファシリテーターとなり、ツアーの運営にあたった。美術に興味のある人と一緒に美術館を巡ることで、美術の楽しみ方を体験的に学ぶことができる機会を提供することができた。

・8月8日、8月16日、8月21日／対応数：計124名

サポート・スタッフによる鑑賞ツアーの様子

■広報記録

＜新聞、ミニコミ誌等＞

・2019年7月1日「MOMASのとびら　サマー・アドベンチャー2019」『たまログ』

・2019年11月7日「アート体感ワークショップ『MOMASのとびら』芸術の秋を楽しもう」『朝日新聞』

■担当後記

◆「MOMASのとびら」も来年度10年目を迎える。前身の「アートの森」も含めると、子供のためのプログラムも20年目の事業となった。年々変わるプログラムには、新規の方、常連の方と多くの方に参加いただいている。美術館だからこそできるプログラムを多く行い、参加者が満足できる活動を続けていきたい。

◆新型コロナウイルスの影響で年度末のプログラムは中止となってしまった。そのため、直接出会うことで感じる美術作品の良さを伝えることが難しくなった。しかし、このことをマイナスととらえずに、離れていてもできる子供のためのプログラムの在り方を美術館として考えていきたい。（飯田淳乃）

■ミュージアム・コラボレーション

埼玉大学と埼玉県立近代美術館が共同で子供のための事業を行うもので、主として土曜日の教育普及プログラム「MOMASのとびら」のスタッフとしてプログラムの企画・運営をしている。教員等を目指す学生が積極的に参画することで、学生は子供への接し方や授業の進め方等、現場での実践力を身につけることができる。美術館という社会教育施設での学びの在り方、学校での図工・美術の学び、社会や子供と図工美術のつながりなどを広く学ぶ場になっている。

埼玉大学の学生プログラムの様子：丸山直文《garden 3》の鑑賞

■担当後記

◆「ミュージアム・コラボレーション」を履修する学生の人数は近年減少傾向にあったが、今年度は7名の学生が参加し、比較的多数での取組となった。異学年の学生が集まっての活動、その時に美術館に集まった子供やその保護者への対応に、年度当初は戸惑う学生の姿もみられたが、一年を通してそれぞれが学びを深めることができた。教員を目指すうえでの必要な資質や、これから社会活動に参画するにあたり重要な能力を培うことができたと実感している。

◆学生が主体となって企画、運営したプログラムは4回であったが、実施日までに試案を重ね、いずれも魅力的な内容となった。参加者はワークショップを大いに楽しみ、アートに親しむことができた。来年度も、大学と連携を取りながら、学生が自主的に学んでいくことができる場を提供したい。そして、「MOMASのとびら」の充実と向上を図っていきたいと考える。　（矢嶋梨恵）

埼玉大学の学生プログラムの様子：丸山直文《garden 3》の鑑賞をもとにした制作後の成果物鑑賞

■企画展ワークシートの作成

企画展の特徴をわかりやすく紹介するため、主にセルフガイド型のペーパー・アイテムを作成している。会場で無償配布するほか、学校団体や子供のためのプログラムなどでも幅広く活用している。必要に応じて小・中学校、高校、図書館、公民館にも配布する広報資料であり、また学校では、鑑賞学習の指導者側のツールとしても用いられ、来館前の事前学習に大いに役立つこともある。

令和元年度は次の４種を作成した。

①「ブラジル先住民の椅子」／作成：喜多春月

表面

裏面

②「DECODE/ 出来事と記録ーポスト工業化社会の美術」／作成：飯田淳乃

表面

裏面

組み立てた状態（着彩済）

③「ニューヨーク・アートシーン　ロスコ、ウォーホルから草間彌生、バスキアまでー滋賀県立近代美術館コレクションを中心に」／作成：喜多春月

表面

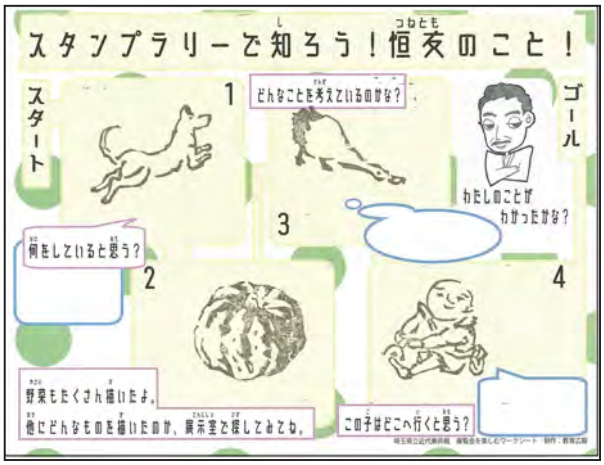
裏面

組み立てた状態

④「森田恒友展」／作成：飯田淳乃

外側

内側



スタンプラリーで使用したスタンプ

■学校との連携

■教員美術講座

■第1回教員美術講座
「カラダで・うごいて、みる・アート！」

8月22日（木）／講師：新井英夫氏（体奏家・ダンスアーティスト）／参加者：14名

公募展「カラダで・みる、うごいて・みる！」に関連する「鑑賞と身体表現」がテーマの講座を開催した。美術作品を鑑賞する際、学校現場では言葉で伝える活動が多くなる。しかし、子供たちが自分の語彙で作品を語ることには限界がある。また、美術作品は言葉にはできない感情や想像をかき立てる表現をたくさん含んでいる。美術作品をみて感じた気持ちや、絵の中の世界について想像したことを、身体の動きで表現するにあたり、動きの種類や組み合わせ方、表現に使用する空間や音による伝え方の違いなどを、実際に身体を動かしながら学んだ。

参加者の感想（抜粋）：身体を使った表現は、コミュニケーションのスキルトレーニングにもすぐに活かせると思いました。音でもなく動きでもなく、絵をもとにして集団の表現をつくるのは新鮮で、勉強になりました。とても楽しく動けました。（特別支援学校教諭）／体をいっぱいに使って作品を鑑賞・表現することは面白いことだと気付けました。体を動かすことに苦手意識があっても、取り組めるものだと思います。（中学校教諭）

第1回教員美術講座　活動の様子

■第2回教員美術講座「右脳で描く！クレパス画」

3月27日（金）実施予定／講師：代　淳子氏（鴻巣市立吹上中学校教諭）　※新型コロナウイルス感染予防対策のため中止。令和2年度での実施を検討する。

人間の左脳は言語的、理論的な働きをしているのに対して右脳は非言語的、直感的な働きをしているといわれる。右脳を使うことで自分らしく生き生きとした表現ができることが考えられる。しかし、図工・美術の授業でそのような表現ができているかは確かではない。講座では、右脳を働かせて触覚や嗅覚といった諸感を刺激し、感じることによって豊かな表現活動ができることを体験する。普段使っているクレパスも適切に使うことでさらに表現の幅が広がる。講義、演習を通して、児童生徒が楽しく自己表現できる指導方法を紹介する。

■担当後記

◆第1回の講座では、昨年度から県内学校を対象に実施している公募展「カラダで・みる、うごいて・みる！」に関連する内容で開催したが、参加者からは、作品鑑賞の幅が広がった、言葉よりも作品のよさを共有できる可能性があることが分かった、という声があった。作品鑑賞で感じたことを表現したり共有したりする方法は、児童生徒の実態によって様々に展開するべきだと実感できる講座となった。

◆第2回の講座は、新型コロナウイルス感染予防対策のため中止となってしまった。児童生徒の中には、「うまく描こう」という意識が強く、自分が本来もっている感性を表現できずにいる子供も多いように思う。また、指導者がそのように仕向けてしまう場合もあるだろう。指導方法に悩む若手の先生方の姿も見られる。予定していた講座の内容は、そのような課題を解決するための一つの手立てとして、大いに役立つことが考えられる。実施に向けた調整を引き続き行っていきたい。

◆来年度は、例年のような講座の開催は難しいことが考えられるが、鑑賞教育の新しい視点や可能性を先生方と研究し、児童生徒の学びを深める支援ができるよう努めていきたい。　（矢嶋梨恵）

■ミュージアム・キャラバン事業

県内の学校をアーティストと共に訪問してワークショップを行い、授業の枠を広げ、鑑賞や創作体験をすることを通して児童生徒に美術の楽しさや美術的な価値観・視点を伝えることを目的に本事業を実施した。

■「影のワークショップ」

講師に青木聖吾氏（美術家）を迎え、「影」をテーマにしたワークショップを行った。プロジェクターの光で映し出された影の形を友達同士で写し取り、その形に合わせて赤・青・緑の3色のパステルで色を重ね、「もう一人の自分」を作り出した。友達同士で影に着目し、児童それぞれが自分だけの色の重ね方をすることで、様々な表情の作品が出来上がった。また、講師の作品や制作過程を紹介し、美術への姿勢や考え方、作品制作にこめる思いなどについて、児童が知る貴重な機会となった。

・12月20日（金）／入間市立東金子小学校3年生、60名

ミュージアム・キャラバン「影のワークショップ」の様子

■「くんくんボトル」

講師に井上尚子氏（現代美術家）を迎え、「匂い」がテーマのワークショップを行った。普段は気にかけない身近な匂いに気付き、その匂いについて共有したり話し合ったりすることで、過去の記憶を回想したり、想像したりする楽しさを味わったりして、発想・構想する力を養うことをめあてとして実施した。活動の最後には、自分の好きな匂いを集めた「オリジナルくんくんボトル」を作って全学年で交流をした。

特別支援学校での実施にあたり、当館収蔵のグッドデザインの椅子を使った鑑賞授業や造形遊びの活動を行って美術館職員とのふれあいを深めたり、講師を事前に紹介したりすることで、通常と異なる授業に不安を覚えないよう配慮した。その成果として、生徒が当日の活動にすぐに親しみ、取り組むことができた。

・2月3日（月）／埼玉県立騎西特別支援学校　高等部1～3年生、81名

ミュージアム・キャラバン「くんくんボトル」の様子

■担当後記

◆美術館から遠方、もしくは学校事情や児童生徒の実態から美術館見学などが難しい学校との連携を深めるために本事業は大変有意義である。今年度も2校でワークショップを実施した。児童生徒の学びを深めるため、講師、教員、美術館職員が検討を重ねて取り組んだ。

◆通常の授業協力や美術館職員が担当するワークショップとは異なり、実施までの検討や調整においては課題が多くある。また、講師の美術への考えを児童生徒に伝えるにあたり、適切なアプローチの仕方を模索する必要がある。難しさを感じることもあるが、活動を思い切り楽しみ、それぞれに学びを得られた児童生徒の表情は大変印象深く、教育に関わるものにとって大きな喜びである。今後も本事業を通して、子供たちが美術にふれる機会をつくっていきたい。　（矢嶋梨恵）

■その他の学校連携事業

学校との連携を図る活動として、以下の対応も行った。

■学校団体の受け入れ

美術作品の鑑賞を目的として来館した学校等の園児・児童・生徒・学生を対象に、対話による鑑賞をしながら展示室や屋外彫刻を案内した。さらに、グッドデザインの椅子の鑑賞体験学習や、造形遊びワークショップ「洗濯ばさみで絵を描こう!」なども実施した。美術館では椅子の座り心地を体感したり、館内の雰囲気を味わったりと、作品の魅力を存分に感じ取ることができる。利用した学校からは、有意義な学習の機会となったという旨の感想をいただいている。しかし、それぞれの学校の教育課程や実態により、来館できない学校も多い。バスの利用などアクセスのしやすさ、多くの団体が利用できるようにするための運営、ニーズに合わせた展開も検討していく必要がある。

学校団体対応数：48 団体、計 2008 名。

※2 月 29 日より、新型コロナウイルス感染予防対策のための臨時休館に伴い、受け入れ中止。

対話による鑑賞の様子

■授業協力

学校等に訪問し、当館収蔵作品の複製画や鑑賞キットを使って鑑賞の授業を行った。美術館利用研究会が考案したプログラムを軸に、事前に先生方と打ち合わせを行い、園児・児童・生徒・学生の実態やねらいに合わせて授業を計画・実施した。利用した学校の先生からは、鑑賞授業を通して、自身の授業の見直しにもなり、子供たちに美術館や作品、作家への興味をもたせるきっかけとなったという感想をいただいている。図工・美術の授業を苦手に感じる先生自身が楽しみながら指導の幅を広げることにも役立っているようである。実施をきっかけに学校全体で年間指導計画に組み込むなど、繰り返し依頼のある学校も多い。また、各市町村の教科別研修会などで紹介していただくこともあり、経験のある先生方だけでなく若手の先生による活用も増加してきている。

授業協力数：49 校、152 学級、計 5,014 名。

小学校での鑑賞授業の様子

■複製画等の貸し出し

先生方が授業で活用できるよう、当館収蔵作品の複製画や鑑賞キット、アートカードなどを貸し出した。複製画や鑑賞キットは、パブロ・ピカソ《静物》、小茂田青樹《春の夜》、クロード・モネ《ジヴェルニーの積みわら、夕日》、カミーユ・ピサロ《エラニーの牛を追う娘》、マルク・シャガール《二つの花束》、岸田劉生《路傍初夏》、瑛九《青の中の黄色い丸》などから選ぶことができる。教員向けの研修や公開授業で知ったり、利用している先生の実践を聞いたりする先生も多く、問い合わせが増えている。その際には、授業の流れを実際に見せたり、美術館利用研究会が考案した授業例なども紹介したりしている。

貸出数：40 件。

■第 2 回「カラダで・みる、うごいて・みる!」

学校との連携強化と、図工・美術教育の発展を目的に、県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校（級）の児童・生徒を対象に本事業を開催した。当館収蔵作品の鑑賞をもとに受け取ったイメージを、身体を使った動きで表現し、短い映像に記録したものを募集した。7 校、23 グループ、計 128 名が参加した。詳しくはp.102を参照。

■職場体験の受け入れ

対応数：7 校、19 名（中学校 6 校、高校 1 校）。

■博物館実習

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要領」に基づき、下記の 16 大学 18 名の実習生を受け入れ、全 7 日間の日程で実施した（青山学院大学、桜美林大学、学習院大学、埼玉大学、静岡文化芸術大学、女子美術大学、清泉女子大学、多摩美術大学、筑波大学、帝京大学、東京女子大学、東京造形大学、東京大学、日本大学、武蔵大学、武蔵野美術大学）。

学芸員および担当職員による講義中心の合同実習を 4 日間、担当学芸員のもとテーマに応じた実務を行う個別実習を 3 日間行った。

■合同実習

講義、実技、講話などを中心に職員、学芸員が講師として指導した。

・7 月 23 日（火）／開講式、オリエンテーション、館内外施設見学、学芸部の仕事について、管理の仕事について、企画展の概要について、企画展の実務について、計良宏文展見学

・7 月 24 日（水）／彫刻とその取り扱いについて、図書とその取り扱いについて、美術資料の収集と保存について、MOMASコレクションについて、油彩画とその取り扱いについて

・7 月 25 日（木）／彫刻のメンテナンス、広報と刊行物について、広報活動について、教育普及活動について、ワークショップ「MOMASのとびら」・大学連携について

・7 月 26 日（金）／新規採用の学芸員から、日本画とその取り扱いについて、版画・写真とその取り扱いについて、これからの美術館について

■個別実習

例年通り、各実習生の研究テーマや関心領域に応じて学芸員が 1 ～ 2 名の実習生を担当し、実務の実習を行った。実習日は担当学芸員と実習生の相談により決定し、展示作業、発送、資料整理、ワークショップ運営などに実際に参加してもらった。原則として 8 月中に 3 日間の実習を行った。

■美術館ボランティア

■美術館サポーター

美術館サポーター（ガイド・ボランティア）は、各会期最初の火曜日から毎日、14 時から 30 分程度、MOMＡＳコレクション展示室で解説ガイドを行っている。その活動は美術館に初めて訪れた方には鑑賞の手立てとして、リピーターの方には見方を広げる機会として、美術館をより身近なものにしてくれている。

令和元年度の登録人数:31 名（男性 6 名、女性 25 名）。

■研修日程

・4月27日（土）「学芸員と見る：コラージュ、クリシェ・ヴェール、技法の比較」／梅津学芸員
・5月18日（土）特別講演「美術館のこれまで、これから」／建畠　哲　館長
・6月22日（土）「ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義へ」／平野学芸員
・7月27日（土）館外研修　東京都写真美術館コレクション展第2期「ただいま／はじめまして」、企画展「あそびのじかん」
・8月24日（土）「美男子展にむけて：作品の考察」／五味学芸員
・9月28日（土）「情報化社会と『もの派』」／佐原学芸員
・10月26日（土）「近代日本画における中国」／菊地学芸員
・11月23日（土）「サポーターズ・チョイス！」検討会
・12月21日（土）「サポーターズ・チョイス！」検討会
・1月25日（土）ゲスト講演・実習「銅版画の技法について」／野口恵子氏（埼玉県立近代美術館フレンドfam.s事務局）
・2月22日（土）「森田恒友について」／吉岡学芸員
・3月21日（土）新型コロナウイルス感染予防対策のため中止

■その他のガイド

・5 月 16 日（木）　ファミリー鑑賞会：2 名
・10 月 15 日（火）中学校団体対応：1 名
・11 月 7 日（木）　ファミリー鑑賞会：2 名
・11 月 27 日（水）小学校団体対応：1 名

■担当後記

◆今年度も、美術館サポーターからの要望をもとに研修会を実施した。当館の学芸員による研修では、MOMＡＳコレクションや企画展と連動させ、各学芸員の専門性や個性を発揮してもらうことを意図して実施した。館外研修では東京都現代美術館へ伺い、昨年度まで当館でも美術館サポーターとしてご活躍いただいた方のガイドで、新規も含めた収蔵作品の展示を観覧し、充実した研修となった。

◆美術館サポーターは多くの美術館の展示、美術館講座やギャラリートークに足を運び、互いのガイドを聞き合うなど日々研修を積んでいる。また、自身で制作したり、地域のアートイベントに参加したりと活動的である。その探求心、培われた見識の広さが、充実したガイドにつながっている。参加者の反応や情報を共有し、より良いガイドにつなげたい。

◆今年度は、美術館サポーターと学芸員で作り上げた展示、「サポーターズ・チョイス！」をMOMＡＳコレクション第Ⅳ期で開催した。詳しくは p.51 および p.97 を参照。

◆令和元年度は、第 8 期生となる美術館サポーターを募集し、論文・面接選考、養成講座の受講、実技認定を経て、9 名が新規登録となった。ベテラン、新規ともに、全美術館サポーターがそれぞれの経験や見方、リサーチをもとに行うガイドは、同じ作品鑑賞でも新たな楽しさを提供する。新型コロナウイルス感染予防対策のため、2 月 29 日より臨時休館が続き、美術館サポーターの活動の場がない状態が続いている。美術と出会い、交流できるガイドの時間が一日も早く戻ることを切に願う。

（矢嶋梨恵）

美術館サポーター 8 期生　研修の様子

■教育普及サポート・スタッフ

当館の教育普及事業をサポートするボランティア・バンクとして、学生や教員、一般まで幅広く募集している。美術館への関心の高さとともに、バンク登録者にとっては社会貢献への位置づけとなっている。1年更新で、令和元年度の登録人数は87名。

■研修日程

・新規スタッフ研修： 美術館でのサポート・スタッフの役割と子供の鑑賞活動について理解してもらい、美術館と子供たちのつなぎ役として研修を実施した。その中で、美術館の目的や収蔵作品、令和元年度の活動内容と運営計画などについて講義した。／6月23日（日）、6月28日（金）

・ガイドスタッフ特別研修：夏休み期間に展示中の作品を実際に見て、対話型の鑑賞の練習をした。／8月4日（日）

■担当後記

◆令和元年度は、新規登録者が20名以上集まり、年齢や業種を超えて意欲的に活動する姿がみられた。4月には美術や教育に関する学科のある大学を中心に連携を図り、ガイダンスを行って参加を呼びかけた。

◆夏休みのMOMASステーションや鑑賞ガイドツアーには、小中学生を中心に多くの参加者が集まった。また、2月、9月に行ったMOMASのとびらでは各回多くの登録者が集まり、充実した活動となった。　（飯田淳乃）

鑑賞ガイドツアーの様子

■MOMAS彫刻ボランティア

MOMAS彫刻ボランティアは、2004（平成16）年に発足した。現在は、土曜日開催のワークショップ「MOMASのとびら」において、彫刻洗浄プログラムのボランティア講師を務めることを活動内容にしている。「MOMASのとびら」における洗浄プログラムの名称は、ボランティアの愛称である「彫刻あらいぐま」を引き継ぎ、彫刻の洗浄方法と屋外彫刻の意義などを教えている。登録者数9名。

■活動概要

・5月18日（土）／「MOMASのとびら」の「彫刻あらいぐま」で、ボランティア講師として指導。

・9月21日（土）／「MOMASのとびら」の「彫刻あらいぐま」で、ボランティア講師として指導。

■広聴・広報・刊行物

■広聴

1. アンケート調査

企画展、MOMASコレクションともに、毎回会場出口でアンケート調査を実施し、来場者の声を聴いた。また、「美術館にひとこえを!」と名づけたアンケート用紙を1階ロビーに常備し、質問や要望の内容によっては回答をさしあげている。美術館講座やMOMASのとびら、ミュージアム・コンサートなどでもアンケートを実施した。

・企画展調査 :「ブラジル先住民の椅子」4月6日～5月19日の40日間。回答数 : 201 ／「計良宏文の越境するヘアメイク」7月6日～9月1日の52日間。回答数 : 241 ／「DECODE」9月14日～11月4日の48日間。回答数 : 91 ／「ニューヨーク・アートシーン」11月14日～1月19日の52日間。回答数 : 269 ／「森田恒友展」2月1日～2月28日の25日間。回答数 : 103。

・MOMASコレクション調査 :「Ⅰ」4月20日～7月21日の78日間。回答数 : 307 ／「Ⅱ」7月27日～10月20日の78日間。回答数 : 253 ／「Ⅲ」10月26日～2月2日の81日間。回答数 202 ／「Ⅳ」2月8日～2月28日の19日間。回答数 25。

2. その他

当館への問い合わせ等はインターネットでも受け付けており、随時回答をさしあげている。

■広報

1. 印刷物の作成・配布

・企画展毎に、それぞれのイメージに即したデザインによるポスター、ちらし、ワークシート等を作成した。MOMASコレクションでは昨年に引き続き、イメージを統一したB1・B2ポスターを会期ごとに作成し、北浦和公園や館内各所に掲出した。こうしたポスター類や道案内は、JR東日本大宮支社の協力を得て、最寄りのJR北浦和駅構内等にも設置している。その他、美術館講座やミュージアム・コンサート、学校向けの利用案内、ファミリー鑑賞会などは手づくりのちらしを作成した。

・以上の印刷物や広報紙『ソカロ』、ミュージアム・カレンダーを、関連機関、協力ポイント、近隣自治会や商店会、カフェ、県内の情報拠点や小・中・高・特別支援学校、全国美術館等に配布した。

2. パブリシティ

・展覧会やイベント、教育・普及事業等について記者発表し、新聞、テレビ、雑誌、WEB等の各種メディアに掲載されるよう努めた。

・企画展では、会期初日等に報道関係者や雑誌社、美術ブロガー等を招いたプレスカンファレンスを開催した。

3. ホームページ

彩の国県立学校間ネットワークシステムのサーバ上でホームページを運用し、各種情報を発信した。

URL : https://pref.spec.ed.jp/momas/

・情報項目 : お知らせ（ニュース、広報誌ソカロ、スタッフ募集、プレスリリース）、利用案内（美術館概要、利用案内／交通案内、フロアガイド、一般展示室／講堂、北浦和公園）、展覧会（企画展、MOMASコレクション、アーティスト・プロジェクト #2.0、年間スケジュール）、イベント（企画展関連イベント、MOMASコレクション関連イベント、MOMASのとびらカレンダー、イベント・カレンダー）、教育・普及事業（MOMASのとびら、学校と美術館、美術館講座）、もっと楽しもう（収蔵品紹介、今日座れる椅子、資料閲覧室、北浦和公園・野外彫刻、ファムス、ミュージアム・ショップ、レストラン・ペペロネ）、リンク、サイトマップ、Other Languagesなど。

・年間ページビュー数 : 884,499

4. ソーシャル・ネットワーキング・サービス

・ツイッター公式アカウント（2011年7月～）では、美術館や北浦和公園の情報を定期的にツイートしている。

URL : https://twitter.com/momas_kouhou/

ツイート数 : 8,179、フォロワー数 : 20,418（3月末現在）

・YouTube公式アカウント（2014年1月～）では、展覧会の告知映像や展示風景、対談イベント、学芸員のギャラリートークの様子などを配信している。

URL : https://www.youtube.com/user/momasjp

・フェイスブック公式ページ（2014年7月～）では、展覧会や各種イベント、ワークショップの様子など、幅広い情報発信を随時行っている。

URL : https://www.facebook.com/momaspr

いいね！数 : 2,159（2020年3月末現在）

5. その他

・県展開催期間限定で、MOMASコレクション観覧料を半額にする割引サービスを実施した。

・企画展情報（「ブラジル先住民の椅子」、「May I Start?

計良宏文の越境するヘアメイク」、「DECODE ／出来事と記録」、「ニューヨーク・アートシーン」、「森田恒友展」）を英語翻訳し、ホームページ上で提供した。
・収蔵品解説を新たにスペイン語、韓国語、中国語（繁体字、簡体字）に翻訳し、合計 31 点の収蔵品解説を多言語にて受付に配置している。
・埼玉りそな銀行北浦和西口支店の協力により、店内デジタルサイネージによる企画展告知映像の配信を行った。
・グーグル社が提供する「Google Arts & Culture」に参加しており、2020 年 3 月末現在、主要な収蔵作品の高精細画像 99 点（日英の解説付き）および館内・北浦和公園のストリートビューを WEB 上で閲覧することができる。
・近隣のディスクユニオン北浦和店と連携し、展覧会半券による割引サービスを行った。

■広報記録

＜埼玉県立近代美術館＞
・「埼玉県立近代美術館」『さいたま市観光ガイドブック』2019年4月1日
・「埼玉県立近代美術館スケジュール」『美術展&美術館ぴあ』2019年4月30日
・「50Things to do in Saitama」『Time out Tokyo』2019年5月1日
・「埼玉県立近代美術館」『エスペラント』2019年5月1日
・「埼玉県立近代美術館」『DKセレクト』2019年5月30日
・「北浦和公園」『埼玉を遊ぼう』2019年7月25日
・「だいすき埼玉」『健康と平和』2019年8月1日
・「アートin浦和」『ぱど』2019年8月23日
・「shupuaの応援団」『信越ポリマーグループ報』2019年9月1日
・「自然に囲まれながらアートの心を養おう」『あんふぁん』2019年9月6日
・「モネ　積みわら　世界の名画と日本の名品１００選」『美術手帖』2019年9月10日
・「アートな椅子見て座って」『日本経済新聞』2019年9月27日
・「子供と楽しめる公園」『さいたま市都市局まちづくり広報誌korekara』2019年10月
・「週末は穴場なミュージアムへ」『寄り道散歩旅』2019年10月1日
・「埼玉県立近代美術館」『くらし方録』2019年10月10日
・「埼玉県立近代美術館」『社会保険さいたま』2019年11月1日
・「音楽噴水」『さいたま市報２月号』2020年2月1日

■担当後記

◆Twitterのフォロワー数も20,000人を突破し、強力な広報ツールになってきている。時代の変化で、紙面ではなくWEB媒体に取り上げられる機会が増え、それらをTwitterで紹介するなどし、様々な客層に呼びかけている。

（谷田昇平）

■刊行物

平成 30 年度版年報、平成 31 年度版要覧、令和 2 年度版ミュージアム・カレンダー、広報紙ソカロ、美術館概要パンフレットを刊行した。年報、要覧はホームページでも閲覧できる。

■広報紙ソカロ

広報紙ソカロ（A3 版 2 面・カラー印刷）を、2 か月毎（年 6 回、各 13,000 部）に編集・発行・配布した。

■ 2019 年 6-7 月号（#96　5 月 31 日発行）

・July Museum（大浦周）
・さくねんのたまもの　平成 30 年度新収蔵作品のご紹介（鴫原悠）
・コラム:MOMASコレクション第1期「山水から風景へ」（菊地真央）
・ミュージアム・ショップおすすめ商品「ヒルダヒルダのポーチ」（名古屋仁美）
・MUSEUM NEWS 2019.6 ▶ 2019.7

■ 2019 年 8-9 月号（#97　7 月 31 日発行）

・世界が裏返った場所、で。－関根伸夫さんへ　企画展「DECODE/ 出来事と記録―ポスト工業化社会の美術」（梅

津元）
・MOMASコレクション第２期　うつしと重なり―版画の諸相（五味良子）
・MOMASコレクション第２期　小特集：バウハウス100年（平野到）
・どうぞよろしく！（菊地真央）
・ミュージアム・ショップおすすめ商品「3Dペーパーモデル」（浜田幸代）
・MUSEUM NEWS 2019.8 ▶ 2019.9

■ 2019年10–11月号（#98　9月30日発行）
・アメリカ美術と私　企画展「ニューヨーク・アートシーン」（尾崎信一郎）
・アーティスト・プロジェクト #2.04　トモトシ（佐原しおり）
・MOMASコレクション第３期　近代日本画における中国（菊地真央）
・ミュージアム・ショップおすすめ商品「インスタントフィルムカメラ」（野溝円香）
・MUSEUM NEWS 2019.10 ▶ 2019.11

■ 2019年12–2020年1月号（#99　9月30日発行）
・森田恒友展　自然と共に生きて行かう（吉岡知子）
・MOMASコレクション第３期　ゆれるかげ（佐原しおり）
・サマー・アドベンチャー「もう一人の自分、私の影は何色?」（矢嶋梨恵）
・ワークショップ講師　青木聖吾さんへのインタビュー（矢嶋梨恵）
・ミュージアム・ショップおすすめ商品「アートカレンダー」（信山恵理子）
・MUSEUM NEWS 2019.12 ▶ 2020.1

■ 2020年2–3月号（#100　1月31日発行）
・暗中模索をくぐりぬけて　MOMASコレクション第４期サポーターズ・チョイス！（喜多春月）
・研究ノート　1950年代―戦後日本美術の帰結に関する研究（五味良子）
・第2回「カラダで・みる、うごいて・みる！」受賞作品をロビーにて上映中！（飯田淳乃）
・ミュージアム・ショップおすすめ商品「押花コースター」（宮前いづみ）
・MUSEUM NEWS 2020.2 ▶ 2020.3

■ 2020 年 4-5 月号（#101　3 月 31 日発行）

・企画展「New Photographic Objects」（大浦周）

・斎藤与里のゆるい絵（鳴原悠）

・ミュージアム・ショップおすすめ商品「組み立て椅子」（野溝円香）

・MUSEUM NEWS 2020.4 ▶ 2020.5

■埼玉県立近代美術館ニュース『ZOCALONG』

広報紙『ソカロ』のスピンオフとして、『ZOCALONG 1982 年 11 月 -2020 年 3 月号 #04』を発行した。

・規格：840 × 145mm、蛇腹 8 つ折り／2020 年度ミュージアム・カレンダー裏面に掲載（付録）／編集：大越久子／デザイン：川村格夫（ten pieces）／内容：「組立式ＭＯＭＡＳ・反転」＋ＭＯＭＡＳの屋外で見る作品紹介

■図書資料の収集と公開

美術館活動を進める上で必要な、基礎的及び専門的資料を収集し、併せてこれを一般に公開することにより、県民が美術に親しみ、理解と鑑賞を深める機会を提供している。

■蔵書冊数一覧

・一般書

	分　類	平成 30 年度まで	平成 31 年～令和 1 年度	計
購入	A　美術総記	2,457	8	2,465
	B　日本美術	2,680	23	2,703
	C　西洋美術	3,148	0	3,146
	D　東洋その他の美術	186	0	186
	E　図録	886	5	891
	F　埼玉資料	245	2	247
	G　関係諸学	791	2	793
	小　計	10,393	40	10,433
受贈（一般図書・他館図録）		34,180	797	34,977
合　計		44,573	837	45,410

・美術雑誌（バックナンバーを除く）
　購入　25 タイトル（うち洋雑誌 4 タイトル）
　受贈　12 タイトル
　計　　37 タイトル
・開室日数　281 日
・利用者数　2,487 人
・レファレンス受付件数　86

■椅子の美術館

約 70 種類所蔵しているグッドデザインの椅子やアートな椅子を、入館者に自由に座って楽しんでもらった。これらの椅子は、企画展やMOMASコレクションの展示替えに合わせて定期的に入れ替え、常時 30 ～ 40 脚程度を館内各所に配置しており、ホームページの「今日座れる椅子」で紹介している。

今年度は、以下の 2 脚の椅子を購入した。

ル・コルビュジェ、ピエール・ジャンヌレ、シャルロット・ペリアン／《LC4　シェーズロング》
デザイン：1928 年 / カッシーナ・イクスシー

シャルロット・ペリアン／《メリベルスツール》
デザイン：1961-62 年 / カッシーナ・イクスシー

■ハイビジョン・コーナー

1 階エントランスロビーの休憩コーナーでは、65 インチの大画面により、随時、企画展、収蔵品、椅子等の紹介映像を上映している。また今年度は、第 2 回となる公募展「カラダで・みる、うごいて・みる！」の優秀作品を上映し、公募展のさらなる周知を図った。

■トピックス

■トピックス［1］
サポーターズ・チョイス！―活動・展示報告―

2019年度MOMASコレクション第Ⅳ期では、2020年で活動20周年を迎える当館のガイド・ボランティア「美術館サポーター」約30名のアイディアをもとに、4つの小コーナーからなる展示を行った。サポーターの展示計画への参加は当館にとって初の試みで、結果、通常のMOMASコレクションとは一味違った展示空間が完成した。

■本事業における目標

展示を企画するにあたって、学芸部の展示担当者（以下、担当者）は以下の4項目を目標として設定した。

①サポーターひとりひとりの個性を生かしつつも、1つのまとまりある展示を完成させること。

②学芸員とは異なる、サポーター独自の切り口で当館のコレクションを見せること。

③事業を進めていく上で、サポーターの意思決定のプロセスを明確化・透明化し、全員が協力して円滑に展示をつくりあげていくためのシステムを構築すること。

④能力や経験値の差によって、サポーターそれぞれの仕事量に差がでないようにすること。また、各自の生活の負担になるような活動を避け、誰もが簡単に参加できるようにすること。

事業を進めていく上で判断に困った際は、サポーターや学芸部の他のスタッフに意見を求めるとともに、常にこの目標に立ち返るよう努めた。

■展示までのプロセス

基本的には、サポーターそれぞれに紙媒体やメールで意見を提出してもらい、それを担当者が整理することで準備を進めていった。意見の調整が必要な場合は、サポーターが一堂に会する月に一度の月例会で話し合いの場を設けるようにした。

6月末：展示テーマ案の募集開始

2019年6月末、目標①の達成のために、展示テーマ案の募集から企画をスタートさせた。1人につき5案までアイディアの提出を可能とし、自由な意見を聞くためにあえて無記名制にした。また、他館への貸出等で展示が不可能な作品の暫定リストを配付し、展示テーマを考える際の補助とした。

「まず1人1点ずつ好きな作品を選んで、そこから展示テーマを決めたほうが良いのでは」という意見がサポーターから出たが、この方法の場合、展示にまとまりをもたせることへの難易度が上がることから、今回は選択肢から外した。そのかわり、その後の過程で、1人1作品は自分が選んだ作品を必ず展示できるよう配慮することにした。

7月末：展示テーマ案募集〆切・提出案整理

募集締め切り時で、提出された展示テーマ案は総計47案だった。それを担当者が整理し、展示テーマ案を23案、作品の展示方法案を8案にまで絞った。客観的・学術的な視野から主観的・個人的な視点まで、多種多様な展示テーマが揃ったため、その多様性を見せることができるよう学芸部で展示方針を立てた。具体的には、展示をA～Dの4つの小コーナーに分け、展示の視点をサポーターから観覧者へ、語る側から受け手の内面的なものへと徐々にスライドさせていくことにした。

客観的 ↕ 主観的	語り手の視点 ↕ 受け手の視点	A	約20年間の作品研究・解釈の成果を見せ、作品の魅力を発信するコーナー
		B	視覚や感性に基づいて作品の造形性等を見せるコーナー
		C	ガイド経験における観覧者との対話や思い出を振り返るコーナー
		D	サポーターから作品にまつわる言葉を投げかけることで観覧者自身に鑑賞活動を深めてもらうコーナー

4つの小コーナーのうちの2つ、小コーナーA・Bについては、展示テーマ案23案のうち後述する小コーナーCに該当する2案を抜いた21案から多数決で決めることにした。

また、これまでのガイド経験における観覧者との思い出を振り返るコーナー案が2案提出されていたため、その2案をまとめて1つの小コーナーCとすることにした。このコーナーは目標②を達成する目的もあった。

小コーナーの最後の1つは、観覧者に自分のお気に入りの作品を見つけてもらうことを目的とした。サポーターから作品にまつわる言葉を投げかけることで、観覧者自身に鑑賞活動を深めてもらうコーナーの提案があったことから、この展示方法案を小コーナーDとして採用した。また、このコーナーは、前述した多数決で決める小コーナーA・Bとテーマが合致しない作品の展示希望がサポーターから出た場合に、その作品の展示の機会を確保するためのものでもあった。

8月末～9月上旬：展示テーマの決定

8月の月例会で、担当者からサポーターへ展示方針を発表し、2つの小テーマの多数決を告知した。多数決の

票は専用のプリント、もしくはメールでの提出とした。また、締め切りは9月10日とし、9月末の月例会で結果を発表できるようにした。

多数決の結果、小コーナーAでは「人物をもとにして作られた作品から作者の意図を探る展示」と「日本美術を通観する展示（＋埼玉ゆかりの作品）」の2案が同率1位だった。また、小コーナーBは「作品の『線』に注目した展示」に決定した[1]。『線』を主眼とした展示を行う場合、線描を表現のメインとする日本画の展示が増え、展示ケースが不足することが予想されたことから、小コーナーAでは人物をメインとする展示を採用することにした。

9月末～10月末：展示作品の募集、調節

9月の月例会から、決定した4つの小コーナーにあう作品の募集を開始した。各小コーナーにつき1作品ずつ、つまりサポーター1人につき合計4作品まで作品を選択可能とし、その作品を選んだ理由等を明記するようお願いした。また、展示不可作品のリストを、このときに再配付した。

10月末で作品募集を締め切り、提出された作品案を担当者が整理した。このとき、サポーター1人につき1点は、希望したコーナーで作品を必ず展示できるよう配慮した。

11月末：展示作品案発表、コーナー構成の再調整

11月の月例会で、展示作品案をサポーターに発表した。「サポーター1人につき1作品は希望したコーナーで作品を展示」を最優先したため、その案では、小コーナーCの作品数が大幅に減ってしまった。そのため、小コーナーDとの統合を担当者から提案したが、議論は「そもそも作品にまつわる言葉の『投げかけ』とは何なのか」という本質的な問題へと向かい、最終的にはコーナーの統合はしないという結論に至った。また、この議論において、サポーターそれぞれが意見を出し合うことで、人によって定義が様々であった『投げかけ』について、「作品に関する明確な答えのある質問ではなく、鑑賞に新たな視座を与えるメッセージ」という共通認識を担当者もサポーターも持つことができた。

12月末：展示方法等についての調整

今までの月例会で1番配付資料が多かったこと、また、展示室内の作品配置がまだ決定していなかったことから、11月の月例会では議論が難航した。このことを反省し、翌月は、要点をまとめ、資料を最小限にできるよう工夫した。また、作品配置案を作成し、サポーターに発表した。

展示室内の作品配置は、展示における専門的知識と経験が重要であるため学芸部で決定した。小コーナーをまたがって投票された作品に関しては、極力そのコーナー同士の境目に配置するよう努めた。また、展示ケースの配置の都合上、小コーナーCとDの順序を逆にした。

12月の月例会では「投げかけ」の展示方法や観覧者からのフィードバックの回収方法、サポーターの展示室内での記名等について議論した。議論の結果、最終的には「投げかけ」の展示はカード式が採用された。また、展示室内に観覧者が自由に書き込めるノートを設置することも検討したが、フィードバックは館内共通のアンケートからも得ることができるという意見から、多数決で否決された。

サポーターが参加していると観覧者が感じることができるもの（例：集合写真、寄せ書き等）の設置や「投げかけ」等のサポーターが執筆したものへの記名についても、12月の月例会で議論した。担当者としては、展示が完成したのはサポーターの努力の賜物であるため、サポーターによる何等かの主張物が展示室にあってもよいのではと考えていた。しかし、あるサポーターの「展示の主役はサポーターではなく作品である」という言葉により、満場一致で、設置物は作成せず、引用等も無記名で行うことになった。

2月上旬：展示完成

2月3日～5日に展示作業を学芸部で行い、作品配置の最終調整を行った。展示作業を進めていく上で作品配置案を変更する可能性があったため、サポーターには予めその旨を伝え、了承を得ておいた。実際、事前に告知した配置案から作品を2点間引き、数点配置を変更した。

タイトルである「サポーターズ・チョイス！」の頭には、サポーターの1人が展示テーマ案として提出した、頭文字を並べると「もます」となる「もっと　ますます　すきになる！」をつけた。【図1】

【図1】展示コーナーの最初に出てくる看板

章解説、および4つの小コーナーの解説文は、サポーターの意見やこれまでの議論をもとにして、担当者が執筆した。また、各小コーナーの解説文の冒頭には、サポーターによる提出物のなかでその小コーナーとの関連性が高い文

章を引用した。章解説付近には、今回の企画のプロセスやサポーターによって提出された意見をまとめたファイルを設置し、関心のある観覧者が閲覧できるようにした【図 2】。

【図 2】コーナー解説の前に机を設置し、そこで資料を自由に閲覧できるようにした。

サポーターへの展示のお披露目は、通常のMOMASコレクション展同様、会期スタート前日の夕方だった。自分の選んだ作品が展示されていることに対する喜びの声を、サポーターから聞くことができた。また、作品の選択方法がかつてないものであったため、展示室の雰囲気も普段のコレクション展とは違ったものとなり、サポーターも当館スタッフも新鮮な気持ちで展示作品と接することができた。
その後、サポーターの指摘から結界の配置等に若干の修正を加え、翌日 2 月 8 日に無事展覧会が開幕した。当初は 4 月 19 日まで展示予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により 2 月 28 日に残念ながら閉幕を迎えた。

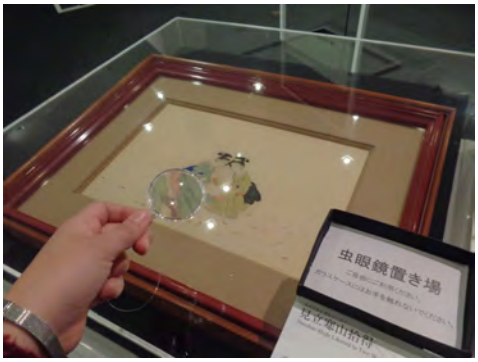
■展示構成

小コーナーA：『人物』から楽しむ

この小コーナーでは、実在する人物や、物語の登場人物など、「人物」をテーマとした作品を集めて展示した。サポーターの 20 年間にわたる作品研究・解釈の成果を見せることを目的としていたが、「作品 1 つ 1 つに文字情報をつけると逆に作品をじっくり見てもらえない可能性がある」という指摘を受けたことと、「文字情報が展示室内にありすぎると、サポーターがガイドで話すことがなくなってしまう」という声があったことから、作品についての個別の解説は掲示しなかった。そのかわり、小コーナー解説で観覧者にガイドへの参加を促す文章を記載すると同時に、コーナー解説前にファイルを設置し【図 2】、希望者はサポーターによる作品に関するコメントを閲覧できるようにした。

小コーナーB：『線』から楽しむ

作品の造形、そのなかでも「線」に焦点を当てたこの小コーナーでは、「線描を虫眼鏡で見てみたい」という意見から虫眼鏡コーナーを設置した【図 3】。また、サポーターによる展示作品案では、虫眼鏡で見ることができる作品が限られていたため、日和崎尊夫作の 2 作品を学芸部で追加し展示した。



【図 3】虫眼鏡コーナー（一部）

小コーナーD：『投げかけ』から楽しむ

このコーナーでは、観覧者に能動的な作品鑑賞を促すことで、その作品に対する解釈を新たに生み出す経験の提供を試みた。具体的には、サポーターがそれぞれお気に入りの作品についての言葉の「投げかけ」を作成し、それを観覧者に適宜読んでもらうことで、サポーターとの疑似的な会話を体験できるようにした。「投げかけ」はオープンエンドな問いが多かったが、新たな視点の示唆や、作品にまつわる話題提供など、サポーター個人の個性が光る内容となった[2]。希望する観覧者のみが見られるように、また、なにか未知のものに出会うドキドキ感を演出するために、「投げかけ」はカード状にして展示室内に設置した【図 4】。

【図 4】『投げかけ』が書かれたカード。A5 より一回り小さいサイズで、表面にモノクロの作品画像、裏面にその作品の投げかけが掲載されている。

11 月の月例会での「投げかけ」の在り方についての議論中に、サポーターから「『投げかけ』の掲示は、作品鑑賞は個々人によって解釈が変わるものであるにもかかわらず、万人に共通する絶対的な正解を求める方が現れる危険性がある。また、そのようなお客様がいらした場合、ガイド中に正解を求められても対応しきれず大変困る。」という意見があった。そのことを受け、小コーナー解説では、作品の捉え方に絶対的な正解はなく、あえていうならば、正解は鑑賞者自身の内面にあることを強調するようにした。

小コーナーC：『思い出』から楽しむ

最後の小コーナーでは、これまでのガイド経験のなかで印象に残っている観覧者との思い出を、作品とともに展示した。「投げかけ」を除くと、サポーターが展示用に書いた長文が唯一掲示されているコーナーで、すべてのエピソードを A3 用紙 1 枚にまとめ、その紙を持ちながら展示を観覧できるようにした[3]。極力書き手の文体や個性が残るよう努めたが、観覧者が読みやすくなるよう学芸部で修正をした文もあった。修正前の文章についても、コーナー解説前にファイルで設置し【図 1】、閲覧ができるようにした。

■総括

成果

作品と来館者との架け橋の役目を最前線で担うサポーターの視点を展示に取り入れることは、今後当館の事業を展開していく上で非常に示唆的な成果をもたらした。

本事業での要となった 11 月、12 月の月例会で頻繁に議論されたのは、「『お客様』にとって 1 番良い展示・サービスとはどのようなものか」ということであった。常日頃から来館者に接しているサポーターのアイディアは、来館者の鑑賞のしやすさ・作品への親しみやすさへの配慮に満ちていた。また、20 年間にわたって蓄積された美術に関する豊富な知見を展示構成に活用する一方で、サポーターの考え方の軸は常に、作品鑑賞を自由に楽しむ感覚、いわば『お客様』の目線にあった。そんな彼らだからこそ、専門的な視点をふんわりと抱き込みながらも、観る側にとってはとっつきやすいバランスのとれた展示を完成させることができたといえる。

また、本事業は、「美術館はどのようにあるべきか」ということについて再考を促す 1 つの契機となった。一般的に、美術館における作品展示は、学芸員による作品の研究成果に基づいて行うものである。このことは、展覧会の専門性や質の高さを担保する一方で、利用者に「美術館は知識を吸収するところで、なんだか難しい」という印象―キャロル・ダンカンの言葉を借りると、「神殿としてのミュージアム」のイメージ―を与える一因にもなってきた。昨今では、日本の多くの公立美術館が「神殿としてのミュージアム」の機能を残しつつも、いわゆる「フォーラムとしてのミュージアム」の持つ、他者の意見を集めそれを事業に反映することで、文化や思想の有機的プラットホームを創造・成長させていく機能の獲得への道を模索している。開館当初に「開かれた美術館」を目標とした当館もそうした美術館の 1 つであり、キュレーションを学芸員から他者へと開放した本事業はまさにその実践例となった。専門性の担保等に課題は残ったものの、学芸員とは違った新鮮な視点をサポーターが展示室に吹き込んだことは、「開かれた美術館」を目指す当館の今後の教育普及事業、およびその他の事業にも大きな寄与を残したといえるだろう。

反省

30 人弱の意見を短期間で、ある場面では強引にまとめた本事業には、反省点も多々ある。

本事業では、目標③と④の達成のため、具体的には、月例会の欠席者にも企画の進行状況を分かりやすくするために、担当者からサポーターへの配付資料が膨大になってしまった。特に目標③の達成のために必要なことであったとはいえ、極力無駄を省き、資料を読むストレスを減らす工夫が必要であったと思われる。また、資料が増えれば増えるほど、資料内で使用される言葉の定義が曖昧になり、そのことが混乱を招くこともあった。その結果が 11 月の月例会における『投げかけ』の議論であり、全員の共通認識を作りあげることができた一方で、大幅なタイムロスを生み出してしまったのも事実である。

企画の構成を進めていく上で、サポーターの活動に対して担当者が事前にどこまで企画の進め方や展示内容そのものについて方向性を示すのかも1つの大きな課題であった。サポーターをグループ分けし、グループごとに展示を考えることも企画の早い段階で検討したが、グループごとやグループ内で個人の作業負担に差がでることが予想されたことから、あくまで担当者が意見収集のシステムを整え、それに基づいてサポーターが企画を進めていく方式を選んだ。しかし、この方法の場合、システムの構築の時点でサポーターの主体的な活動にある程度の制限を課すことになってしまう。また、システムはあくまで「サポーター全員で企画を進めていくこと」に主眼を置いていたため、結果、誰が何をするにも 30 人弱で話し合いをする必要があり、機動力の低下と個性の埋没化を招いたといえる。ボランティアの主体性や事業への関わりの度合いは、多くの日本の公立美術館で議論が続けられている題目である。本事業は、国内でも最初期にボランティア制度を導入した当

館も、20年の時を経てその制度の見直しの岐路に立たされていることを実感させるものであったといえるだろう。

■担当後記

◆新型コロナウイルスの感染拡大による臨時休館が始まりしばらくしたころ、あるサポーターから担当者宛てに手紙が届いた。企画のスタート時はあまり乗り気ではなかったが、月例会を重ねるうちにだんだん開幕が楽しみになっていった旨、また、不本意なかたちで展覧会が終わってしまったけれども、重要なのは結果ではなく企画を進めていく過程であったと思うという旨がしたためられていた。サポーターの約半年間にわたる尽力を思うとやはりやるせない気持ちがこみ上げてくるが、そう考え、伝えてくれる人がいたことは、担当者として非常に心救われる出来事であった。

◆総括に記した「開かれた美術館」や「ボランティアの主体性」の問題は、すぐに結果が出るものではなく、本事業以上に長期にわたる他者との語らいの過程により解決の糸口がつかめるものである。今回の結果の悔しさをバネに、他者との語らいを、そして「フォーラムとしてのミュージアム」の機能充実を今後も継続していきたい。

◆美術館サポーターのみなさまには、大変なご迷惑をおかけしたとともに、多くのご協力を賜りました。みなさまと共に駆け抜けた約半年間の過程は、私にとって本当に貴重な経験で、大切な宝物です。重ねてとなりますが、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。（喜多春月）

註

1．3位までの投票結果は以下のとおりだった。

小コーナーA

1位（9票）

・人物をもとにして作られた作品から作者の意図を探る展示

・日本美術を通観する展示（＋埼玉ゆかりの作品）

2位（8票）

・戦争に関連深い作家・作品の展示

・固定観念を覆したり、時代のさきがけとなったりした作品の展示

3位（6票）

・「彩」なコレクション（彩、災、祭、など、「さい」にまつわる作品の展示）

小コーナーB

1位（10票）

・作品の「線」に注目した展示

2位（8票）

・じっと見つめていると何かが見えてきそうな作品の展示

3位（7票）

・思わず笑ってしまう作品の展示

2．実際に展示された投げかけを数点紹介する。

ジョルジュ・ルオー《横向きのピエロ》（1925年頃）

このピエロはどんな表情に見えますか?
演技を終えてほっとしている?
それともこれからが出番で落ちつこうとしている?
瞑想しているのでしょうか?
うすら笑いを浮かべているようにも見えますね。
その日のあなたの状態でいろいろなピエロが見えてくるかもしれません。

元永定正《聖火》（1964年）

2020年7月、二度目の東京オリンピックが開催されます。
キューポラの街川口の鋳物職人の方々が何度も試作を重ねて制作した61年前の聖火台が、川口駅に里帰り展示されています。
元永さんの聖火はどのように見えますか?
あなたが聖火台を造るとしたら、どんなかたちにしたいですか?

小茂田青樹《鳴鶏》（1930年）

大きな屏風の面にほとんど鶏達だけが描かれていますね。
鶏の走り回る足音や鳴き声が聞こえてきませんか。
さあ、耳を澄ませて絵の中に入ってみましょう。
あなたにはどんな景色が広がってきますか。
あっ、雄鶏が一声鳴いた！

3. 実際に展示室に展示されたエピソードを数点紹介する。

ジャン・アルプ《パラを食べるもの》（1963年）

お客様に、この作品が何を食べていると思うか聞いてみたんです。そうしたら、皆が納得の「どんぐり」や、素敵な「夢」という答えが返ってきて、それで満場一致かと私は思っていました。けれども、その次のお客様の発言は、なんと「食べているのではなく、言葉を吐き出している。しかも皮肉や批判」！まさにパラダイムの転換で、作品の表情まで違って見えてきました。最後に題名を伝えても、皆さん「あら、それもいいけど、私のアイディアもなかなかだわ〜」と眩しい自信。こんな鑑賞体験を一番喜んでくれたであろう人は、きっとアルプ本人でしょうね。

小林清親《猫と提灯》（1876年）

「昔飼っていた猫に似ているわ」、「最近こういう猫見かけなくなったわね」とお客様方。その後、それぞれの飼い猫自慢が始まりました。猫好きな人多いんですね。

■トピックス［2］
公募展「カラダで･みる、うごいて･みる！」

学校との連携強化と、図工･美術教育の発展を目的に、埼玉県内の小･中学校、高等学校、特別支援学校の児童･生徒を対象に本事業を開催した。当館収蔵作品の鑑賞をもとに受け取ったイメージを、身体を使った動きで表現し、短い映像に記録したものを募集した。7校から23グループ、計128人が参加した。

10月18日（金）に当館創作室において、建畠哲館長、加藤哲之副館長、ダンスアーティスト／体奏家・新井英夫氏、平野到学芸主幹、矢嶋梨恵教育・広報担当課長が審査を行い、以下の入賞作品と入選作品を決定した。

受賞作品は11月14日（木）から3月29日（日）まで、エントランスロビーのテレビモニターにて上映予定だったが、新型コロナウイルスの感染予防対策のための臨時休館により、2月28日（金）までの上映となった。

■入賞作品

※学校名／グループ名／鑑賞作品の順に記載。

①総合グランプリ
川口市立上青木中学校／Satans♡／北川民次《眠るインディアン》

②総合準グランプリ
川口市立上青木中学校／いくら／クロード・モネ《ジヴェルニーの積みわら、夕日》

③中学校グランプリ
上尾市立大石中学校／Art 7 Dash／ラスロ・モホリ＝ナジ《フォトグラム》

④中学校準グランプリ
伊奈町立南中学校／NATTO’s／ジャン・アルプ《バラを食べるもの》

⑤中学校準グランプリ
上尾市立太平中学校／いちごミルク／北川民次《眠るインディアン》

⑥特別支援学校（級）グランプリ
埼玉県立特別支援学校さいたま桜高等学園／ミステリーモンスター／ジャン・アルプ《バラを食べるもの》

■担当後記

◆公募展「カラダで・みる、うごいて・みる！」は第２回を迎え、課題作品を様々な角度から感じ取り、作品を深く読み込んで取り組んだグループが多く見られた。絵画を横から見た状態を表現したり、作品の様子から明るい場所や暗い場所を使い分けて演出したりと、子供たちの感性の豊かさが表れていた。

◆受賞作品を美術館のエントランスロビーで上映することで地域の方に公募展の存在を知っていただけた。また、参加校以外の子供にも公募展の存在を知らせ、興味をもたせることができた。

◆参加校からは子供たちが自発的に作品について話し合っていたという声があった。しかし、前年度に比べ、参加校数が減っている。提出作品が動画という点から着手できない先生もいたようである。応募から提出までを簡潔に行えるような体制を検討し、さらに広報を強化して周知を図って、次年度も実施していきたいと考える。

（飯田淳乃）

■トピックス［3］
ＳＭＦとの連携

文化庁のモデル事業・補助事業として、地域と共働したさまざまなアートプログラムやアウトリーチ活動を展開する事業を手がける中で、2013 年に新体制で発足したサイタマミューズフォーラム（SMF／ Saitama Muse Forum）。

事業名や枠組みは少しずつ変わりながらも、入間市博物館、うらわ美術館、川口市立アートギャラリー・アトリア、川越市立美術館、埼玉県立近代美術館という県内の公立ミュージアム５館がゆるやかに連携して実行委員会をつくり、文化庁の支援を得る事業を数多く実施してきた。

そうした成果を生かして、連携美術館・博物館をキーステーションとしながら、連携美術館・博物館に限定されない活動や、さまざまなジャンルを超えた協働がＳＭＦを母胎として生まれてきている。それらをどのように組織化して、地域連携の新たなモデルを構築するかが今後の課題となっている。

令和元年度は、このような長期的な目標を視野に入れて、今後の活動を見据えた活動が展開された。以下では、当館との連携事業を紹介する。

※ SMFの趣旨・これまでの活動等については、ＳＭＦホームページ http://www.artplatform.jp 参照。

■ ＳＭＦプログラム

当館が土曜日に開催している普及事業「MOMASのとびら」への協力を依頼し、以下のワークショップの講師を派遣していただいた。

※「MOMASのとびら」については、p.80 を参照。

・工房ＳＭＦ「化石発掘★簡単鋳造で古代の生き物をつくろう！」／ 2020 年 2 月 8 日／講師：矢花俊樹（金工家）／参加者：27 名

・工房ＳＭＦ「光るたまごをつくろう！」／ 2020 年 3 月 21 日実施予定／講師：みゃうか（アーティスト）

※新型コロナウイルス感染予防対策のため中止。

■ 宝船展 2020

新型コロナウイルス感染予防対策のため中止

SMF Press vol.43 Feb. 2020

MOMASのとびら
化石発掘★簡単鋳造で古代の生き物をつくろう!
2020年2月8日（土） 埼玉県立近代美術館 創作室
講師：矢花俊樹

埼玉県立近代美術館では毎週土曜日、子どもから大人までを対象とする「MOMASのとびら」という イベントが行われています。2月8日（土）のMOMASのとびらでは、SMFのメンバーでもある矢花俊樹さんによる、「化石発掘★簡単鋳造で古代の生き物をつくろう!」と題したワークショップが開催されました。矢花さんは、金工作家でありながらワークショップの企画・運営にも取り組んでいます。

小学校1年生から大人まで27名の参加者が集ったなかに、優しい姿の矢花さんが登場。その姿を見て、「ダンゴムシ!」「毛虫!」などの声が。「みんなはなんていう生き物?」「みんながいることはどこ?」「今日は、大昔の昆虫について考えて、作品を作ってみよう!」

まずはペンタゴンに出て化石探り。土の焼きハンマーで砕くと中から、三葉虫やアンモナイトの他、殻かも、貝殻、ゴキブリ等さまざまのかっぱえびせんアマの化石のようなものが出てに興奮に戻ると本物の化石観察タイムです。様々な種類の三葉虫の化石（これは本物!）を虫眼鏡で観察すると、脚がたくさんだったり凸凹だったり、古代の昆虫の不思議な形が見えてきます。「掘り出したもの、持って帰れるの?」「いやいや、今日はみんな、オリジナルの三葉虫を作ってみるよ!」

三葉虫の形は、ステレンボードを貼り重ねて作っていきます。これだけでも強力粉を混ぜけど、今日はそれで事わりりではありません。この三葉虫の形を基準に、銅という金属で硬くて輝くオリジナル三葉虫に仕上げます。

出てきたものは、虫は花などに塗ラオアシスです。ステレンボードで作った三葉虫の胴体をオアシスに押し付けて凹みをつけます。そこに神経を塗って、脚や顔の突起になる凹みも増やしていきます。上下2つのオアシスを合わせて、金属を流し込むための通道・湯口もつくって鋳型が完成!このなかに、ドロドロに溶けた銅（銅は232℃でとけます。）を流し込みます。

ここまで来たら、待つばかり。矢花さんの号令のもと、慎ゆにオアシス鋳型を開っていきます。中からは、ステレンボードの横から脚が生え、顔が生えて、金属製になって、近義した姿の様々な三葉虫たち!手そうな、のんびりそうな、おしゃべりそうな、古いしんぱそうな…個性豊かな三葉虫が、炉中から見つかる化石のように出現しました。金属を流し込む中で生じた思いがけない形や、金属にをったことによる印象の変化など、作った本人も新しい発見があり、驚いて、もっとお気に入りになっていきます。

通常はみんなの三葉虫を1つの鉢に集めて鋳造中。どれもとても魅力的です。それぞれの表現を楽しむとともに、美術が持つ手仕の力や技術の力を感じることが出来るワークショップでした。

3月21日（土）のMOMASのとびらでも、SMFメンバーのみゃうかさんが実施に登場します。SMFは様々な事業で様々な機関と連携して、アートとの出会い、アーティストとの出会いをつくっています。

http://www.artplatform.jp
https://www.facebook.com/Saitama.Muse.Forum/

「MOMASのとびら　化石発掘★簡単鋳造で古代の生き物をつくろう！」の紹介

■埼玉県立近代美術館フレンド

埼玉県立近代美術館フレンドは、会員が美術館の情報を直接受け取ることで美術館活動に積極的に参加し、また会員相互の交流を深め、美術館活動を支援することを目的としている。略称：ファムス（fam.s ＝ friends of art museum, saitama）。

■会員数

475 件（令和 2 年 3 月 31 日現在）
内訳：一般会員 293 人、ペア会員 66 人、学生会員 8 人、家族会員 53 家族（176 人）、賛助会員（個人） 15 人、賛助会員（法人） 17 団体、特別賛助会員 23 団体

■活動内容

1. 企画委員会

①ファムスコンサート 2019／4 月 13 日（土）／実施場所：地下 1 階センターホール／演奏者：箏曲者・大谷祥子、箏・三絃演奏家・近藤智子／参加者:45 名（会員限定）
②ファムス日帰り見学会「心に響くアートに出会う旅」／5 月 22 日（水）／見学地：吉岡正人氏アトリエ、原爆の図丸木美術館、遠山記念館、五大尊花木公園／参加者:33 名（うち会員 22 名）
③ファムス 1 泊 2 日美術館見学会「長野・山梨美術館巡り」／10 月 22 日（火）～ 10 月 23 日（水）／山梨県立美術館、世界の影絵・切り絵・ガラス・オルゴール美術館、美ヶ原高原美術館、松本市美術館／参加者:20 名（会員限定）
④ファムス現地集合見学会「魅惑の世田谷探訪会」の開催／11 月 16 日（土）／二子玉川（静嘉堂文庫、静嘉堂文庫美術館、岩崎家霊廟、旧小坂家住宅）／参加者：17 名（会員限定）

2. 広報委員会

①『ファムス通信』第 41 号の発行（5 月）
②『ファムス通信』第 42 号の発行（11 月）

3. ミュージアム・ショップ運営委員会

①サマーセールの開催／8 月1日（木）～ 8 月 31 日（土）
②新規業者の開拓
③その他

4. 事務局

①『平成 30 年度フレンド年報』の発行（7 月）
②会員募集キャンペーンの実施
③館内の広報強化
④会員限定ギャラリー・トーク＆懇親会（10 月 4 日）
⑤会員限定ギャラリー・トークの実施（2 月 17 日）

■担当後記

美術館の協力を得て、事務局と企画委員会の合同による会員限定ギャラリー・トークを年 2 回実施した。また、会員との懇親会を初めて実施した。通常の美術館の開館時間外に実施したことにより、ゆっくり作品を鑑賞することができ、会員の方から大変好評を得ることができた。次年度も様々な事業を開催し、美術館活動に貢献したい。

（事務局・野口恵子）

■埼玉県立近代美術館フレンド役員名簿

令和 2 年 3 月 31 日現在

氏名	現職等	備考
清水　武司	秩父地域利用者 写真家	会長
内田　和子	秩父地域利用者	副会長
丸山　　晃	県西地域利用者 （株）埼玉新聞社相談役	
小林　　真	秩父地域利用者 デザイナー （株）コア 代表	広報委員
滝沢　布沙	県北地域利用者 染色家	
水野　晶子	県南地域利用者	ミュージアム・ショップ運営委員長
金川　京子	県南地域利用者	広報委員長
依田　衣恵	県南地域利用者	企画委員
武島　　裕	秩父地域利用者	
真砂　和敏	県東利用者 (株)テレビ埼玉常務取締役	
田沼　利将	県南地域利用者 (公財)長島記念財団常務理事	監事
遠藤　俊明	東部地域利用者	監事

■貸館事業

当館地階には県内の美術団体や美術家の作品発表の場として、一般展示室１～４が設けられている。この一般展示室が、美術館の目的や運営方針にふさわしい利用に供されるよう利用申し込みについて審査するため、埼玉県立近代美術館利用審査会が設置されている。

また、講演会や集会などの会場として講堂を貸し出している。令和元年度の一般展示室の利用状況は次表のとおりで、団体展、グループ展、個展などの形態で、日本画、洋画、彫塑、現代美術、書、写真などさまざまな分野の作品が展示された。

一般展示室

・利用単位：1週間（月曜日の午後1時→翌週月曜日正午）。連続の場合は最長3週間。

・使用料（1週間につき）：
一般展示室 1―238,700円、2―92,400円、3―53,900円、4―30,800円
（令和元年10月改定後）

講堂

・利用単位：1時間

・使用料：1時間あたり2,200円
（令和元年10月改定後）

■一般展示室利用状況

No.	展覧会名	開催期間 H30年度 自	至	開催日数 (日)	利用室	分野	展示点数 (点)	観覧者数 (人)	一日平均観覧者数 (人)
1	ともにあるく	4月2日	4月7日	6	4	創作人形	23	405	67
2	群炎埼玉支部展	4月9日	4月14日	6	2	水彩、油彩、彫刻、工芸、写真ほか	56	531	88
3	第10回関口健司展	4月9日	4月14日	6	3	水彩	44	312	52
4	第29回渓水会展	4月9日	4月14日	6	4	日本画、水彩、油彩、書、水墨画ほか	61	517	86
5	第35回記念さいたま閨秀選100展	4月16日	4月21日	6	1	書	78	906	151
6	第13回フォト・トルトゥーガ展	4月16日	4月21日	6	4	写真	81	1,029	171
7	2019阿佐見昭彦写真展“秘やかな記憶Ⅳ”	4月16日	4月21日	6	3	写真	38	992	165
8	第13回彩ボタニカルアート展	4月16日	4月21日	6	4	水彩	42	586	97
9	浦和写真クラブ作品展	4月23日	4月28日	6	2	写真	78	1,643	273
10	第7回栗田ひさし、梨伽絵画二人展	4月23日	4月28日	6	3	日本画、水彩、色鉛筆	52	986	164
11	彩画会展	4月23日	4月28日	6	4	油彩、日本画、水彩	35	930	155
12	埼玉女流工芸展	4月25日	4月28日	4	1	工芸	169	1,304	326
13	埼玉二科展	4月30日	5月5日	6	1～4	油彩、彫刻、デザイン	150	1,325	220
14	第69回埼玉県美術展覧会（県展）	5月28日	6月19日	20	1～4	日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真	1,988	28,726	1,436
15	第38回埼玉県高等学校写真展	6月26日	6月30日	5	1	写真	1,068	1,344	268
16	さいたま市中央区美術家協会展	6月26日	6月30日	5	2	日本画、水彩、油彩、版画、彫刻、工芸ほか	99	1,007	201
17	第38回キヤノンフォトクラブ浦和写真展	6月26日	6月30日	5	3	写真	35	645	129
18	創作50周年記念宮沢善三油絵展	6月26日	6月30日	5	4	油彩	40	423	84
19	埼玉独立展	7月2日	7月7日	6	1	油彩、アクリルほか	89	586	97
20	2019埼玉モダンアート展	7月2日	7月7日	6	2・3	水彩、油彩、版画、スペースアート	23	600	100
21	武蔵野美術大学卒業生会東京埼玉支部展	7月9日	7月14日	6	1	日本画、水彩、油彩、版画、彫刻、工芸ほか	104	1,315	219
22	第26回基の会展	7月9日	7月14日	6	2	油彩、アクリル	19	736	122
23	第32回白の会洋画展	7月9日	7月14日	6	3	油彩	22	684	114
24	第6回下落合フォトクラブ写真展（創立10周年記念）	7月9日	7月14日	6	4	写真	79	654	109
25	第46回埼玉二紀展	7月23日	7月28日	6	1～4	油彩、彫刻	103	1,392	232
26	新構造埼玉展	7月30日	8月4日	6	1	油彩、水彩、ドローイング、版画ほか	95	1,049	174
27	第29回旺玄会埼玉支部展	7月30日	8月4日	6	3・4	水彩、油彩、日本画、版画、ミクストメディア	58	880	146
28	15周年記念水彩連盟埼玉西支部展	8月6日	8月11日	6	1	水彩	60	1,148	191
29	新井田宇謙木彫展「幻想のさわり心地.感受性の肉」	8月6日	8月11日	6	4	彫刻	14	874	145
30	第53回埼玉平和美術展	8月13日	8月18日	6	1～4	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	343	2,202	367
31	4人はバラバラでもいっしょ展	8月20日	8月25日	6	2	水彩、油彩、版画、切り絵、アクリル画	115	870	145
32	ほうりきみわ写真展2019	8月20日	8月25日	6	4	写真	47	722	120
33	第33回墨芳展	8月21日	8月25日	5	1・3	書	119	824	164
34	ムサ美埼玉2019展	8月27日	9月1日	6	1	日本画、水彩、油彩、ドローイング、版画ほか	120	963	160
35	現代中国芸術国際交流展	8月27日	9月1日	6	2	油彩、版画、水墨画	30	720	120
36	第19回写真サークル「観悠」作品展	8月27日	9月1日	6	3	写真	47	472	78
37	ヨシズミ　トシオ展	8月27日	9月8日	12	4	油彩、ドローイング、版画、水墨画	39	1,171	97
38	第33回埼玉創元展	9月3日	9月8日	6	1	日本画、水彩、油彩、版画、アクリル画	90	1,005	167
39	第28回工芸新樹会公募展	9月3日	9月8日	6	2	工芸	52	779	129
40	第7回私の自然展	9月3日	9月8日	6	3	写真	51	626	104
41	第63回埼玉書道展	9月12日	9月15日	4	1～4	書	883	1,546	386
42	第36回埼玉県写真サロン	9月17日	9月22日	6	1	写真	531	1,190	198
43	フォト・サークル・オプト写真展	9月17日	9月22日	6	3	写真	129	914	152
44	tan tan tanの宝物～2019～	9月17日	9月22日	6	4	パステル、点描曼荼羅	192	396	66
45	第3回公募ＺＥＮ展	9月24日	9月29日	6	1	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	185	946	157

No.	展覧会名	開催期間 H30年度		開催日数	利用室	分野	展示点数	観覧者数	一日平均観覧者数
		自	至	(日)			(点)	(人)	(人)
46	フォトグループWAVE第33回写真展	9月24日	9月29日	6	3	写真	81	447	74
47	21th 2019 BANSEI EXHIBITION	9月24日	9月29日	6	4	インスタレーション	50	446	74
48	ART PHOTOGRAPHY ICHIE 2019展	10月1日	10月6日	6	1	写真	97	730	121
49	第35回アート現宇展	10月1日	10月6日	6	2	油彩、アクリル、コラージュ	47	520	86
50	第12回六甲長浜写真展 私の外遊日誌Ⅳベトナム編	10月1日	10月6日	6	3	写真	60	541	90
51	第52回第一美術協会埼玉支部展	10月8日	10月11日	4	1	水彩、油彩、版画、工芸ほか	169	861	215
52	第19回美術協会純展埼玉支部展	10月8日	10月11日	4	2	水彩、油彩、ペン画	48	464	116
53	musa2ムサ通アート&デザイン展2019	10月8日	10月11日	4	3	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	40	460	115
54	第30回渓水会展	10月8日	10月11日	4	4	日本画、水彩、油彩、書、水墨画ほか	55	478	119
55	第31回全日中展・日中書画芸術大展	10月15日	10月20日	6	1～3	日本画、水彩、書、水墨画	360	1,222	203
56	ひとととひと　個展	10月15日	10月20日	6	4	油彩	38	608	101
57	太平洋埼玉展	10月22日	10月27日	6	1	水彩、油彩、版画	108	1.030	171
58	埼玉三軌展	10月22日	10月27日	6	2	水彩、油彩	28	739	123
59	全日写連浦和支部写真展	10月22日	10月27日	6	4	写真	45	608	101
60	第20回地平展	10月29日	11月3日	6	1	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	94	883	147
61	悠友展	10月29日	11月3日	6	2・3	水彩、油彩	47	807	134
62	西遊会展	10月29日	11月3日	6	4	水彩、油彩、版画	59	756	126
63	2019CAFネビュラ展	11月6日	11月17日	11	1～4	日本画、油彩、版画、彫刻ほか	96	2,321	211
64	第62回埼玉県高校美術展	11月20日	11月24日	5	1～4	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	826	2,357	471
65	第58回埼玉県高等学校書道展	11月26日	12月1日	6	1～4	書	763	1,556	259
66	パインツリーキルト教室作品展	12月3日	12月8日	6	3	パッチワーク	85	658	109
67	第10回五彩展	12月3日	12月8日	6	4	水彩、油彩、ドローイング、和紙画ほか	55	777	129
68	第10回埼玉県障害者アート企画展 "knock art 10"	12月4日	12月8日	5	1・2	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	479	1,584	316
69	第53回全日本書道芸術展	12月10日	12月15日	6	1・2	書、墨象、ペン字、墨アート	223	471	78
70	吉田穂重作品展「埼玉の自然を描く」	12月10日	12月15日	6	3	油彩	18	693	115
71	年歩む二人展	12月10日	12月15日	6	3	油彩、染絵	35	787	131
72	池谷世史己展	12月17日	12月22日	6	4	アクリル	14	344	57
73	第23回凛の会展	1月7日	1月12日	6	1～4	油彩、彫刻、写真	177	699	116
74	第44回埼書連役員新春展	1月14日	1月19日	6	1～4	書	267	1,018	169
75	埼玉国展	1月21日	1月26日	6	1	油彩、写真	75	911	151
76	第15期写真展 第八写真展 第三写真クラブ	1月21日	1月26日	6	2	写真	116	744	124
77	第10回ニッコールクラブさいたま支部写真展	1月21日	1月26日	6	4	写真	63	919	153
78	文教大学教育学部学校教育課程美術専修令和元年度卒業制作展	1月28日	2月2日	6	1	日本画、油彩、版画、彫刻、工芸、映像	132	655	109
79	椿会　創作人形展	1月28日	2月2日	6	4	人形	120	813	135
80	埼玉県美術系高等学校作品展・卒展	2月5日	2月9日	5	1～4	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	1,000	1,473	294
81	野美展	2月11日	2月16日	6	2	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	57	688	114
82	第16回ネーチャーフォト支部展示会	2月11日	2月16日	6	4	写真	95	1,100	183
83	埼玉県小中学校等児童生徒美術展中央展	2月15日	2月16日	2	1	水彩、版画、彫刻、工芸	200	1,309	654
84	埼玉大学教育学部卒業制作展／修了展／有志展覧会彩展	2月18日	2月23日	6	1	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	55	577	96
85	第１３回　彩の会	2月18日	2月23日	6	2～4	日本画、水彩、油彩、ドローイングほか	86	770	128
86	ヨシズミ　トシオ展	2月25日	2月28日	12	4	油彩、版画、水墨画、銅版画	41	204	17

■入館者数一覧

平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日の入館状況。ただし令和 2 年 2 月 29 日からは臨時休館。

		入館者数	展示事業						
			MOMAS コレクション	企画展示					
				ブラジル先住民の椅子	May I Start? 計良宏文の越境するペアメイク	DECODE/ 出来事と記録 ―ポスト工業化社会の美術	ニューヨーク・アートシーン	森田恒友展	企画展計
開催期間		4/2(火)～2/28(金)	4/2(火)～2/28(金)	4/6(土)～5/19(日)	7/6(土)～9/1(日)	9/14(火)～11/4(日)	11/14(水)～1/19(日)	2/1(土)～2/28(日)	
(日) 日数		282	144	40	52	46	52	25	215
(人) 観覧者数 利用者数		210,761	35,464	5,529	8,902	4,202	10,659	2,742	32,034
(人) 1日当たり 平均		747	246	138	171	91	204	109	148
有料	一般個人	入館料 無料	8,258	2,487	2,834	1,441	4,821	1,291	12,874
	一般団体		1,607	286	334	223	404	101	1,348
	大高個人		615	145	366	167	420	44	1,142
	大高団体		24	8	573	1	6	1	589
	(人) 合計		10,504	2,926	4,107	1,832	5,651	1,437	15,953
(人) 無料		–	24,960	2,603	4,795	2,370	5,008	1,305	16,081

		普及事業					貸館事業	
		企画展関連	MOMAS コレクション関連	教育・普及関連	SMFアート関連	資料閲覧室	一般展示室	埼玉県美術展覧会
開催期間		4/14(日) ほか	5/26(日) ほか	4/9(土) ほか	4/1(月)～2/28(金)	4/1(月)～2/28(金)	4/1(月)～2/28(金)	5/29(水)～6/20(木)
(日) 日数		23	8	40	–	281	219	20
(人) 観覧者数 利用者数		1,436	142	3,265	–	2,487	75,177	28,726
(人) 1日当たり 平均		62	18	82	–	9	343	1,436
有料	一般個人	–	–	–	–	–	–	–
	一般団体							
	大高個人							
	大高団体							
	(人) 合計							
(人) 無料		–	–	–	–	–	–	–

月別入館者数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
(人) 入館者数	17,613	21,126	30,585	15,195	20,958	17,281	16,163	23,692	14,136	15,833	18,179	0	210,761

■名簿

■埼玉県立近代美術館協議会委員

令和２年３月31日現在

選出区分	氏　名	現　職
学校教育関係者	菅原　京子	埼玉県市町村教育委員会連合会会長 川口市教育委員会委員
	中川　昇次	埼玉県美術教育連盟連盟長 さいたま市立片柳中学校長
社会教育関係者	相馬　千秋	ＮＰＯ法人芸術公社　代表理事 立教大学現代心理学部特任准教授
	松岡　滋	埼玉県美術家協会会長 洋画家
家庭教育関係者	小田倉　泉	埼玉大学准教授 さいたま市幼児教育推進委員
学識経験者	岡村　文和	ＮＨＫさいたま放送局副局長
	加藤　有希子	埼玉大学基盤教育研究センター 准教授
	田村　禮子	絵画教室主宰 水彩画家
	新倉　美佳	美術批評誌「MAPPING」事務局
	樋口　昌樹	（株）ザ・ギンザ ザ・ギンザ　スペースディレクター
	三上　豊	和光大学表現学部教授 東京文化財研究所客員研究員
	宮本　重雄	中央労働金庫常務理事 埼玉県本部担当

■埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会委員

令和２年３月31日現在

氏　名	現　職	任　期
滝沢　恭司	町田市立国際版画美術館 担当課長兼学芸係長	R1.6.7～R3.6.6
山本　和弘	栃木県立美術館 主任研究員	R1.6.7～R3.6.6
野地　耕一郎	泉屋博古館分館長 兼学芸課長	R1.6.7～R3.6.6
山梨　俊夫	国立国際美術館長	R1.6.7～R3.6.6
樋田　豊次郎	東京都庭園美術館長	R1.6.7～R3.6.6

■埼玉県立近代美術館利用審査会委員

令和２年３月31日現在

氏　名	現　職	任　期
飯野　一朗	彫金作家 東京藝術大学名誉教授	H31.1.15～R3.1.14
栗崎　浩一路	書家 熊谷市美術家協会顧問	H31.1.15～R3.1.14
小澤　基弘	洋画家 埼玉大学教育学部教授	H31.1.15～R3.1.14
吉武　研司	洋画家 独立美術協会会員	H31.1.15～R3.1.14
内藤　五琅	日本画家	H31.1.15～R3.1.14

■埼玉県立近代美術館職員

令和２年３月31日現在

担　当	職　名	氏　名
	館　長	建畠　哲
	副　館　長	加藤　哲之
総務、管理担当	教育主幹	塩野谷　孝志
総務担当	担当課長	藤川　奈美子
	主　任	石井　陽子
	主　事	福田　健一
	（　嘱　託　）	福田　紘顯
管理担当	担当課長	小辻　久美子
	主　任	黒木　慎一
	主　事	入江　一嘉
	主　事	清水　伸夫
企画展、教育・広報、常設展・収蔵品担当	学芸主幹	平野　到
企画展担当	学芸主幹	梅津　元
	学　芸　員	吉岡　知子
	学　芸　員	大浦　周
	学　芸　員	鴫原　悠
教育・広報担当	担当課長	矢嶋　梨恵
	主任専門員兼学芸員	大越　久子
	主　任	谷田　昇平
	主　事	飯田　淳乃
	学　芸　員	石井　富久
	（　嘱　託　）	喜多　春月
常設展・収蔵品担当	学　芸　員	五味　良子
	学　芸　員	菊地　真央
	学　芸　員	佐原　しおり
	（　嘱　託　）	小菅　千鶴

埼玉県立近代美術館年報[平成31／令和元年度]

発　行：埼玉県立近代美術館
〒330-0061　さいたま市浦和区常盤 9-30-1
電話：048-824-0111(代)／ファクス：048-824-0119（代）
https://pref.spec.ed.jp/momas/
発行日：令和 3 年 3 月26日